

しまね学習支援プログラム

家庭教育支援を行う人のための

親学

プログラム

みんなで
楽しく
語り合う

気づきを
大切にする

親同士が
つながる



島根県立東部社会教育研修センター
島根県立西部社会教育研修センター

家庭教育支援を行う人のための

「親学プログラム」について

近年、都市化や核家族化、少子化の進展、高度情報化など急激な社会の変化を背景に、家庭の教育力の低下が懸念されており、本来は私的な領域である家庭教育に関して、行政が支援するとともに、社会全体で家庭教育を支援することが求められています。

島根県立東部・西部社会教育研修センターでは、平成22年度から家庭教育支援のための「親学プログラム」の普及・開発に努めてまいりました。本プログラムは、家庭教育支援を行う人が、主に乳幼児から中学生をもつ親（保護者）を対象に、親としての役割や子どもとのかかわり方の気づきを促すために活用する学習プログラムです。

本プログラムを活用し、親同士が語り合いながら学習することで、気づきによる親自身の学びに加え、交流を図ることによる親同士の関係づくりや地域全体で家庭教育を支援するネットワークづくりにも役立つと考えています。

県内各地の保育所、幼稚園、小・中学校や公民館等社会教育施設、子育て支援センター等の様々な場や機会でも本プログラムを活用した学習が行われ、社会全体で家庭教育支援の気運が醸成されることを期待しています。

おわりに、本プログラムの普及・開発にあたり、ご指導、ご支援を賜りました関係機関の皆様方に心からお礼申し上げます。

平成24年3月

島根県立東部社会教育研修センター 所長 下岡 博司

島根県立西部社会教育研修センター 所長 安野 光城

目 次

親学プログラムをご利用いただくにあたって

プログラムの概要	4
プログラムの進め方	5
ファシリテーターの役割	6
親学プログラムの効果的な実践例	8
プログラムの種類	10

1 親としての心構え

1-① 新米ママ・パパへのメッセージ	12
1-② あなたならどうする？	14
1-③ 子どもに示したい大人のふるまい	16
1-④ 素晴らしき思春期	18

2 親子のコミュニケーション

2-① 聞く耳ってどんな耳？	20
2-② 子どもに伝えるのって難しい！	22
2-③ 私のほめ方・しかり方	24
2-④ 心に響く伝え方	26

3 生活リズム

3-① 目指せ！早寝・早起き・朝ご飯	28
3-② 朝食は目覚めのスイッチ	30

4 しつけとルール

4-① 親のしつけは子どもへの大切な贈り物	32
4-② 我が家のルールづくり大作戦！	34
4-③ しかる基準は？	36
4-④ 誰が決めるの？	38
4-⑤ 子どもにとってのお手伝い	40
4-⑥ 子どもに本当に必要ですか？	42
4-⑦ 家庭学習の習慣をつけるために	44
4-⑧ ケータイ・インターネットとのつきあい方	46

5 安全と健康

5-① 身近なところに危険がいっぱい	48
5-② 危険箇所を考えよう	50
5-③ 食生活を見直そう	52

6 遊びと体験

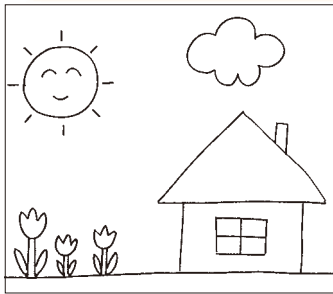
6-① あそびのススメ	54
6-② 子どもにさせたい体験は？	56

7 個性と夢

7-① もし、子どもが〇〇で育ったら	58
7-② こんな子どもに育ててほしい	60
7-③ わが子のPR～短所も長所～	62

資料

ワークシート集	64
アイスブレイク資料	96
アドバイスタイム資料	108
生活リズムの確立に向けて	118
子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります！	119



親学プログラムを 活用した 学習の様子



子育てについて
楽しく語り合っています



親学プログラムをご利用いただくにあたって

1 プログラムの概要

(1) プログラムの特徴

このプログラムは乳幼児から中学生の親（保護者）を対象とした学習機会（研修・講座・懇談会等）に活用できます。

参加型学習の様々な手法を用いて、参加者同士が交流しながら、ともに活動することを通して、**親としての役割や子どもとのかかわり方の気づきを促す**ことをねらいとしています。

- 保育所職員、幼稚園、小・中学校等の教職員や公民館職員、子育て支援センター職員等がファシリテーターとなり、活用できるように作成しています。
- 一つ一つの学習プログラムは「進行表」「進行マニュアル」「ワークシート」で構成しています。
- 参加者は10～20人程度が最も適しています。また、各プログラムに要する時間は50～90分を想定しています。

参加型学習	参加者が受け手や聞き手として参加するだけでなく、参加者同士が積極的に交流しながら、ともに活動することで、自らの気づきや行動変容を促すことを目的とした学習方法。
ファシリテーター	参加者の積極的な参加を促し、参加者相互のコミュニケーションが円滑に行われる環境をつくるために、「司会者」「支援者」「道化役」などの複数の役割を演じる進行役のこと。

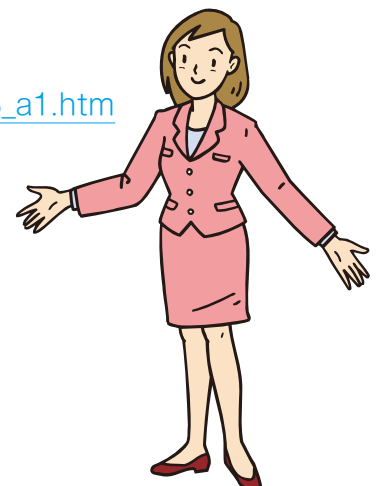
(2) プログラムの7テーマ

文部科学省は子育て中の親に対して『家庭教育手帳』を発行し、子どもの健やかな成長を支援しています。この親学プログラムは『家庭教育手帳』を参考にして、「**親としての心構え**」「**親子のコミュニケーション**」「**生活リズム**」「**しつけとルール**」「**安全と健康**」「**遊びと体験**」「**個性と夢**」の7つのテーマを掲げ、内容を構成しています。

ねらいや目的、参加者の実態に応じて、7つのテーマの学習プログラムから選択してご活用ください。

※参考：文部科学省『家庭教育手帳』ホームページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/main8_a1.htm



2 プログラムの進め方

すべての学習プログラムは「アイスブレイク→ワークショップ→振り返りと分かち合い→アドバイスタイム」の流れで構成しており、ファシリテーターと参加者が一体となって学習ができるように組み立てています。

<p>①アイスブレイク</p>	<p>簡単なゲームなどで雰囲気を和らげ、初対面の参加者の緊張を解きほぐすことを「氷を砕く」という意味で「アイスブレイク」と呼んでいます。</p> <p>プログラムの中で取り上げているのはあくまで例であり、参加者の実態やワークショップのねらいに応じて、P.96～107のアイスブレイク資料を参考にアレンジしてください。</p> <div style="border: 1px solid #f08080; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「アイスブレイク」は目的に応じて使い分ける工夫が必要！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雰囲気づくりのために ・ 自己紹介のために ・ 講座の導入のために ・ 仲間づくりのために ・ グループ分けのために </div>
<p>②ワークショップ</p>	<p>講義など一方的な知識の伝達スタイルではなく、グループで意見交換や共同作業を行いながら進める学習の形態を言います。プログラムにおけるワークショップについては、「進行マニュアル」により展開できます。</p> <div style="border: 1px solid #f08080; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「プログラムで取り上げている学習の手法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ラベルワーク ・ カードワーク ・ ロールプレイ ・ ランキング ・ シミュレーション ・ インタビュー ・ ビデオフォーラム ・ アサーティブトレーニング など </div>
<p>③振り返りと分かち合い</p>	<p>ワークショップで気づいたことを個人で振り返り、さらにグループで発表し合います。分かち合いでは、他の参加者の思いや多様な価値観にふれ、これまでの親としての自分を見つめ直す時間です。</p>
<p>④アドバイスタイム</p>	<p>ワークショップで学習したポイントを整理する時間です。参加者の気づきを全体に広げるために、ファシリテーターがポイントを提示し、全員で確認します。ファシリテーターは、「家庭教育手帳」の関連する項目を参考に話をしたり、自分の体験談を話したりして、学習をまとめます。</p>

すべての学習プログラムは上記の流れで構成していますが、これはあくまで標準の流れです。

「学習のねらい」「対象となる子どもの年齢」「参加する親（保護者）の人数や実態」「実施可能な時間」「会場」等に応じて場にあった流れを検討の上、工夫してご活用ください。

また、それぞれの学習プログラムの一部を活用したり、2つのプログラムを同時に取り入れたりすることも可能です。

3 ファシリテーターの役割

(1) ファシリテーターの留意点

ファシリテーターは参加者の主体的な学びを支え、参加者相互のコミュニケーションが円滑に行われる環境をつくるために、次のことに配慮しながら親学プログラムを進行しましょう。

■実施前…事前の準備をしっかり行いましょう

Point

- ・事前に参加者の情報を把握しておきましょう。
- ・「学習のねらい」を明確にしておきましょう。
- ・進行の仕方やワークシートを検討し、内容をアレンジすることも必要です。

■実施中

- ① **アイスブレイク**…………… 参加者の緊張をほぐし、何でも言える、何でも受け止めてくれると感じられるような雰囲気をつくります。

Point

- ・参加者に対して、親しみやすい言動に努めましょう。
例) アイスブレイクをする際は、「これからアイスブレイクをします」とは言わない方がよいでしょう。「みなさん私と一緒に心と体をほぐしましょう」または、「少し緊張しておられるので、一緒にリラックスしましょう」の方が参加者の緊張はほぐれるでしょう。

- ② **ワークショップ**…………… 参加者の様子を見ながらプログラムを進行します。

Point

- ・全体を見回して、各グループの様子と活動状況を把握しましょう。
- ・参加者一人ひとりの考えや意見を尊重しましょう。
例) 相手の目を見て、うなずきながら聴く ⇒ 「うん、うん」「はい、はい」
相づちを打ちながら聴く ⇒ 「そうですね」「なるほど」
復唱しながら聴く ⇒ 「〇〇なんですね」
- ・参加者が平等に考えを出せるように適切に助言しましょう。
- ・時間配分を考えて、進行しましょう。



- ③ **ふり返りと分かち合い**… 参加者の気づきを整理します。

Point

- ・参加者の気づきや変容をとらえて、全体で共有できるように努めましょう。

- ④ **アドバイスタイム**…………… 全体で学習のポイントを整理します。

Point

- ・ファシリテーターの個人的な考えや先入観を参加者に押し付けないようにしましょう。
- ・参加者としてのマナーを再確認しておきましょう。

(2) ルールとマナーの確認

ファシリテーターは、次の①～③のルールとマナーを必ず確認し、参加者に分かりやすく伝えましょう。

- ① 積極的に参加しましょう！
- ② 一人ひとりの考えや思いを尊重しましょう！
- ③ 参加者の個人情報は持って帰らない、もらさない！

●ワークショップに入る前に…（または、グループでの話し合いをする前に）

- ① 積極的に参加しましょう！
- ② 一人ひとりの考えや思いを尊重しましょう！

キーワード「積極的」

キーワード「尊重」



(例) では、グループで話し合う前に2つお願いがあります。1つは「積極的に話し合いに参加しましょう」。みなさん、どんどん意見が出せるようにお互いに協力してください。キーワードは「積極的」です。2つ目は、「一人ひとりの考えや思いを尊重しましょう」。みなさんから出た意見を否定したり、反論したりせずに、うなづいたり、相づちを打ったりしてしっかり聴いてください。キーワードは「尊重」です。

●ワークショップの後に…（または、アドバイスタイムの最後に）

- ③ 参加者の個人情報は持ち帰らない。もらさない！

キーワード「守秘」

(例) 積極的に意見を出し合っておられ、子育てに関する新たな気づきがあったと思います。……

最後に1つお願いがあります。今日の活動でお互いの考えや思いをしっかり聴かれたと思いますが、中にはプライベートにかかわる話が出たこともあったのではないのでしょうか？ここでの私的な話はここだけに置いて帰りましょう。キーワードは「守秘」です。



※ 3つのキーワードを、参加者に応じてより分かりやすい言葉で表現してください。また、ホワイトボード等に掲示して、意識化を図ることも効果的です。

4 親学プログラムの効果的な実践例

親学プログラムを実施する際は、「学習のねらい・趣旨」「参加者（対象者）の人数や実態」「対象となる子どもの年齢」「実施可能な時間や場所」などでそれぞれ条件が異なります。誰を対象に、何をねらいとして実施するかを検討してから、**ねらいに迫る最適なプログラムを実践することが大切です**。また、参加者の実態を把握した上で、手法を変えてみたり、ワークシートの内容をアレンジしてみたりする工夫が必要となります。

(1) プログラムをアレンジする！

①「カードワーク」の手法

手軽に短時間で実施できて、テーマをいろいろと工夫できるところが「カードワーク」の特徴です。プログラムでは、1-③『子どもに示したい大人のふるまい』4-①『親のしつけは子どもへの大切な贈り物』で採用しています。

学習のねらいに応じて、テーマを変えると応用が利きます。

(例)

- ・家庭での食生活で大切にしていることは？
- ・休日の過ごし方で大切にしていることは？
- ・こんな子どもに育ててほしい！
- ・学校・幼稚園・保育所と家庭の関係づくりで大切なことは？
- ・親同士のトラブル回避に必要なことは？ etc

②「ランキング」の手法

プログラムで最も多く採用している手法が「ランキング」です。ランキングは優先順位を決定する際に用いるランク付け（順位付け）の方法です。また、それぞれの項目（コンテンツ）に自分の子育てに対する思いをA・B・C・Dや○印等の記号で表していくものもあります。

(例) 4-⑥『子どもに本当に必要ですか？』ワークシートから

①毎月のお小遣い
②ゲーム機・ゲームソフト
③パソコン（共有含む）
④子ども部屋
⑤DVD・CD（音楽・映画）
⑥流行のカードやシール
⑦携帯電話
⑧まんが・コミック誌
⑨
⑩

変更

①毎月のお小遣い
②ゲーム機・ゲームソフト
③まんが・コミック誌
④自転車
⑤子ども部屋
⑥塾・習い事
⑦ブランド服やかばん・靴

※対象が小学校低学年の保護者（親）の場合

対象となる子どもの年齢から判断して、①～⑩の項目を見直す必要があります。ファシリテーターは事前にワークシートの中に参加者に考えてもらいたい項目を選択しておくことが大切です。また10項目設定ではなく、時間に合わせて5～8項目程度にすることも可能です。

(2) 参加者の実態に合わせて、工夫する！

乳幼児の親が集まる子育てサークル等では、子ども同伴で参加される場合があります。このような場合でも、ファシリテーターはプログラムを工夫することで、親同士の学びを支援することが可能です。

〈実践例〉

プログラム1-②『あなたならどうする?』【手法：インタビュー】

※子育てに関する様々な問いに対して、4つのコーナーに分かれてその思いを語り合う手法を用いているので、子どもをおんぶしたり、抱いたりしていても実施可能である。

プログラム4-①『親のしつけは子どもへの大切な贈り物』【手法：カードワーク】

※本来は、個人のワークとして日頃のしつけで大切にしていることをカードに記入することから始めるが、子どもがそばにいと記入することが困難な場合もある。したがって、ファシリテーターは、事前にしつけに関する様々な価値観が記入してあるカードを何枚か準備しておき、参加者の記入する負担を軽減するなどして実施するとよい。

(3) 連続講座で実施する！

連続講座で実施する場合は毎回の反省や参加者の気づきを確認し、発展的にプログラムを実施していくことでより有意義な講座となります。公民館等の社会教育施設や子育て支援センターにおいては、年間事業計画の中に位置づけて定期的実践することにより、子育て中の親同士を少しずつつなげる効果があります。保育所、幼稚園、小・中学校等においては、毎学期の学級懇談会の機会を捉えて実施することもできます。

〈実践例〉

第1回	プログラム2-②『子どもに伝えるのって難しい!』 【手法：シミュレーション】 ※ゲーム的要素の強いプログラムからスタートする。初対面の参加者同士をつなげ、楽しく語り合えるきっかけづくりとする。
第2回	プログラム7-①『もし、子どもが〇〇で育ったら』 【手法：カードワーク】 ※客観的に子育てについての考え方を語り合えるプログラムを実施する。
第3回	プログラム4-③『しかる基準は?』 【手法：ランキング】 ※回を重ねるごとに参加者同士が積極的に意見交換できるようになる。自分の子育て観について参加者同士が本音で語り合えるプログラムを実施する。

5 プログラムの種類

7種類のテーマごとにプログラムを用意しています。どのプログラムを利用するかは、学習内容、標準時間、参加者の状況に応じて、選択してください。

テーマ	プログラム名	対象となる親				標準時間(分)	ワークショップの手法	学習のねらい	ページ
		乳児	幼児	小学生(低)	小学生(高)中学生				
1 親としての心構え	① 新米ママ・パパへのメッセージ	○	○			90	ビデオフォーラム	親としての自分(親になる自分)を見つめ、親としての心構えを具体的に考える。	12
	② あなたならどうする?	○	○	○	○	60	インタビュー	子育てに関する問いに対して自分ならどうするかを考え、様々な価値観にふれることにより、よりよい子育てについて気づく。	14
	③ 子どもに示したい大人のふるまい	○	○	○	○	50	カードワーク	大人としてのふるまいを考えることによって、自分の姿をふり返り、子どもとともに自分自身も親として成長していこうという気持ちを培う。	16
	④ 素晴らしき思春期				○	75	ビデオフォーラム	思春期の子どもたちの特徴を理解し、親として思春期の子どもたちと向き合う心構えを考える。	18
2 親子のコミュニケーション	① 聞く耳ってどんな耳?	○	○	○	○	50	シミュレーション	話し手と聞き手双方の受け止め方や感じ方の違いを体験することにより、自分自身の聞き方をふり返るとともに、子どもの思いを受け止める聞き方について気づく。	20
	② 子どもに伝えるのって難しい!	○	○	○	○	60	シミュレーション	聞く側の受け止め方や感じ方の違いについて体感し、自分自身の子どもへの話し方・接し方をふり返る。	22
	③ 私のほめ方・しかり方	○	○	○		60	ロールプレイ	子どもに対するほめ方・しかり方について役割演技をしたり、話し合ったりすることを通して、場や状況に適したよりよい伝え方について考える。	24
	④ 心に響く伝え方			○	○	60	ロールプレイ	子どもへの思いの伝え方について役割演技をしたり、話し合ったりすることを通して、場や状況に適したよりよい伝え方について考える。	26
3 生活リズム	① 目指せ! 早寝・早起き・朝ご飯	○	○	○	○	80	ラベルワーク	「早寝・早起き・朝ご飯」を家庭で実行するために、必要なことを考える。	28
	② 朝食は目覚めのスイッチ		○	○	○	60	ラベルワーク	朝食をとることの大切さを知り、家庭で実施するために必要なことを考える。	30
4 しつけとルール	① 親のしつけは子どもへの大切な贈り物	○	○	○	○	60	カードワーク	日頃のしつけについてふり返るとともに、しつけをしていく上での大切なポイントについて考える。	32
	② 我が家のルールづくり大作戦!	○	○	○	○	75	ラベルワーク	家庭や社会のルール・マナーについて考え、日常生活をふり返る中で、「我が家のルール」を作成する。	34

テーマ	プログラム名	対象となる親					標準時間(分)	ワークショップの手法	学習のねらい	ページ
		乳児	幼児	小学生(低)	小学生(高)	中学生				
4 しつけとルール	③ しかる基準は？	○	○	○	○	○	60	ランキング	時と場合に応じた子どもへのしかり方・かわり方を考えることにより、社会のルールを教えるためのしかる基準について考える。	36
	④ 誰が決めるの？	○	○	○	○	○	50	ランキング	子どもの活動や持ち物、家庭でのルールなどの決め方を振り返ることにより、親として適切なかわり方をしようとする意識を高める。	38
	⑤ 子どもにとってのお手伝い		○	○	○	○	50	ランキング	手伝いについてお互いの考えを話し合うことで、手伝いの役割や意義について考える。	40
	⑥ 子どもに本当に必要ですか？		○	○	○	○	60	ランキング	子どもにとって必要なものかどうかを話し合うことで、様々な価値観にふれ、子どもにものを与える時、親としてどのようなことに配慮すべきかを考える。	42
	⑦ 家庭学習の習慣をつけるために			○	○	○	60	ラベルワーク	家庭学習の習慣化についてのポイントや工夫を考えることによって、子どもが進んで学習するために親としてできることに気づく。	44
	⑧ ケータイ・インターネットとのつきあい方			○	○	○	70	ラベルワーク	子どもたちが携帯電話・インターネットを利用することで考えられる不安や悩み、問題点を話し合い、家庭で取り組めることを考える。	46
5 安全と健康	① 身近なところに危険がいっぱい	○	○	○			50	ピクチャーワーク	身近な生活の中に潜む危険に気づき、子どもの安全に関する意識を高める。	48
	② 危険箇所を考えよう		○	○	○	○	60	ランキング	身近な危険箇所に目を向け、子どもと一緒に危険について考えることができるように、親の危険意識を高める。	50
	③ 食生活を見直そう	○	○	○	○	○	50	レーダーチャート	子どもの食を取り巻く様々な課題について考え、家庭の食生活を見直すきっかけとする。	52
6 遊びと体験	① あそびのススメ	○	○	○	○		70	ラベルワーク	子どもの頃に遊んだ経験について話し合うことによって、遊びを通じた体験が子どもの成長に豊かさをもたらすことに気づく。	54
	② 子どもにさせたい体験は？	○	○	○	○	○	50	ランキング	体験に含まれる様々な価値について話し合い、子どもの成長にどんな体験が必要かを考える。	56
7 個性と夢	① もし、子どもが○○で育ったら	○	○	○	○	○	60	カードワーク	自分の考えを話したり、他の人の考えを聞いたりすることにより、子どもの個性や夢を大切にしたい子育てについて考える。	58
	② こんな子どもに育ててほしい	○	○	○	○	○	60	ランキング	こんな子どもに育ててほしいという思いを語り合うことで、様々な価値観にふれ、望ましい子育てについて考える。	60
	③ わが子のPR～短所も長所～	○	○	○	○	○	70	アサーティブトレーニング	子どものよいところを認め、PRすることを通して、子どもを肯定する気持ちを育てる。	62

1-① 新米ママ・パパへのメッセージ

■対象：乳幼児の親

■時間：90分程度

■手法：ビデオフォーラム

学習のねらい 準備するもの

親としての自分(親になる自分)を見つめ、親としての心構えを具体的に考える。
ビデオ『新米ママ&パパへ贈るメッセージ (21分)』
(市町村教育委員会・社会教育研修センターで貸出可)
視聴覚機器 (VHSビデオデッキ) 掲示用カード 筆記用具
ワークシート【P.64】 アドバースタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 今日、6人の先輩ママ・パパからビデオでメッセージが贈られます。ビデオを視聴して、親としての心構えを考えていきましょう。ビデオを見る前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		視聴覚機器
15分	【アイスブレイク】 ①後出しじゃんけん (P.97) ②パースデーチェーン (P.100) 子どもは何月生まれ？ ③自己紹介(子育て共通点探し等)	・②は、誕生日順に4人グループに分かれた後、自己紹介をする。	
60分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ①ビデオの内容を知る ②ビデオを視聴する ③感想をワーク1に書く ④グループごとに感想について話し合う ⑤グループごとに発表する ⑥まとめ	・内容についてのキーワードと視聴の視点を掲示用カードで提示する。 ①先輩からの体験を元にしたメッセージ ②子育ての答えは一つではない ③一人で抱え込まない ・必要に応じてメモをとるよう伝える。 ・今の親としての自分、これからの親としての自分を意識して考え、話し合うよう伝える。 ・すべての発表が終わってから各グループのいいところを一言伝える。	掲示用カード 筆記用具 ワークシート (P.64)
13分	【ふり返りと分かち合い】 ①親としての心構えを一言でワーク2に書く ②全体で発表し合う	・書きにくいようであれば、心に残ったキーワードを書いてもらってもよい。 ・可能であれば、発表に対するコメントを言う。	
2分	【アドバイスタイム】 いかがでしたか？「子育て」とは、子どもだけが成長・発達していくのではなく、親もまた、ともに成長していくことなのではないでしょうか。親が幸せで、笑顔でいる家庭でこそ、子どもも幸せを感じます。文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.108「自分を大切にできないならば、子どもを大切にすることもできない」「子育ては母親の仕事、そう思っているお父さんは要注意」「前向きな親の姿は、きっと子どもに届いている」から状況に応じて選んで読む。		配付資料
	《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		

1-① 新米ママ・パパへのメッセージ

①ビデオの内容を知る (5分)



(アイスブレイクを受けて)

みなさん、いろいろ子育ての楽しみや悩みがありますね。

それでは、ビデオを見ていただく前に、ビデオの内容について3つキーワードをお伝えします。(提示用カードを提示しながら)一つ目は「先輩からの体験をもとにしたメッセージ」、二つ目は「子育ての答えは一つではない」、三つ目は「一人で抱え込まない」です。それから、6人の先輩からのメッセージには共通点があります。その共通点を意識してビデオをご覧ください。(「共通点を意識して」も提示)

②ビデオを視聴する (24分)

(ワークシートを配付して)

これからビデオを視聴していただきます。必要に応じて、ご自由にメモをとられても構いません。



③感想をワーク1に書く (10分)



先輩ママ・パパからのメッセージはいかがでしたか？ それでは、今までの親としての自分をふり返り、これからの親としての自分を考えながら感想をワーク1に書いてください。8分でお願いします。

④グループごとに感想について話し合う (15分)

(参加者が感想を書いたことを確認して)

では、グループの他の方の感想を聞いてみましょう。
時間は13分です。後で、代表の方に話し合いの様子を発表していただきますので、代表者も決めておいてください。



⑤グループごとに発表する (5分)



時間になりましたので、グループでの話し合いの様子を代表の方に発表していただきます。2～3分でお願いします。

⑥まとめ (1分)

いかがでしたか。

(例) ・〇〇グループは、お互いの子育ての悩みを認め合った上で、それぞれに合った子育てを楽しむための方法を話し合っておられましたね。

では、今日のビデオフォーラムをふり返って、これからの親としての心構えを一言でワーク2に表してみましょう。



1-② あなたならどうする？

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：インタビュー

学習のねらい 子育てに関する問いに対して自分ならどうするかを考え、様々な価値観にふれることにより、よりよい子育てについて気づく。

準備するもの マイク（必要に応じて） 4つのコーナーの表示カード 筆記用具
ワークシート【P.65】 アドバイスタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、いくつかの子育てに関する質問をもとに、子育てについてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
8分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①幸せジャンケン〈P.97〉 ②バースデーチェーン〈P.100〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・②は、誕生日を切り口に自己紹介をする。 	
35分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】 [4つのコーナーを設ける] ①ワークショップの説明を聞く ②考えや思いに応じて、コーナーに分かれる ③各コーナーでインタビューに答える *②～③を繰り返す ④まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・③では、ファシリテーターはうなずきや繰り返しなど、話しやすい雰囲気を作るように心がける。 ・状況に応じて、各コーナーで話し合う時間をとる。 ・④では簡単にコメントする。 	<p>表示カード 「そう思う」 「少しそう思う」 「あまりそう思わない」 「そう思わない」</p> <p>マイク</p>
15分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①学習を通して気づいたことをワーク1、2に書く ②全体の場で発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己をふり返る時間をとる。 ・ワーク1、ワーク2は両方書いてもよいし、片方だけでもよい。必要に応じて使い分けるとよい。 	<p>筆記用具 ワークシート (P.65)</p>
2分	<p>【アドバイスタイム】</p> <p>いかがでしたか？「子育て」の答えはひとつではないし、子どもの成長には個人差もあります。文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.108「自分を大切にできないならば、子どもを大切にすることもできない」 P.117「完璧な人なんてどこにもいない」「自分で考え自分で行動できる人に育ててほしいなら」「同じ子どもなんて一人もいない」のいずれかを状況に応じて選んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		<p>配付資料</p>

1-② あなたならどうする？

※「そう思う」「そう思わない」「少しそう思う」「あまりそう思わない」の4つのコーナーをあらかじめ設けておく。

①ワークショップの説明を聞く（2分）



これからする質問について自分の気持ちや考えに一番近いと思うコーナーに移動してください。どうしても選択できない時は、中央に来てください。

②考えや思いに応じて、コーナーに分かれる（②③を繰り返して32分）

では、質問します。「○○○○・・・・・・・・」
自分の気持ちや考えに一番近いと思うコーナーに移動してください。



<質問例> ※質問は単純なものから複雑なものへ、思考や判断を要するものへ発展させるとよい

【乳幼児編】

- ①食事は家族そろって食べた方がよい
- ②朝食はパンがよい
- ③子どもをあやすときはおんぶよりだっこがよい
- ④習い事は早くからはじめた方がよい

【児童・生徒編】

- ①食事は家族そろって食べた方がよい
- ②朝食はパンがよい
- ③子どもに携帯電話をもたせた方がよい
- ④我が子と他の子を比べてしまう

③各コーナーでインタビューに答える



（参加者の近くまで歩いて行って）なぜ、このコーナーを選びましたか？
※1つのコーナーにつき2～3人に同じ質問をする。

- 参加者の発言に受容的な態度（うなずき、繰り返しなど）で対応する。
- 参加者の意見を聞いて、コーナーを移動してもよいことを全員に伝える。
- 移動した人がいた場合には、その人になぜ移動したのかを聞いてみるのもよい。
- コーナーに1人になってしまった時は、共感的にフォローする。
- プライバシーの侵害にあたるようなことは質問しないように気をつける。
- 状況に応じて、各コーナーで話し合う時間をとる。
- もっと深めたい話題や聞いてみたい質問があれば取りあげる。
（意見の分かれた質問や、難しかった質問、またさらに発展させたい事など）

④まとめ（1分）



それぞれのご家庭で、しっかり考えをもって子育てしておられることがよく分かりました。
それでは、ワークシートに今日の学習をとおして気づいたことを書いてみましょう。

1-③ 子どもに示したい大人のふるまい

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：50分程度

■手法：カードワーク

学習のねらい 大人としてのふるまいを考えることによって、自分の姿をふり返り、子どもとともに自分自身も親として成長していこうという気持ちを培う。

準備するもの 動物カード 名刺大に切ったカード（コピー用紙でも代用可） 筆記用具
ワークシート【P.66】 アドバイスタイトム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、子どもに示したい大人のふるまいについて一緒に考えてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①握手リレー（P.100）</p> <p>②動物あて（P.99）</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれた後、自己紹介をする。 	動物カード
30分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①カードに記入する</p> <p>②カードを中央に置く</p> <p>③カードを引く カードがなくなるまで繰り返す</p> <p>④最後に残したカードについて、理由や思いを発表する</p> <p>⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多く記入するように伝える。 どのカードも大切なものであることを確認する。批判しない。 そのカードを残した理由、ポイントとなったことについてコメントするように伝える。 	カード 筆記用具
8分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①学習をふり返って、気がついたことをワーク1、2にまとめる</p> <p>②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワーク1、ワーク2は両方書いてもよいし、片方だけでもよい。必要に応じて使い分けるとよい。 全体に広げることができれば、取り上げてよい。 	ワークシート（P.66）
2分	<p>【アドバイスタイトム】</p> <p>いかがでしたか？ 子どもは親の姿を見て成長していきます。文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。</p> <p>※資料 P.108「前向きな親の姿は、きっと子どもに届いている」「あなたの生き方が、子どもへの最高の教育になる」 P.116「子どもは親の姿を見て学んでいく」の中から状況に応じて選んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

1-③ 子どもに示したい大人のふるまい

名刺大に切ったカードをグループに渡します。(各グループに50枚程度)

①カードに記入する(10分)



カードに「子どもに示したい大人のふるまい」を考えて、記入してください。簡潔に、思いついたまま、できるだけ多くカードを書きましょう。例えば、精神面や行動面、態度面などから考えてみましょう。ただし、1枚のカードには1つのことを書いてください。

※例えば・・・(下記参照)

時間は、8分です。

※例えば…

いつも笑顔でいる

○ 1枚に1つのこと

いつも笑顔でいたり、子どもとの約束を大事にしたりする

× 1枚に複数のこと

②カードを中央に置く(1分)

全員のカードを1つにまとめ、トランプのように切りましょう。そして、何が書いてあるか見えないようにして、グループの中央に置いてください。



③カードを引く(10分…カードがなくなるまで)



1人1枚ずつカードを引いてください。次のカードを引いた時、より大切だと思うカードを手元に残してください。どれも大切なカードですが、どちらか1枚だけに決めてください。選ばなかったカードは自分の前に裏返して置いてください。これを、カードの山がなくなるまで、繰り返しましょう。

④最後に残したカードについて、理由や思いを発表する(8分)

最終的に手元に残したカードは何ですか。グループで見せ合しましょう。そして、なぜそのカードを残したのか、その理由や思いを発表しましょう。どなたからでもよいので、順に発表してください。



⑤まとめ(1分)



それぞれの理由や思いを聞き、どんなことを感じましたか？

では、今日の学習をふり返って、気がついたことや考えたことをワークシートに書きましょう。

1-④ 素晴らしき思春期

■対象：小学校高学年～中学生の親

■時間：75分程度

■手法：ビデオフォーラム

学習のねらい 思春期の子どもたちの特徴を理解し、親として思春期の子どもたちと向き合う心構えを考える。

準備するもの ビデオ『こころの応援歌：親子で育む「素晴らしき思春期」〈26分〉』（市町村教育委員会・社会教育研修センターで貸出可）
視聴覚機器（VHSビデオデッキ） 筆記用具
ワークシート【P.67】 アドバースタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、ビデオを視聴しながら、思春期の子どもたちの特徴について知り、どのように子どもとかわかっていけばよいかを考えていきましょう。ビデオを見る前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		視聴覚機器
5分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①バースデーチェーン〈P.100〉 子どもは何月生まれ？</p> <p>②自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①は、誕生日順に4人グループに分かれた後、自己紹介をする。 	
56分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①ビデオの内容を知る</p> <p>②ビデオを視聴する</p> <p>③感想をワーク1に書く</p> <p>④グループごとに話し合う</p> <p>⑤グループごとに発表する</p> <p>⑥まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の子どもたちの態度や行動について、キーワードをメモをとるように伝える。 ・思春期の子どもをもつ親としての自分、これからの親としての自分を意識しながら話し合うよう伝える。 ・すべての発表が終わってから各グループのよいところを一言伝える。 	筆記用具 ワークシート (P.67)
10分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①親としての心構えをワーク2に書く</p> <p>②全体で発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書きにくいようであれば、心に残ったキーワードを書いてもらってもよい。 ・可能であれば、発表に対するコメントを言う。 	
4分	<p>【アドバースタイム】</p> <p>いかがでしたか？「思春期」とは、身体の成長に心の成長が追いつかず、誰もが不安定な気分になりやすい時期ですが、きちんと子どもと向き合い、子どもの力を信じて温かく見守ることも大切ではないでしょうか。</p> <p>文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。</p> <p>※資料 P.110「心も身体も大人ではないけれど、全くの子どもでもない」「言うことを聞かないのは、子どもの自立が始まった証拠」「この時期は、友達の影響を受けやすい」から状況に応じて選んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

1-④ 素晴らしき思春期

①ビデオの内容を知る (2分)



今日ご覧いただくビデオは、思春期の子どもをもつ親にとって、明るい「こころの応援歌」になるように企画されたものです。思春期の子どもたちの思いや子どもと向き合う専門家・ボランティアの方からの様々なメッセージがこめられています。

②ビデオを視聴する (26分)

(ワークシートを配付して)

これからビデオを視聴していただきます。必要に応じて、ご自由にメモをとられても構いません。



③感想をワーク 1 に書く (5分)



ご覧いただいたビデオはいかがでしたか？
それでは、今までの自分をふり返り、思春期の子どもをもつ親としての自分を考えながら感想をワーク 1 に書いてください。5分をお願いします。

④グループごとに話し合う (15分)

(参加者が感想を書いたことを確認して)

では、グループの他の方の感想を聞いてみましょう。時間は 13 分です。
後で、代表の方に話し合いの様子を発表していただきますので、代表者も決めておいてください。



⑤グループごとに発表する (6分)



時間になりましたので、グループでの話し合いの様子を代表の方に発表していただきます。2～3分をお願いします。

⑥まとめ (2分)

いかがでしたか。

(例) ・〇〇グループは、お互いの子育ての悩みを認め合った上で、それぞれに合った子育てを楽しむための方法まで話し合っておられましたね。
では、今日のビデオフォーラムをふり返って、思春期の子どもをもつ親としての心構えを一言でワーク 2 に表してみましょう。



2-① 聞く耳ってどんな耳？

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：50分程度

■手法：シミュレーション

学習のねらい	話し手と聞き手双方の受け止め方や感じ方の違いを体験することにより、自身の聞き方をふり返るとともに、子どもの思いを受けとめる聞き方について気づく。
準備するもの	時計（ストップウォッチ） 筆記用具 ワークシート【P.68】 アドバースタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 今日、子どもの思いを受けとめる聞き方について考えるために、3種類の聞き方を体験してみましょう。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
15分	【アイスブレイク】 ①聖徳太子ゲーム〈P.101〉 ②たことたい〈P.98〉 ③大きなかぶ〈P.101〉	・聞くことを意識したアイスブレイクをするとよい。	
18分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ①ワークショップの説明を聞く ②話し手役、聞き手役となって体験する ③役割を交代する ④体験した感想を話し合う ⑤まとめ	・2人1組で行う。参加者が奇数の場合は、スタッフが対応する。 ・話し手の気持ちを意識した聞き方について気づくことができるように、「話す」と「聞く」両方の立場を体感するよう説明する。	時計 (ストップウォッチ)
15分	【ふり返りと分かち合い】 ①子どもと接する時、心がけたいことをワーク1にまとめる ②全体で発表し合う	・全体に広げることが難しければ、2～3人に発表してもらおう。	筆記用具 ワークシート (P.68)
2分	【アドバースタイム】 いかがでしたか？ 子どもは親に伝えたいことがあっても、上手く伝えることができないことがあります。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.111「子どもは『親』のぬくもりを求めています」を読む。 《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		配付資料

2-① 聞く耳ってどんな耳？

※ファシリテーターは、状況に応じて話すテーマ例を参加者へ提示しましょう。

◎テーマ例

マイブーム、私の得意なこと、世の中に言いたいこと、私の苦手なもの、家族の紹介、好きな動物、私の得意料理 など

①ワークショップの説明を聞く (2分)



それでは、2人でイスを向かい合わせて座りましょう。どちらが話し手、聞き手になるかを決めてください。話し手は、話すテーマを決めてください。(少し時間をとる)話し手は、聞き手に対し選択したテーマについて話します。聞き手は、時間を指示するので、次①～③のように対応してください。

- ①最初の1分は、聞き手は話し手に反応してはいけません。そっぽを向き、話し手に話しかけられても無視するようにしてみましょう。
- ②次の1分は、聞き手は、別のことをしながら聞きます。例えば、携帯電話のメールをうったり、本やチラシなどを見たりしながら、適当に相づちを打ちましょう。目は合わせません。気のない返事を、あえておかしなタイミングでしよう心がけてみましょう。
- ③最後の2分は、聞き手は、話し手の話を「一生懸命聞く」よう心がけてみましょう。状況に応じて「おうむ返し」「うなずく」「相手を見る」「ほほえむ」などを心がけてみましょう。

②話し手役、聞き手役となって体験する (5分)

では、実際にやってみましょう
※ファシリテーターは、時間を指示しながら進行する。



③役割を交代する (5分)



次に、話し手と聞き手の役割を交代してみましょう。
※①～③を同様に行う。

④体験した感想を話し合う (5分)

今日は3種類の聞き方を体験していただきました。実際に体験してみて、どんなことを感じましたか。2人で話し合ってみましょう。



⑤まとめ (1分)



いかがでしたか。
今日は、大人と大人で体験しましたが、自分のお子さんの話を聞くときに自分がどんな反応をしているかをふり返り、ワーク1にまとめてみましょう。

2-② 子どもに伝えるのって難しい！

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：シミュレーション

学習のねらい 聞く側の受け止め方や感じ方の違いについて体感し、自分自身の子どもへの話し方・接し方をふり返る。

準備するもの 3種類の絵 (P.70 拡大したもの) コピー用紙 時計 (ストップウォッチ) 筆記用具 ワークシート【P.69】 絵【P.70】 アドバースタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>人と話す時、伝えることの難しさについて感じたことはありませんか。今日は、“子どもに伝える”ということについてみなさんと一緒に考えていきたいと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①伝言ゲーム (P.101)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えることを意識したアイスブレイクをするとよい。 	
30分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>① 1人目の挑戦 ② 2人目の挑戦 ③ 確かめ合う ※時間に合わせて、3回目の「確かめ合う」は実施してください</p> <p>④まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2人1組で行う。参加者が奇数の場合は、スタッフが対応する。 ・①～③それぞれで、役割を交代する。 ・「話す」と「聞く」両方の立場を体感することにより聞き手の気持ちを意識した話し方について考えるように伝える。 	<p>絵 (P.70) コピー用紙 筆記用具 時計 (ストップウォッチ)</p>
18分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①学習で気がついたことをワーク1にまとめる ②全体で発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。 ・全体が難しければ、2～3人に発表してもらおう。 	<p>ワークシート (P.69)</p>
2分	<p>【アドバースタイム】</p> <p>いかがでしたか？ 親の思いを子どもに上手く伝えるためには、受け止める子どもの立場や思いを理解することが大切です。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.111「子どもは『親』のぬくもりを求めています」を読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		<p>配付資料</p>

2-② 子どもに伝えるのって難しい！

① 1人目の挑戦 (10分)

それでは、2人1組になりましょう。
みなさんには、これからFAXの機械になってもらいます。1人が送信者、もう1人が受信者になります。送信者は、受信者に見えないように掲示してある絵を受信者に言葉だけで伝えていきます。受信者は、伝えられたことをできるだけ忠実に絵に表してください。



送信者のみなさんは、指を動かして指示したり、指でなぞったりしてはいけません。受信者のみなさんは、これでいいのか不安になると思いますが、「ねえねえこれでいいの」などと聞かないようにしましょう。質問しながら描いたり、文句を言ったりないようにしましょう。

時間は、3分です。途中で何度絵を見に行っても構いません。
それでは、始めましょう。



できあがった絵を並べて正解と比較しましょう。
みんなでふり返ってみましょう。

※参加者の声をひろって広げていく。

※伝えるポイントを話す。(全体のイメージ→詳細)

(例) ひまわりを3本描きます。左から1/3、1/2、2/3の高さです。

② 2人目の挑戦 (10分)

送信者と受信者を入れ代わりましょう。ルールは同じです。時間は、3分です。途中で何度絵を見に行っても構いません。
それでは、始めましょう。



「ここの伝え方をこうすれば良かった」「全然分からなかった」「この伝え方がとても良かった」など送信者の立場、受信者の立場でふり返りましょう。

③ 確かめ合う (9分) ※時間に合わせて、実施しましょう。

2人でふり返ったことを踏まえてもう1回だけ挑戦しましょう。1回だけしかしません。送信者と受信者を決めてください。



④ まとめ (1分)



いかがでしたか。実は、この送信者と受信者の関係は、物事をよく知っている大人と知らない子どもという親子の関係にとってもよく似ていると言われます。

体験して気づいたことをもとに、子どもへの話し方・接し方について、ワーク1にまとめてみましょう。

2-③ 私のほめ方・しかり方

■対象：乳児～小学校低学年の親

■時間：60分程度

■手法：ロールプレイ

学習のねらい 子どもに対するほめ方・しかり方について役割演技をしたり、話し合ったりすることを通して、場や状況に適したよりよい伝え方について考える。

準備するもの 筆記用具 ワークシート【P.71】 アドバースタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、子どもをほめる時やしかりる時に、どんなことに気をつければよいか、みなさんと考えてみたいと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①たましいの握手〈P.97〉</p> <p>②自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2人組ができた後、互いに自己紹介をする。 	
40分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①ワーク1を記入する</p> <p>②ペアになり、お互いに言ってみる</p> <p>③感想を話し合う</p> <p>④グループで話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内での紹介 ・より効果的な伝え方 <p>⑤グループごとに発表する</p> <p>⑥まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①は自分の考えを自由に表現するように伝える。 ・②は子ども役と親役になりきってできるように、楽しい雰囲気づくりを心がける。 ・④はグループで、より良いほめ方・しかり方について考えるよう伝える。 ・⑤は話し合いのポイントも含めて発表するよう伝える。 ・一言で簡単にコメントする。 	<p>筆記用具 ワークシート (P.71)</p>
7分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①感想をワーク2に記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。 	
3分	<p>【アドバースタイム】</p> <p>いかがでしたか？ よいことをした時はしっかりほめ、しかりる時には感情にまかせず、受け止める子どもの立場や思いを理解することが大切です。</p> <p>文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。</p> <p>※資料 P.112「良いことをしたときはしっかりほめてあげる」「感情にまかせて叱ることとしつけとは違う」から状況に応じて選んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		<p>配付資料</p>

2-③ 私のほめ方・しかり方

①ワーク1を記入する（10分）



ワークシートを配ります。その中に、例として4つの場面を取り上げています。
あなたなら、①～④のそれぞれの場面においてお子さんに対して、どう言いますか？ 自分の考えを自由に記入しましょう。時間は8分です。

②ペアになり、お互いに言ってみる（5分）

今書いた台詞^{せりふ}をもとに、子ども役と親役の役割分担をして、相手に言ってみましょう。2人で場面を想定し、できるだけ雰囲気を出してなりきって言ってください。



③感想を話し合う（3分）



どうでしたか？
今の台詞^{せりふ}を言われてどう思ったか、お互いにそれぞれの感想を伝え合みましょう。

④グループで話し合う（13分）

近くの2つのペアで4人グループをつくりましょう。
他の方はどんな言い方を考えたか、グループのメンバーで台詞^{せりふ}を紹介し合ってください。そして、子どもをほめる時やしかる時により効果的な伝え方について話し合ってください。後で、グループの代表の方に発表してもらいますので、グループ全員で台詞^{せりふ}を作ってみましょう。



⑤グループごとに発表する（8分）



グループで作った台詞^{せりふ}を、代表の方に紹介してもらいます。できれば、どういう考えでその台詞^{せりふ}になったか簡単に説明してください。

⑥まとめ（1分）

みなさん、お子さんのことをしっかり考えて、言い方を工夫しておられることがよく分かりました。
それでは、今日の学習をワーク2でふり返ってみましょう。



【活用のポイント】

このプログラムは、対象となる親（保護者）の子どもの年齢に応じて、ワーク1の①～④の場面設定を変更するとよいでしょう。

2-④ 心に響く伝え方

■対象：小学生～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：ロールプレイ

学習のねらい 子どもへの思いの伝え方について役割演技をしたり、話し合ったりすることを通して、場や状況に適したよりよい伝え方について考える。

準備するもの 宝カード 他己紹介用の A4 用紙 筆記用具 ワークシート【P.72】
アドバイスタイトム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、子どもたちの心に響く伝え方について、みなさんと考えてみたいと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
15分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①宝探し (P.99) ②他己紹介 (P.99)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・②でペアの相手とのコミュニケーションを図ることで、次のワークショップへ入りやすくする。 	宝カード 筆記用具 A4 用紙
30分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①ワーク1の場面をお互いに言ってみる ②感想を話し合う ③ワーク2を記入する ④ワーク2の場面をお互いに言ってみる ⑤感想を話し合う ⑥まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけなりきってできるように、楽しく自由な雰囲気づくりを心がける。 ・状況によって言い方はかわってくるが、あくまで例として考えるよう伝える。 ・場面はあまり限定せず、自由に考えるように伝える。 ・一言で簡単にコメントする。 	ワークシート (P.72)
13分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①グループでふり返る ・グループ内での紹介 ・気をつけること ②感想をワーク3に記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで、心に響く伝え方について具体的に考えるよう伝える。 ・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。 	
2分	<p>【アドバイスタイトム】</p> <p>いかがでしたか？ 親の伝え方ひとつで、子どもの受けとり方も様々です。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.112「良いことをしたときはしっかりほめてあげる」「感情にまかせて叱ることとしつけとは違う」から状況に応じて選んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

2-④ 心に響く伝え方

①ワーク1の場面をお互いに trying (5分)



ワークシートを配ります。それでは、2人組でワーク1にある台詞を親役と子ども役に分かれて相手に trying (5分) してみましょう。できるだけ雰囲気を出してなりきって trying (5分) してください。
できれば、子ども役の方は、親の台詞に対して反応して trying (5分) みてください。
1人が終わったら、役割を変えて、親役・子ども役の両方を trying (5分) してください。

②感想を話し合う (5分)

どうでしたか?
3つの台詞を言われてどう思ったか、お互いにそれぞれの感想を伝え合いましょ (5分) う。



○「①は攻撃的」「②はいやみ」「③は親身」な伝え方に分類できることを参加者の実態に応じて伝える。

③ワーク2を記入する (9分)



ワーク2の2つの場面で、あなたなら、お子さんに対してどう伝えますか? 考 (9分) えて記入しましょう。
細かい背景にはこだわらずに書いてください。時間は7分です。

④ワーク2の場面をお互いに trying (5分)

今書いた台詞を、役割分担をして相手に trying (5分) してみましょう。ぜひ、雰囲気を出してなりきって trying (5分) してください。



⑤感想を話し合う (5分)



それぞれが考えた台詞を言われてどうだったか、どう感じたか、お互いに伝え合いましょ (5分) う。

⑥まとめ (1分)

みなさん、お子さんの感じ方を考えて、伝え方を工夫されていたことがよく分かりました。
それでは、今日の学習を振り返って trying (5分) みましょう。



【活用のポイント】

このプログラムは、対象となる親（保護者）の子どもの年齢に応じて、ワークシートの場面設定を変更するとよいでしょう。

3-① 目指せ！早寝・早起き・朝ご飯

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：80分程度

■手法：ラベルワーク

学習のねらい 「早寝・早起き・朝ご飯」を家庭で実行するために、必要なことを考える。
準備するもの ○×カード 模造紙(各グループに1枚) 付箋(グループ数×50枚程度)
 マジック 筆記用具 ワークシート【P.73】
 アドバイスタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、子どもたちにとって大切な「早寝・早起き・朝ご飯」運動を 実践するためにどんなことが必要なのか、みなさんと一緒に考えたいと 思います。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①○×クイズ (P.102)</p> <p>②バースデーチェーン (P.100) 「今日の起床の時刻」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①は「早寝・早起き・朝ご飯」運動に 関する基本的な問題を2～3問出す。 ・②のグループ分けの後、「早寝・早起き・ 朝ご飯」についての思いを一言加えて 簡単に自己紹介をする。 	○×カード
55分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①個人で付箋に記入する ②グループで付箋を分類し、島を 作る ③島に見出しを付け、関連を図る ④グループで話し合ったことを代 表が発表する ⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・③で関連づけを図る際、時間があれば 絵に表すとよい。(ただし、絵を描く ことが目的ではないので、分類と関連 づけを明確にすることを意識してお く) ・⑤は一言で簡単にコメントする。 	筆記用具 付箋 模造紙 マジック
13分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①自己の生活を見直し、ワーク1 に書く ②全体(またはグループ内)で発 表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践化に向けてのヒントや妨げている 要因について気づくことができるよう 助言する。 ・「できそうなことから始める」という 気持ちで書けばよいことを助言する。 	ワークシート (P.73)
2分	<p>【アドバイスタイム】</p> <p>いかがでしたか？ 子どもの健やかな成長には、適切な運動、調和の とれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。子どもの基本的な生活習慣の 確立は、生涯を通じて健康的な生活を送る基礎を培うことにつながりま す。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.109「早寝早起き朝ごはん」「子どもの健やかな成長のために、 睡眠は大切です」「一日のスタートは朝食から」 P.110「『早寝早起 き朝ごはん』国民運動の推進」の中から、状況に応じて選んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

3-① 目指せ！早寝・早起き・朝ご飯

①個人で付箋に記入する（10分）

はじめは個人作業です。付箋に、「早寝・早起き・朝ご飯」を実践するために必要だと思うこと、大切だと思うこと、また気をつけることなど、思いついたことを何でも自由に書いてください。ただし、1枚の付箋には1つのことを書いてください。例えば・・・（下記参照）。時間は8分です。



※例えば…

しっかり運動する

○ 1枚に1つのこと

夕食を早めに食べて遅くまでテレビを見ない

× 1枚に複数のこと

②グループで付箋を分類し、島を作る（15分）



次に、グループでの活動に入ります。
まず、グループ内で発表の順番を決めてください。
最初の人から1枚の付箋を模造紙の上に出し、書いた意味を説明します。その時、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、説明をしながらその付箋の近くに置きます。
似た内容の付箋がなくなったら、次の人が別の1枚を出し、同じように説明をします。これを繰り返して、模造紙の上いくつもの島を作りましょう。

③島に見出しを付け、関連を図る（20分）

（島ができたら）
模造紙の上いくつもの島ができていると思います。
書いた付箋がそこでいいか、確認しましょう。
確認できたら、それぞれの島の特徴を示す見出しを付けましょう。
（見出しが付いたら）
グループの代表者を決め、代表者が発表しやすいように、グループの考えをまとめましょう。



※時間がある時は、簡単な図や絵に表すと関係の構造が分かりやすい。



④グループで話し合ったことを代表が発表する（9分）



グループで話し合ったことを、順に発表してください。

⑤まとめ（1分）

それぞれのグループの発表の中には、「早寝・早起き・朝ご飯」の実践に向けてのヒントがありますね。では、今作った図を見ながら、あなたの家庭生活をふり返り、これからできそうなことを考えてワーク1に書きましょう。



3-② 朝食は目覚めのスイッチ

■対象：幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：ラベルワーク

学習のねらい 朝食をとることの大切さを知り、家庭で実施するために必要なことを考える。
準備するもの 表示カード 付箋(グループ数×50枚程度) 模造紙(各グループに1枚)
 マジック 筆記用具 ワークシート【P.74】
 アドバースタイム用配付資料
 参考資料「朝ごはんを毎日食べよう大作戦!」【P.75】

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 最近、子どもたちの基本的な生活習慣が乱れていると言われています。今日は、一日のスタートである朝食についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
15分	【アイスブレイク】 ① 4つのコーナー (P.102) ② バースデーチェーン (P.100)	・①は、日頃の朝食に関する質問を3問程度出し、参加者の実態を把握する。 (例) 朝食は和食がよい。 ・②は、誕生日順に4人のグループに分かれた後、自己紹介をする。	表示カード
30分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ① 子どもに朝食をとらせるための工夫について、各自付箋に書く ② 各自が書いたものを紹介する ③ 出された付箋を整理し、見出しを付ける ④ グループで話し合ったことを代表が発表する ⑤ まとめ	・日頃実践していることや、新たなアイディアをできるだけ多く書くように促す。 ・工夫には、様々な視点があることをコメントする。	付箋 筆記用具 模造紙 マジック
13分	【ふり返りと分かち合い】 ① 自己の生活をふり返り、態度表明文を書く ② グループの中で発表する	・自らの「態度」を、何かを始める・やめるといった行動として示し、そのことを他の人に「表明」することによって、意欲を高める。	ワークシート (P.74)
2分	【アドバースタイム】 いかがでしたか？ 子どものころは、食生活を含めた基本的な生活習慣が形成されていく大切な時期です。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.109「早寝早起き朝ごはん」「子どもの健やかな成長のために、睡眠は大切です」「一日のスタートは朝食から」 P.110「『早寝早起き朝ごはん』国民運動の推進」の中から、状況に応じて読んで読む。 《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		配付資料

3-② 朝食は目覚めのスイッチ

①子どもに朝食をとらせるための工夫について、各自付箋に書く（8分）



子どもに朝食をとらせるための工夫を、できるだけたくさん付箋に書いてください。書くときには、次の2点に注意してください。

- 1枚の付箋には、1つのことを書きます。
 - 工夫は、実践しておられることでも、実践はしていないがこうすればよいと思われることでも構いません。
- 時間は、5分とります。

家族そろって食べる

○ 1枚に1つのこと

早く寝させて、早く起こす

× 1枚に複数のこと

②各自が書いたものを紹介する（6分）

（時間がきたら）
グループ内で順番に、各自が書いたものを紹介し合ってください。



③出された付箋を整理し、見出しを付ける（8分）



出された付箋を整理し、似たものをまとめて島の特徴を示す見出しを付けましょう。

（見出しが付いたら）

グループの代表者を決め、代表者が発表しやすいように、グループの考えをまとめましょう。

④グループで話し合ったことを代表が発表する（5分）

各グループでは、どんな意見が出たでしょうか。代表の人は、発表してください。



⑤まとめ（3分）



いかがでしたか。子どもに朝食をとらせるための工夫には、食事の内容・生活リズム・家族の協力等、様々な視点がありました。しかし、頭で分かっている、実行はなかなか難しいものです。今日は、ぜひみなさんに態度表明をしていただき、実践への意欲を高めていただきたいと思います。それではしばらく時間をとりますので、ワーク1に記入しましょう。



「わが家の一流シェフ in 島根」 料理コンクール入賞作品

キャベツの卵焼き

田部智子さん（奥出雲町・中学3年）

作り方はP.75をご覧ください。



4-① 親のしつけは子どもへの大切な贈り物

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：カードワーク

学習のねらい 日頃のしつけについて振り返るとともに、しつけをしていく上での大切なポイントについて考える。

準備するもの フィルムケース 筆記用具 名刺大に切ったカード
ワークシート【P.76】 アドバースタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、日頃のしつけを振り返る中で、子どもにとって何が大切かを考えてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①たましいの握手〈P.97〉</p> <p>②音探し〈P.99〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4～6人のグループに分かれた後、自己紹介をする。 	フィルムケース
30分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①カードに記入する</p> <p>②カードを中央に置く</p> <p>③カードを引く カードがなくなるまで繰り返す</p> <p>④最後に残ったカードについてコメントする</p> <p>⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多く記入してもらおう。 ・どのカードも大切なものであることを確認する。批判しない。 ・そのカードを残した理由、ポイントとなったことについてコメントしてもらおう。 ・「振り返りと分かち合い」につなげる。 	筆記用具 カード
18分	<p>【振り返りと分かち合い】</p> <p>①学習で気がついたことをワークシートにまとめる</p> <p>②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク1、ワーク2は両方書いてもよいし、片方だけでもよい。必要に応じて使い分けるとよい。 ・自己を振り返り、今後について考える時間をとる。 ・全体に広げることができれば、取り上げてよい。 	ワークシート (P.76)
2分	<p>【アドバイスタイム】</p> <p>いかがでしたか？「しつけ」は親から子どもに伝える大切な贈り物です。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.111「子どもは『親』のぬくもりを求めています」「子どもはSOSがうまく言えない」「ルールってだれのためにあるんだろう」 P.112「子どもの言うことを何でも聞くことが、親のやさしさとは限らない」「良いことをしたときはしっかりほめてあげる」「感情にまかせて叱ることとしつけとは違う」 P.113「いちばんの友達はテレビ、なんて寂しすぎる」の中から、状況に応じて選んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

4-① 親のしつけは子どもへの大切な贈り物

席を合わせ、4～6人のグループになります。名刺大に切ったカードを準備して、参加者に渡します。

①カードに記入する (10分)



お配りしたカードに、「日頃のしつけで大切にしていること」を記入してください。

1枚のカードに1つずつです。簡潔に、思いついたまま、できるだけ多くのカードに記入してください。

例えば、「あいさつ」というような行動面のことでいいですし、「一貫性」というような親の姿勢についてでも構いません。ただし、「時間や約束を守る」というように、複数のことを書かないでください。

記入する時間は、8分です。

※例えば…

あいさつ

一貫性

○ 1枚に1つのこと

時間や約束を守る

× 1枚に複数のこと

②カードを中央に置く (1分)

グループですべてのカードを1つにまとめ、トランプのようにきってください。そして、記入した内容が見えないようにしてグループの中央に置いてください。



③カードを引く (10分…カードがなくなるまで)



1人1枚ずつカードを引いてください。

次のカードを引いた時、より大切だと思うカードだけを手元に残してください。

どれも大切なカードですが、どちらか1枚だけに決めてください。選ばなかったカードは自分の前に裏返して置いてください。

これを、カードの山がなくなるまで、繰り返しましょう。

※「行動面」と「親のしつけに対する姿勢」についてそれぞれ1枚ずつ残してもよい。

④最後に残ったカードについてコメントする (5分)

最終的に手元に残ったカードは何ですか。グループで見せ合ひましょう。そして、なぜそのカードを残したのか理由や思いを発表しましょう。時間は5分です。では、お願いします。



⑤まとめ (4分)



いかがでしたか。

(例) ・どのグループも手元に残すカードを選ぶ時、かなり悩んでおられましたね。

・〇〇グループでは、挨拶など、生活上のルールについての話が多かったですね。

では、今日の学習をふり返って、感じたことをワークシートに書きましょう。

※ワーク1、ワーク2は両方書いてもらってもよいし、どちらか片方だけ書いてもらってもよい。

4-② 我が家のルールづくり大作戦！

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：75分程度

■手法：ラベルワーク

学習のねらい 家庭や社会のルール・マナーについて考え、日常生活をふり返る中で、「我が家のルール」を作成する。

準備するもの マジック 筆記用具 付箋（グループ数×50枚程度）
模造紙（各グループに1枚） ワークシート【P.77】
アドバイスタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、家庭や社会で守るべきルール・マナーについて見つめ直し、「我が家のルール」を作成してもらおうと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①バースデーチェーン〈P.100〉 ②Yes / No クイズ〈P.102〉</p> <p>③自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・②は、家庭のルールに関する基本的な質問を2～3問程度する。 例 自分は約束の時間は守る方である。 ・③は、質問の内容をもとに自己紹介をする。 	
50分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①個人で付箋に記入する ②グループで付箋を分類し、島を作る ③島に見出しを付ける ④グループごとに発表する ⑤我が家のルールを決める ⑥我が家のルールを発表する ⑦まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「質より量」「批判しない」「簡潔に」をポイントとして押さえる。 ・一言で簡単にコメントする。 ・3～5つぐらいを考えさせる。 	<p>筆記用具 付箋</p> <p>模造紙</p> <p>マジック</p> <p>ワークシート (P.77)</p>
13分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①学習で気がついたことをワーク2に書く ②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。 	ワークシート (P.77)
2分	<p>【アドバイスタイム】</p> <p>いかがでしたか？ 今日家庭のルールをつくっていただきましたが、ルールって誰のために、何のためにあるのでしょうか？ 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.111「ルールってだれのためにあるんだろう」を読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

4-② 我が家のルールづくり大作戦！

①個人で付箋に記入する (10分)



では、「家庭や社会で守るべきルール・マナー」について考えてみましょう。はじめは個人作業です。付箋に、我が家のルール（マナー）について、大切に思うこと、また気をつけることなど、思いついたことを何でも自由に書いてください。質より量を重視します。ただし、1枚の付箋には1つのことを書いてください。時間は8分です。

自分から先にあいさつする

○ 1枚に1つのこと

靴を揃えたり、脱いだ物は洗濯機へ入れたりする

× 1枚に複数のこと

②グループで付箋を分類し、島を作る (10分)

次に、グループでの活動に入ります。まず、グループ内で発表の順番を決めてください。最初の人から1枚の付箋を模造紙の上に出し、書いた意味を説明します。その時、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、説明をしながらその付箋の近くに置きます。似た内容の付箋がなくなったら、次の人が別の1枚を出し、同じように説明をします。これを繰り返して、模造紙の上にくいつかの島を作りましょう。



③島に見出しを付ける (6分)



(島ができたら)
模造紙の上にくいつかの島ができていると思います。書いた付箋を見ながら、それぞれの島の特徴を示す見出しを付けましょう。(見出しが付いたら)
グループの代表者を決め、代表者が発表しやすいように、グループの考えをまとめましょう。

④グループごとに発表する (6分)

グループごとに模造紙を黒板に貼って、グループ内で話し合った内容を代表者は発表してください。



⑤我が家のルールを決める (10分)



前に貼ってある事柄を参考に、家庭で実践したいものを3～5つぐらい考えて、「我が家のルール（ ）ヶ条」をワーク1に書きましょう。

⑥我が家のルールを発表する (5分)

それでは、我が家のルールを1人ずつ発表してください。



⑦まとめ (3分)



みなさん「我が家のルール」ができましたね。ぜひご家庭にもどって、親子で話し合ってみてください。それでは、今日の学習をふり返って、ワーク2に書きましょう。

4-③ しかる基準は？

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：ランキング

学習のねらい 時と場合に応じた子どもへのしかり方・かかわり方を考えることにより、社会のルールを教えるためのしかる基準について考える。

準備するもの フィルムケース 筆記用具 ワークシート【P.78】
アドバイスタイトム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、子どもたちをしかることは、どんな時に必要か、また、どうしかるべきかについて、みなさんと考えてみたいと思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①音探し〈P.99〉 ②自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれた後、自己紹介をする。 	フィルムケース
35分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①ワーク1に個人でランク付けをする ②ワーク2にランク付けの根拠を考え、記入する ③他のメンバーの意見を聞いて話し合う ④グループごとに発表する ⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや判断で、A～Eでランク付けすることを伝える。 ・メンバーでランクが一致している項目とばらつきのある項目を中心に価値観を出し合い、しかる基準について考えるように伝える。 ・話し合いで話題になったことを中心に発表するよう伝える。 ・グループ発表を受けて、気づいたことや感じたことをコメントする。 	筆記用具 ワークシート(P.78)
13分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①今後の子どもとのかかわり方について、ワーク3に自分の考えを書く ②グループ内で発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。 ・全体に広げることができればとりあげる。 	ワークシート(P.78)
2分	<p>【アドバイスタイトム】</p> <p>いかがでしたか？「悪いことは悪い」「いけないことはいけない」とはっきりしかることも、親の役割です。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.113「ずいぶん厳しく叱られたけど、今ではそれに感謝しています」を読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

4-③ しかる基準は？

①ワーク1に個人でランク付けをする（7分）



では、ワークシートのワーク1をご覧ください。
 どんな時に、どうしかるべきかについて、まず、個人で考えていただきます。
 (ワーク1の「子どもの様子」と「A～Eのランク」を読み上げる)
 では、5分で、「あなた」の欄に、自分の考えや判断で、A～Eのランクを付けてみましょう。

②ワーク2にランク付けの根拠を考え、記入する（5分）

(ほぼ全員が個人のランクを付けたことを確認して)
 みなさんが、ランク付けした理由や根拠は何だったでしょうか。
 ワーク2に考えを書いてください。



③他のメンバーの意見を聞いて話し合う（15分）



グループのメンバーの考えを聞いてみましょう。まず、他のメンバーのランク付けを聞いて、ワーク1の「グループのメンバー」の欄に書き込みましょう。
 全員のランク付けを書き込んだら、メンバーでランクが一致している項目とばらつきのある項目を中心にそれぞれの考えを出し合い、子どもとのかかわり方について考えや思いを出し合いましょう。
 時間は、15分です。後で、グループの話し合いの様子を簡単に発表してもらいますので、代表者も決めておいてください。

※ 必要に応じて、発表用の掲示表を準備しておく。(模造紙・ホワイトボード等)

④グループごとに発表する（6分）

時間になりましたので、グループ発表に移ります。代表の方は、グループの話し合いで中心になったことを簡単に発表してください。



⑤まとめ（2分）



いかがでしたか。
 (例)・どのグループも、子どもに社会のルールを教えるため、しかることは必要だと考えておられました。
 それでは、今日の学習をふり返って、ワーク3に今後の子どもとのかかわり方について考えを書きましょう。

【活用のポイント】

このプログラムは、対象となる親（保護者）の子ども年齢に応じて、ワーク1の項目を変更するとよいでしょう。

4-④ 誰が決めるの？

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：50分程度

■手法：ランキング

学習のねらい	子どもの活動や持ち物、家庭でのルールなどの決め方を繰り返すことにより、親として適切なかかわり方をしようとする意識を高める。
準備するもの	70cm程度のロープ（1グループにつき7本） 筆記用具 ワークシート【P.79】 アドバイスタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 今日、子どもの持ち物や家庭でのルールの決め方について、いっしょに考えてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
10分	【アイスブレイク】 ①バースデーチェーン〈P.100〉 ②幸せの〇〇〇リング〈P.98〉	・①は、誕生日順に3人グループに分かれた後、自己紹介をする。	ロープ
33分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ①ワーク1の「現状は？」と「理想は？」のあてはまるところに○をする ②理想と現実を比べて、気づいたことをワーク2に記入する ③グループで情報交換をする ④まとめ	・対象や時間に応じて、項目を選んで実施してもよい。 ・家庭によって状況や実態が違うので、話し手の発言を受け止めるように伝える。	筆記用具 ワークシート（P.79）
5分	【振り返りと分かち合い】 ①学習を振り返って、気がついたことをワーク3にまとめる ②グループで発表し合う	・自己を振り返り、今後について考える時間をとる。 ・全体に広げることができれば、取り上げてよい。	ワークシート（P.79）
2分	【アドバイスタイム】 いかがでしたか？ 今日話し合った子どもの活動や持ち物、家庭のルールは、場合に応じて、考えをもって判断することが大切です。文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.112「子どもの言うことを何でも聞くことが、親のやさしさとは限らない」 P.117「自分で考え自分で行動できる人に育ててほしいなら」の中から状況に応じて選んで読む。		配付資料
	《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		

4-④ 誰が決めるの？

①ワーク1の「現状は？」と「理想は？」のあてはまるところに○をする（10分）



ワーク1の表をご覧ください。そこには「子どもの活動」や「持ち物」、「家庭でのルール」などが書かれています。みなさんの家庭では、主に誰が決めていますか。「現状は？」の「親」・「親子で相談」・「子ども」の中で、最もあてはまるものを選んで、○を付けましょう。
また、理想としては誰が決めたらよいと思いますか。「理想は？」の欄に、同じように○を付けましょう。

※対象や時間に合わせて5～10項目選んで実施してもよい。

②理想と現実を比べて、気づいたことをワーク2に記入する（5分）

理想と現実を比べてみて、どんなことに気がつきましたか？
気がついたことをワーク2に記入しましょう。



③グループで情報交換をする（15分）



どなたからでもよいので、1人ずつ順番に発表しましょう。
みなさん、それぞれ状況や実態が違いますので、「相手の話を受け止める」ことを大事にして、情報交換をしましょう。

④まとめ（3分）

それぞれの考えや思いを聞き、どんなことを感じましたか？
(各グループでの発表を肯定的に認め、特に印象に残ったものや特徴的なものなどを紹介する)
では、今日の学習をふり返って、気がついたことや考えたことをワーク3に書きましょう。



4-⑤ 子どもにとってのお手伝い

■対象：幼児～中学生の親

■時間：50分程度

■手法：ランキング

学習のねらい 手伝いについてお互いの考えを話し合うことで、手伝いの役割や意義について考える。

準備するもの フィルムケース ワークシート【P.80】 筆記用具
アドバイスタイトム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、みなさんと家庭での手伝いについて語り合う中で、手伝いが子どもの育ちにどのような意味があるかを考えてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①音探し〈P.99〉</p> <p>②自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれた後、日頃子どもにさせている（子どもがしている）手伝いを紹介しながら自己紹介する。 	フィルムケース
25分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①ワーク1の個人で「大切だと思う手伝い」を3つ選ぶ</p> <p>②ワーク2に選んだ理由を書く</p> <p>③他のメンバーの意見を聞く</p> <p>④まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・○印を付けるように伝える。 ・○を付けた理由をグループで順に発表するように伝える。 ・実際にさせている手伝いの工夫や子どもが楽しんで手伝いをしている様子も取り上げるよう伝える。 	筆記用具 ワークシート(P.80)
10分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①学習で気がついたこと感じたことをワーク3にまとめる</p> <p>②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。 ・全体に広げることができれば、取り上げてよい。 	ワークシート(P.80)
5分	<p>【アドバイスタイトム】</p> <p>いかがでしたか？ 各ご家庭でのお手伝いに関する考え方について、積極的に意見交換していただきました。手伝いは親が子どもに役割をもたせ、家族の一員としての意識や責任感・自立心を身につけていく上で子育ての大切な要素です。</p> <p>文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。</p> <p>※資料 P.114「家事を手伝わせたら、子どもがしっかりしてきた」を読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

4-⑤ 子どもにとってのお手伝い

①ワーク1の個人で「大切だと思う手伝い」を3つ選ぶ（3分）



では、ワークシートをご覧ください。ワーク1に書かれた手伝いのうち、あなたが子どもの成長にとって大切だと思うもの3つを選んで、○をつけましょう。選んだ3つのうち、特に大切だと思うもの1つに◎をつけましょう。

※対象やその実態に合わせて、手伝いの内容を変更するとよい。
また、目的や時間に合わせて、手伝いの項目数を変更してもよい。

②ワーク2に選んだ理由を書く（3分）

（ほぼ全員が○をつけたことを確認し）

あなたが選んだ手伝いをすることによって、どんな子どもに成長してほしいと思いますか。また、そう思った理由をワーク2に書きましょう。



③他のメンバーの意見を聞く（18分）



（ほぼ全員が書けたことを確認し）

では、グループのみなさんの考えを聞いてみましょう。
ワークシートの表にみなさんがどれに○をつけたかを記入しましょう。発表する場合は、実際にさせている手伝いの様子や工夫も紹介してみてください。

④まとめ（1分）

（話し合いが終わったことを確認してから）

では、今日の学習をふり返って、気づいたことや感じたことをワーク3に記入しましょう。



【活用のポイント】

このプログラムは、対象となる親（保護者）の子どもの年齢に応じて、ワークシートのお手伝いの項目を変更するとよいでしょう。

4-⑥ 子どもに本当に必要ですか？

■対象：幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：ランキング

学習のねらい	子どもにとって必要なものかどうかを話し合うことで、様々な価値観にふれ、子どもにものを与える時、親としてどのようなことに配慮すべきかを考える。
準備するもの	宝カード ワークシート【P.81】 筆記用具 アドバイスタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 今日、子どもに本当に必要なものを語り合う中で、親としての姿勢について考えてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
10分	【アイスブレイク】 ①宝探し（P.99） ②自己紹介	・①は4人グループに分かれた後、自己紹介をする。	宝カード
30分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ①ワーク1に個人でランク付けをする ②メンバーのランクを記入する ③グループで思いや考えを話し合う ④グループごとに発表する ⑤まとめ	・全部をランキングできなければ、できるところまででいいことを伝える。 ・②では、メンバーのランクを表に記入するように伝える。 ・③では、意見が異なる点を中心に話し合うよう伝える。 ・④では、話し合いの様子について簡単に発表してもらう。	筆記用具 ワークシート（P.81）
18分	【振り返りと分かち合い】 ①今後配慮すべきことについて、ワーク2にまとめる ②グループで発表し合う	・自己を振り返り、今後について考える時間をとる。 ・全体に広げることができれば、取り上げてよい。	ワークシート（P.81）
2分	【アドバイスタイム】 いかがでしたか？ ものがあふれている今、子どもたちの望むまま与えすぎていることはないでしょうか？ 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.112「子どもの言うことを何でも聞くことが、親のやさしさとは限らない」を読む。 《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		配付資料

4-⑥ 子どもに本当に必要ですか？

①ワーク1に個人でランク付けをする (5分)



ワーク1をご覧ください。
そこには、「子どもに必要(?)なもの」を()個あげています。それぞれについて、子どもに本当に必要なものかどうかを考え、A・B・C・Dのランクを付けましょう。

※対象やその実態に合わせて、物品の内容を変更するとよい。
また、目的や時間に合わせて、物品の項目数を変更してもよい。

ランクについて説明します。表の下をご覧ください。

- ・必要(あった方がよい) → A
- ・どちらかといえば必要 → B
- ・どちらかといえば必要ない → C
- ・必要ない(ない方がよい) → D

では3分で、まず自分でA~Dのランク付けをしてみましょう。
早く書き終えた方は、なぜそのランクにしたのかをメモしておきましょう。
(後でお互いに発表し合うためです)

②メンバーのランクを記入する (3分)

(ランク付けがほぼ完了したことを確認してから)
では、グループのみなさんのランクを聞いてみましょう。ワーク1にみなさんのランクも記入していきましょう。



③グループで思いや考えを話し合う (13分)



なぜそのランクにしたのか、それぞれの考えを話し合ってみましょう。
あとで、話し合いの様子を発表してもらいますので、発表する方を決めておいてください。
※話し合いが進まないグループには、話し合いのきっかけをつくる。
(例：必要ではないけれど、与えている物はありませんか)

④グループごとに発表する (8分)

それでは、代表の方は各グループでの話し合いの様子を発表してください。
(すべての発表が終了したら、簡単にコメントをする)



⑤まとめ (1分)



様々な観点から意見を出していただきました。それでは、今日の学習を通して、今後子どもにものを与える際に、どのようなことに配慮すればよいか個人で感じたことをワーク2に書いてみましょう。

4-⑦ 家庭学習の習慣をつけるために

■対象：小学生～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：ラベルワーク

学習のねらい 家庭学習の習慣化についてのポイントや工夫を考えることによって、子どもが進んで学習するために親としてできることに気づく。

準備するもの 付箋（グループ数×50枚程度） 模造紙（各グループに1枚） 筆記用具
マジック ワークシート【P.82】 アドバイスタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、家庭学習の習慣をつけるために大切なこと、親としてできる工夫を考えてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
8分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①バースデーチェーン（P.100） （子どもの誕生日）</p> <p>②家庭学習 Yes / No クイズ（P.102）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①は、4人グループに分かれた後、自己紹介をする。 ・②は、家庭学習に関する質問を2～3問出す。 <p>例・我が子の家庭学習の時間に満足している。 ・我が子より昔の自分の方が家庭学習をしている。</p>	
40分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①個人で付箋に記入する</p> <p>②グループで付箋を分類し、島を作る</p> <p>③グループで話し合ったことを代表が発表する</p> <p>④まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親の心構えや工夫、または子どもにさせたいこと、親子で取り組みたいことなど、記入のためのポイントを紹介する。 	付箋 筆記用具 模造紙 マジック
10分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①学習をふり返って、気がついたことをワークシートにまとめる</p> <p>②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク1、ワーク2は両方書いてもよいし、片方だけでもよい。必要に応じて使い分けるとよい。 ・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。 ・全体に広げることができれば、取り上げてよい。 	ワークシート（P.82）
2分	<p>【アドバイスタイム】</p> <p>いかがでしたか？家庭学習の習慣をつけるための答えは1つではありません。子どもが進んで学習できるようにするために、実態や発達段階に応じてどんな工夫ができるかを考えることは、親の重要な役割です。文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。</p> <p>※資料 P.108「あなたの生き方が、子どもへの最高の教育になる」 P.111「ルールってだれのためにあるんだろう」 P.116「いい本に出会うことは、いい人に出会うことに似ている」「夢をもつと、人は強くなる」から状況に応じて読んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

4-⑦ 家庭学習の習慣をつけるために

①個人で付箋に記入する (10分)



※例えば…

「家庭学習の習慣をつけるために大切にしたいこと、親として工夫できること」について付箋に書いてみましょう。心構えでもよいですし、具体的な行動でも構いませんので、思いついたことを何でも自由に書いてください。ただし、1枚の付箋には1つのことを書いてください。※例えば…。時間は8分です。

学習時間を決める

○ 1枚に1つのこと

学習時間を決めたり、テレビ視聴の時間を決めたりする。

× 1枚に複数のこと

【付箋記入のヒント】…参加者の様子を見ながら、様々な観点から考えるよう助言する。

- 「子どもに取り組みたいこと」の一例 → 「学習時間を決める」
- 「親の心構えや姿勢」の一例 → 「テストの結果をしっかりほめる」
- 「親子で取り組みたいこと」の一例 → 「親子で読書する時間をつくる」

②グループで付箋を分類し、島を作る (17分)

次に、グループの活動に入ります。
 まず、グループ内で発表の順番を決めてください。
 最初の人から1枚の付箋を模造紙の上に出しながら、書いた意味を簡単に説明します。その時、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、説明をしながらその付箋の近くに置きます。
 似た内容の付箋がなくなったら、次の人が別の1枚を出し、同じように説明をします。
 これをくり返して、模造紙の上にくいつかの島を作りましょう。
 (島ができたら)
 模造紙の上にくいつかの島ができていると思います。
 書いた付箋がそこでいいか、確認しましょう。
 確認できたら、それぞれの島の特徴を示す見出しを付けましょう。
 (見出しが付いたら)
 グループの代表者を決め、代表者が発表しやすいように、グループの考えをまとめましょう。



③グループで話し合ったことを代表が発表する (10分)



グループで話し合ったことを、順に発表してください。

④まとめ (3分)

それぞれの理由や思いを聞き、どんなことを感じましたか？
 (各グループの発表を肯定的に認め、特に印象に残ったものや特徴的なもの、学習テーマに直結したものを伝える)
 では、今日の学習をふり返って、気がついたことや考えたことをワークシートに書きましょう。



4-⑧ ケータイ・インターネットとのつきあい方

■対象：小学生～中学生の親

■時間：70分程度

■手法：ラベルワーク

学習のねらい 子どもたちが携帯電話・インターネットを利用することで考えられる不安や悩み、問題点を話し合い、家庭で取り組めることを考える。

準備するもの 付箋（グループ数×50枚程度） 模造紙（各グループに1枚） 筆記用具
マジック ワークシート【P.83】 アドバイスタイトム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、子どもが携帯電話やインターネットを使うことでの不安や悩みを話し合い、親としてどう対応すべきか考えてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】 電話番号チェーン</p> <p>①自分の携帯電話の末尾番号2桁を頭に思い浮かべる ②話さずに、番号順に1列（または円）になり、順に4人組をつくる ③グループで自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話をもたない人は、固定電話の番号でよい。 ・指で示したり、足で書いたりするのはよいと伝える。 	
46分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①個人で付箋に記入する ②グループで付箋を分類し、島を作る ③家庭で取り組めることを話し合いワーク1に記入する ④グループで話し合ったことを代表が発表する ⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①では、体験談や知人の話、マスコミ等の情報などから心配なことや問題点を書くように伝える。 ・③では、分類した島から家庭で取り組めそうなことにしぼって話し合うよう伝える。 ・④では、話し合いの様子について簡単に発表してもらう。 	<p>付箋 筆記用具 模造紙 マジック</p> <p>ワークシート (P.83)</p>
10分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①今後、家庭で取り組めることについて、ワーク2に記入する ②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。 ・全体に広げることができれば、取り上げてよい。 	ワークシート (P.83)
4分	<p>【アドバイスタイトム】</p> <p>いかがでしたか？携帯電話やインターネットを利用させる場合は、お子さんと使用するルールやマナーについてきちんと話し合うことが大切だと思います。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.113「携帯電話やパソコンは使いよう」「情報モラルについて家庭で話し合いましょう」 P.114「子どもを有害な情報から守るために」から状況に応じて選んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

4-⑧ ケータイ・インターネットとのつきあい方

①個人で付箋に記入する (10分)



みなさんもお存じだと思いますが、携帯電話やインターネットは、非常に便利である一方、大きな危険も潜んでいます。子どもたちがこれらの電子メディアを使う時に、どのような心配や不安、問題があるでしょうか？付箋に書いてみましょう。

お子さんのことでもよいですし、知人から聞いた話やマスコミで取り上げられ知っていることでも構いませんので、思いついたことを何でも自由に書いてください。ただし、1枚の付箋には1つのことを簡単に書いてください。

時間は8分です。

※例えば…

深夜でもメールをしている。

○ 1枚に1つのこと

深夜でもメールをしたり、ゲームをしたりする。

× 1枚に複数のこと

【予想される問題点】

- ・携帯依存症（メールやゲーム）
- ・出会い系サイトなど不適切な利用
- ・ネットを使いたいじめ
- ・迷惑メール
- ・チェーンメール
- ・親が知らないところで利用している
- ・ブログ、プロフによる個人情報の流出
- ・情報ダウンロード等による高額請求
- ・架空請求
- ・ワンクリック詐欺
- など

②グループで付箋を分類し、島を作る (15分)

次に、グループの活動に入ります。
まず、グループ内で発表の順番を決めてください。
最初の人から1枚の付箋を模造紙の上に出しながら、簡単に説明します。その時、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、説明をしながらその付箋の近くに置きます。
似た内容の付箋がなくなったら、次の人が別の1枚を出し、同じように説明をします。これを繰り返して、模造紙の上にくつもの島を作りましょう。
(島ができたら)
模造紙の上にくつもの島ができていると思います。
書いたカードがそこでいいか、確認しましょう。
確認できたら、それぞれの島の特徴を示す見出しを付けましょう。



③家庭で取り組めることを話し合いワーク1に記入する (10分)



では、その不安や問題を取り除くために、家庭で取り組めることをグループで話し合ってみてください。

あとで、話し合いの様子を発表してもらいますので、発表する方を決めておいてください。

④グループで話し合ったことを代表が発表する (10分)

グループで話し合ったことを、代表の方は全体に紹介してください。



⑤まとめ (1分)



様々な観点から意見を出していただきました。それでは、今日の学習を通して、今後家庭で取り組めることについて、ワーク2に記入してみましょう。

5-① 身近なところに危険がいっぱい

■対象：乳幼児～小学校低学年の親

■時間：50分程度

■手法：ピクチャーワーク

学習のねらい 身近な生活の中に潜む危険に気づき、子どもの安全に関する意識を高める。
準備するもの 宝カード 筆記用具 ワークシート【P.84】
 アドバイスタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 今日、身近な生活空間の中に潜んでいる危険について、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
10分	【アイスブレイク】 ①たことたい〈P.98〉 ②宝探し〈P.99〉	・②は4人グループ分けの後、簡単に自己紹介をする。	宝カード
30分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ①ワーク1を見て、危険箇所に○をする ②それぞれの考えを説明する ③これまでの経験から「ひやり・はっと」した場面を出し合う ④まとめ	・子どもの年齢によって考えられる危険は異なるが、危険の可能性として考える。 ・出にくいようであれば例としていくつか紹介できるように準備しておくとうい。	筆記用具 ワークシート(P.84)
8分	【ふり返りと分かち合い】 ①子どもの安全を守るために気をつけることをワーク2に書く ②全体で発表し合う	・書きにくいようであれば、心に残ったキーワードを書いてもらってもよい。 ・可能であれば、発表に対するコメントを言う。	
2分	【アドバイスタイム】 いかがでしたか？ 結構、意外なところに危険があるものですね。 子どもの行動は時として大人の予想を超えることがあります。室内だけでなく、外出の際にも身の回りに気を配ることが大切ですね。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.114「子どもの安全のために親が工夫しよう」 P.115「危険を知ることが、身を守ることにつながる」から状況に応じて読んで読む。 《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		配付資料

5-① 身近なところに危険がいっぱい

①ワーク1を見て、危険箇所に○をする (5分)



ワークシートをご覧ください。今日は日常生活における身近な危険性について考えてみたいと思います。
そこにある絵の中で、子どもにとって危険だと思われる場所やものに○を付けてみてください。
何個でも結構です。

②それぞれの考えを説明する (15分)

それでは、みなさんどこに○を付けられましたか？
順番に1つずつ、○を付けたところとその理由を説明してください。



③これまでの経験から「ひやり・はっと」した場面を出し合う (9分)



みなさん、いろいろな危険を見つけましたね。
まだまだ、この絵のほかにも思いつく危険があるのではないのでしょうか。
そこで、これまでのお子さんの行動を思い出し、「ひやり・はっと」した経験について、グループで話し合ってみましょう。

④まとめ (1分)

(簡単なコメントなど)

〇〇さんの話は私にとっては本当に意外でした。そういうことも起こりうるかもしれませんね。

それでは、こうした危険から子どもを守るために、親はどんなことに気をつければよいと思いますか。

今日の学習をふり返って、ワーク2に書いてみましょう。



(危険箇所の例)



5-② 危険箇所を考えよう

■対象：幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：ランキング

学習のねらい	身近な危険箇所に目を向け、子どもと一緒に危険について考えることができるように、親の危険意識を高める。
準備するもの	筆記用具 掲示用の一覧表 ひも ワークシート【P.85】 アドバイスタイム用配付資料 参考資料「まち歩きチェックポイント」【P.86】

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 今日は、地域の中にある身近な危険について考えていきたいと思ひます。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
7分	【アイスブレイク】 ①知恵の輪ループ〈P.99〉 ②自己紹介	・②では、経験をもとに危険を感じた場面について簡単に紹介し合う。	ひも
35分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ①ワークシートの説明をする ②ワーク1に個人でランク付けをする ③理由を付けてグループ内で発表する ④グループのランクを考える ⑤グループの意見を発表し、感想を述べ合う ⑥まとめ	・ワークシートの項目の詳細は各自の判断にゆだね、あまり細かい説明はしない方がよい。 ・合意形成を大切にしながらも、意見がまとまらなければその様子を発表してもらおう。	筆記用具 ワークシート(P.85) 掲示用一覧表
13分	【ふり返りと分かち合い】 ①地域の中で危険だと思う場所とその対処についてワーク2に書く ②グループで話し合う	・怪我の危険と犯罪の危険の両方から考えるとよい。 ・全体に広げてよい。	
5分	【アドバイスタイム】 いかがでしたか？ 子どもたちの周りには危険がたくさんあります。その危険を意識しているか、していないかが、危険回避の大切なポイントです。 学校や自治体では安全マップを作って危険箇所をチェックしているところがありますが、その際のポイントとして挙げられる場所は次のようなところですよ。 【「まち歩きチェックポイント」配付】 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.114「子どもの安全のために親が工夫しよう」 P.115「危険を知ることが、身を守ることにつながる」から状況に応じて読んで読む。		配付資料
	《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		

5-② 危険箇所を考えよう

①ワークシートの説明をする (1分)



それでは、地域の危険箇所について考えていきたいと思います。
ワークシートをご覧ください。

※対象や地域の様子に合わせて、危険箇所の内容を変更するとよい。
例えば、交通量の多い道路、海岸など。

②ワーク1に個人でランク付けをする (5分)

まず個人で考えてランクを付けてみましょう。時間は4分です。



③理由を付けてグループ内で発表する (5分)



グループの中で順番に1人ずつ、自分が付けたランクについて発表してください。その際、なぜそのランクにしたのか理由を付けて話してください。他の人は、自分が付けたランクの横に、グループの人の名前と発表したランクを書きこみながら、話を聞いてください。

④グループのランクを考える (15分)

※掲示用の一覧表を前に貼り出す。

みなさんの発表が終わったところで、今度は相談してグループのランクを決めてください。その際、グループの全員が納得するランクにすることが条件です。

多数決にしたり、安易に人の意見に流されたりしないように、みなさんでよく考えてください。どうしても決まらなければ、そのままでも結構です。

あとで、グループの決定を発表してもらいますので、発表する方を決めておいてください。



⑤グループの意見を発表し、感想を述べ合う (8分)



各グループ1分で要点や迷った点などを簡単に発表してください。
(発表が終わったら)

では、グループの中で今回の作業をして思ったことや他のグループの意見を聞いて感じたことなどを話し合ってみましょう。

⑥まとめ (1分)

いかがでしたか

(例) ・〇〇グループでは、地域の中に意外と死角があるのではという点が話題になっていましたね。

具体的にみなさんの地域には、どこにどんな危険がありそうですか？今日の話し合いを踏まえて、ワーク2に書いてみましょう。



5-③ 食生活を見直そう

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：50分程度

■手法：レーダーチャート

学習のねらい 子どもの食を取り巻く様々な課題について考え、家庭の食生活を見直すきっかけとする。

準備するもの フィルムケース 筆記用具 ワークシート【P.87】
 アドバイスタイム用配付資料 参考資料『にわとり症候群』『こ食』【P.88】

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 今日、子どもたちの食生活についてみなさん一緒に考えたいと思います。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
7分	【アイスブレイク】 ①音探し (P.99) ②自己紹介	・グループ分けの後、簡単に自己紹介をする。	フィルムケース
30分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ①ワーク1を記入する ②グループで意見交換をする ③『にわとり症候群』の言葉を考える ④ワーク2の『にわとり症候群』度のチェックをする ⑤まとめ	・答えを考えるのではなく、グループで自由に意見交換ができる雰囲気を作る。 ・ワークシートを見られたくない人もいるので、配慮が必要。	筆記用具 ワークシート (P.87) にわとり症候群の資料
10分	【ふり返りと分かち合い】 ①学習をふり返って感じたこと、気づいたことをワーク3に書く ②グループで話し合う	・5つの質問やグラフを参考にふり返るよう声をかける。 ・全体に広げてよい。	
3分	【アドバイスタイム】 いかがでしたか？ 今、子どもたちの食に関して、様々な視点から課題が指摘されています。それは、「食」の問題が体だけでなく、心にも影響を与えるからです。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.115「食生活の乱れは、心身のバランスも乱す」を読む。		配付資料
	《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		

5-③ 食生活を見直そう

①ワーク1を記入する (3分)



それでは、ワークシートをご覧ください。そこに5つほど、食生活に関する質問があります。およそでいいので、「はい」「いいえ」に○を付けてください。

②グループで意見交換をする (13分)

それでは、グループで、お互いどんな答えになったか聞いてみてください。また、その答えを選んだ理由も一緒に話してください。



③『にわとり症候群』の言葉を考える (3分)



ご家庭によって様々な事情がありますから、何が正しいということは言えません。けれど、今、子どもたちの食生活に関して問題になっていることがいくつかあります。『にわとり症候群』という言葉をご存知ですか？
ワークシートに「コケッココ ココココ」とあるカタカナの部分には、ある漢字が1字ずつ入ります。まず考えてみてください。

④ワーク2の『にわとり症候群』度のチェックをする (10分)

『にわとり症候群』と呼ばれる子どもの食の問題はこれです (P.88の資料を配付して簡単に説明する)。

それでは、それぞれのご家庭ではいかがでしょうか。項目ごとに当てはまるかどうかを考えて、例を参考にグラフで表してみましょう。

ワークシートは他の人に見せる必要はありませんから、難しく考えずに書いてみてください。



⑤まとめ (1分)



それでは、今日の学習をふり返って、ご家庭の食生活で見直したいところや気をつけたいところなど、感想も含めてワーク3に書いてみましょう。

6-① あそびのススメ

■対象：乳幼児～小学校高学年の親

■時間：70分程度

■手法：ラベルワーク

<p>学習のねらい</p> <p>子どもの頃に遊んだ経験について話し合うことによって、遊びを通じた体験が子どもの成長に豊かさをもたらすことに気づく。</p>	<p>子どもの頃に遊んだ経験について話し合うことによって、遊びを通じた体験が子どもの成長に豊かさをもたらすことに気づく。</p>
<p>準備するもの</p> <p>動物カード 付箋（グループ数×50枚程度） 模造紙（各グループに1枚） 筆記用具 マジック ワークシート【P.89】 アドバイスタイム用配付資料 参考資料「子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります！」【P.119】</p>	<p>動物カード 付箋（グループ数×50枚程度） 模造紙（各グループに1枚） 筆記用具 マジック ワークシート【P.89】 アドバイスタイム用配付資料 参考資料「子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります！」【P.119】</p>

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、子どもの頃の遊びをお互いに紹介しながら、遊びが子どもの育ちにどのような意味があるかを考えてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①動物あて(P.99) ②自己紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・②は、日頃子どもが熱中している遊びを紹介しながら行う。 	動物カード
45分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①ワーク1に自分が子どもの頃にした心に残っている遊びを3つ選び、紹介する ②遊びを通して、学んだことや身についた力を考えて付箋に記入する ③グループで付箋を分類し、島を作る ④グループで話し合ったことを代表が発表する ⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・①は、3つの順は特に意識しなくてもよいことを伝える。 ・②は、それぞれ経験が異なるので、いろいろな視点から自由に記入するように伝える。 ・③は、遊びが情緒や身体の健全な発達に欠かせないものであることに気づけるよう声かけをする。 ・④は、話し合いの様子について、簡単に発表してもらう。 	ワークシート(P.89) 付箋 模造紙 マジック
13分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①学習をふり返って、感じたことや気づいたことワーク2に書く ②グループで発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に広げることができれば取り上げてもよい。 	ワークシート(P.89)
2分	<p>【アドバイスタイム】</p> <p>いかがでしたか？ 最近はゲームなどの室内遊びが主流になり、様々な体験をすることが、以前に比べれば少なくなりました。また、交友関係が狭くなり、人とかかわれないという子どもも少なくありません。遊びを通しての友だちや地域の方とのコミュニケーションは、子どもにとって大切な栄養と言ってよいでしょう。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.114「家事を手伝わせたら、子どもがしっかりしてきた」 P.115「子どもは遊びが仕事です」 P.116「人生で大切なことは、自然の中で学んだ」から状況に応じて選んで読む。 また、国立青少年教育振興機構が行った調査では、次のような結果が出ています。 ※資料 P.119「子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります」を必要に応じて読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

6-① あそびのススメ

①ワーク1に自分が子どもの頃にしたい心に残っている遊びを3つ選び、紹介する(8分)



それでは、これからみなさん子どもの頃の遊びについて考えてみましょう。
 ※ワークシートを配付(ワーク1)
 子どもの頃に経験した遊びで、心に残っているものを3つ選んで、○で囲みましょう。
 そして、グループの中で、選んだ遊びについて簡単に紹介し合ってみましょう。

②遊びを通して、学んだことや身についた力を考えて付箋に記入する(10分)

その遊びが大切な思い出として今でも心に残っている理由は、みなさんの経験から感じたこと、学んだことがたくさんあったからだと思います。では、その遊びを通して、どんなことを学び、自分にどんな力が身についたと思いますか。過去をふり返って、付箋に書いてください。
 ただし、1枚の付箋には1つの事柄を書いてください。例えば…
 時間は8分です。



※例えば…

まずは挑戦してみることに

○ 1枚に1つのこと

協調性や思いやりの心

× 1枚に複数のこと

③グループで付箋を分類し、島を作る(15分)



次に、グループの活動に入ります。
 まず、グループ内で発表の順番を決めてください。
 最初の人から1枚の付箋を模造紙の上に出し、書いた意味を説明します。その時、メンバーの中に似た内容の付箋があれば、説明をしながら近くに置きます。
 似た内容の付箋がなくなったら、次の人が別の1枚を出し、同じように説明をします。これを繰り返して、模造紙の上いくつもの島を作りましょう。
 (島ができたら)
 模造紙の上いくつもの島ができていると思います。
 書いたカードがそこでいいか、確認しましょう。
 確認ができたら、それぞれの島の特徴を示す見出しを付けましょう。
 (見出しが付いたら)
 グループの代表者を決め、代表者が発表しやすいように、グループの考えをまとめましょう。

④グループで話し合ったことを代表が発表する(10分)

それでは、代表の方はグループの話し合いの様子を発表してください。
 (すべての発表が終了したら、簡単にコメントをする)



⑤まとめ(2分)



いろんな意見が出ましたね。遊びが子どもの育ちにとって、とても大切なことが分かりました。それでは、今日の学習を通して、感じたことや気づいたことをワーク2に記入してみましょう。

6-② 子どもにさせたい体験は？

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：50分程度

■手法：ランキング

学習のねらい	体験に含まれる様々な価値について話し合い、子どもの成長にどんな体験が必要かを考える。
準備するもの	フィルムケース 筆記用具 ワークシート【P.90】 アドバイスタイム用配付資料 参考資料「子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります！」【P.119】

時間	学習の流れ	留意点	準備
	【はじめに】 今日、子どもの成長を育むために必要な体験について、みなさんと考えていきたいと思えます。 その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。		
10分	【アイスブレイク】 ①音探し〈P.99〉 ②自己紹介	・②は子どもの頃はまっていた遊びの体験を交えて自己紹介をする。	フィルムケース
25分	《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》 【ワークショップ】 ①ワーク1の子どもにさせたい体験ベスト3を選ぶ ②グループの人の意見を聞く ③選んだ理由やその体験のよさについて話し合う ④まとめ	・3つの順位は特に意識しなくてもよい。 ・同じ体験を選んでもその理由等が異なるので、いろいろな視点から考えられるように声をかける。	筆記用具 ワークシート(P.90)
13分	【ふり返りと分かち合い】 ①大切にしたいことをワーク2に書く ②グループで発表し合う	・書きにくいようであれば、心に残ったキーワードを書いてもらってもよい。 ・全体に広げてよい。	
2分	【アドバイスタイム】 いかがでしたか？ 最近はゲームなどの室内遊びが主流になり、外で自然に接することも以前に比べれば少なくなりました。また、交友関係が狭くなり、人とかかわれないという子どもも少なくありません。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.115「子どもは遊びが仕事です」 P.116「人生で大切なことは、自然の中で学んだ」から状況に応じて選んで読む。 また、国立青少年教育振興機構が行った調査では、次のような結果が出ています。 ※資料 P.119「子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります！」を必要に応じて読む。		配付資料
	《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》		

6-② 子どもにさせたい体験は？

①ワーク1の子どもにさせたい体験ベスト3を選ぶ（4分）



これから子どもたちにさせたい体験について考えてみましょう。ワークシートをご覧ください。
 (ワークシートを読む)
 あなたならどんな体験を子どもにさせたいですか？次の体験の中からベスト3を選び、「あなた」の欄に書き入れてください。

②グループの人の意見を聞く（2分）

それでは、グループの人の意見を聞いてみましょう。
 あなたの欄の下に、グループの人の名前と、それぞれが選んだ体験を書きましょう。



③選んだ理由やその体験のよさについて話し合う（18分）



次に、みなさんがそれぞれ選んだ理由やその体験のよさなどを話し合ってみましょう。
 みなさんの経験談なども交えるといいですね。

④まとめ（1分）

いかがでしたか。
 (例) ・〇〇さんが言われた△△△の体験のよさは、ぜひ子どもたちに感じてほしいですね。
 ・みなさんのご意見からは、人とかかわりという点から体験活動のよさを感じていらっしゃる方が多いように感じました。
 では、今日の学習をふり返って、子どもたちの体験に関してこれから大切にしたいことは何でしょうか。ワーク2に書いてみましょう。



7-① もし、子どもが〇〇で育ったら

■対象：乳児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：カードワーク

学習のねらい 自分の考えを話したり、他の人の考えを聞いたりすることにより、子どもの個性や夢を大切にしたい子育てについて考える。

準備するもの 動物カード 筆記用具 ワークシート【P.91・92】 カード
正解シート 風船 マジック アドバースタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、「もし、子どもが〇〇で育ったら、どんな子どもになるか」をみなさんと話し合っていていただき、子どもの個性や夢を大切にしたい子育てについて考えていきます。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①グーパー (P.96) ②動物あて (P.99)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・②は、4人グループになった後、簡単に自己紹介をする。 	動物カード
35分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①ワークショップの説明を聞く ②グループでカード（ワーク1）を並べる ③正解を確認する ④ワーク2をする まずは個人で書きこむ グループで発表し合う ⑤まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルに従って説明し、不明な点があれば、質問を受ける。 ・グループ全員が納得の上、カードを並べるように伝える。 ・正解は、家庭教育手帳をもとにした一般的な考えであることを伝える。 ・正解は1つではないことを確認する。 	<p>筆記用具 ワークシート1 (正解シート:P.91)</p> <p>ワークシート2 (P.92)</p>
13分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①今日の学習で心に残ったキーワードを風船に書く ②風船キャッチを2～3回繰り返す ③全体で発表し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書きこんだ風船を全員で一斉に飛ばし、他の人の風船をキャッチさせ、書かれていることをじっくり確認させる。(風船キャッチ) ・風船に書かれていることを1つずつ取り上げ、書いた人に思いを簡単に話してもらう。 ・安全に配慮する。 	風船人数分 マジック
2分	<p>【アドバースタイム】</p> <p>いかがでしたか？ 最近の子どもは、冷めていて夢や希望をもたず、すぐにあきらめてしまうと言われていています。しかし、本来子どもは、子どもなりに夢や希望をもっているはずですよ。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.116「夢をもつと、人は強くなる」 P.117「完璧な人なんてどこにもいない」「自分で考え自分で行動できる人に育ててほしいなら」「同じ子どもなんて一人もいない」「ダメなところを責めるより、良いところを増やしていこう」から状況に応じて選んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

7-① もし、子どもが〇〇で育ったら

《事前準備》

ワークシート1は、正解シートとして使います。グループ作業では、ワークシート1をグループ分拡大コピーしておき、右側の点線部分は、切り取ってカードにしておきます。

①ワークショップの説明を聞く（3分）



それでは、今日のワークショップの説明をします。（ワークシート1・カード配付）今配ったワークシート1には、「もし、子どもが〇〇で育つと？」という質問が書いてあります。カードには、それぞれの質問の答えが書いてあります。カードは、グループのメンバーでほしい同じ数になるよう配ってください。それぞれの質問に最も適切だと思われるカードをワークシートに置き、グループで話し合って選んでいってください。グループのメンバー全員の納得の上で決めていってください。何か質問がありますか？

②グループでカード（ワーク1）を並べる（10分）

それでは、はじめてください。時間は10分です。
※作業が進みにくいグループがあった場合
肯定的なカードと否定的なカードに分けて作業するとやりやすいことをアドバイスする。



③正解を確認する（5分）



（正解シートを配付し、どの項目で迷ったかをグループに尋ねながら確認する）
正解は、配付したシートのとおりです。みなさんが迷われたように、他にも当てはまる正解もあると思います。これは、家庭教育手帳をもとにつくった一般的な解答ですので、これが全てだと思いきまないでください。

④ワーク2をする（16分）

（ワークシート2を配付する）
次に、ワーク2をします。
まずは、空欄に自分の考えを書きましょう。（6分）
その後、グループで発表し合います。（10分）



⑤まとめ（1分）



（話し合いの様子についてコメントした後）
では、今日のワークショップを振り返ってみましょう。
「今日の学習で心に残ったキーワード」を風船にマジックで書いてください。

ワーク2 解答例

- ①もし、子どもが親の笑顔を見て育つと？ ⇒ 幸せをしっかり感じる人になります。
- ②もし、子どもがイライラした親を見て育つと？ ⇒ 落ち着きのない生活を送るようになります。
- ③もし、子どもが祖父母を大切にする親の姿を見て育つと？ ⇒ 思いやりのあるやさしい人になります。
- ④もし、子どもが悪いことをしたとききちんと正されずに育つと？ ⇒ 自己中心的になります。
- ⑤もし、子どもが自然の中でしっかり遊んで育つと？ ⇒ 驚きや感動を体験し、豊かな感性が育まれます。

7-② こんな子どもに育ってほしい

■対象：乳幼児～中学生の親

■時間：60分程度

■手法：ランキング

学習のねらい	こんな子どもに育ってほしいという思いを語り合うことで、様々な価値観にふれ、望ましい子育てについて考える。
準備するもの	動物カード 筆記用具 ワークシート【P.93】 アドバイスタイム用配付資料

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>今日は、こんな子どもに育ってほしいという思いを語り合う中で、子どもにとって何が大切かを考えてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①動物あて (P.99)</p> <p>②自己紹介</p>	<p>・②では、好きな○○（例：食べ物、動物など）ベスト3の順位を理由をつけて紹介する。</p>	動物カード
30分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①ワーク1に個人で○付けをする</p> <p>②ワーク2に○付けの理由や根拠を記入する</p> <p>③メンバーで意見交換する</p> <p>④グループで話し合ったことを代表が発表する</p> <p>⑤まとめ</p>	<p>・特に大切だと思うものに◎を付けることを伝える。</p> <p>・グループの代表が、グループの傾向について発表する。</p> <p>・⑤では、一言で簡単にコメントする。</p>	筆記用具 ワークシート (P.93)
18分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>①学習で感じたこと、気づいたことをワーク3に記入する</p> <p>②グループで発表し合う</p>	<p>・自己をふり返り、今後について考える時間をとる。</p>	
2分	<p>【アドバイスタイム】</p> <p>いかがでしたか？ 親は誰しも我が子の健やかな成長を願っています。しかし、同じ子どもなんて一人もいませんし、完璧な子どももいません。</p> <p>文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。</p> <p>※資料 P.116「夢をもつと、人は強くなる」 P.117「完璧な人なんてどこにもいない」「自分で考え自分で行動できる人に育ってほしいなら」「同じ子どもなんて一人もいない」「ダメなところを責めるより、良いところを増やしていこう」から状況に応じて選んで読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

7-② こんな子どもに育てほしい

①ワーク1に個人で○付けをする (7分)



では、ワークシートをご覧ください。設定状況を話します。(ワーク1の設定状況の文を読む)
 それでは、5分でまず自分で○を付けてみましょう。
 特に大切だと思うものには◎を付けましょう。

②ワーク2に○付けの理由や根拠を記入する (3分)

(ほぼ全員が○を付けたことを確認したら)

○を付ける際の理由や根拠は何だったのでしょうか。ワーク2に書いてみてください。



③メンバーで意見交換する (12分)



(参加者が理由を書けたことを確認してから)

では、グループの他の人達の考えを聞いてみましょう。順番に○付けをした項目と理由を発表してください。聞く人は、ワーク1に他の人の欄も記入していきましょう。

全員の○印を書きこんだら、メンバーで順位が似ている項目やばらつきのある項目を中心にそれぞれの考えを出し合い、意見交換してください。時間は、10分です。後でグループの話し合いの様子を簡単に発表してもらいますので、代表者も決めておいてください。

④グループで話し合ったことを代表が発表する (7分)

グループの代表者は、グループでの話し合いについて報告してください。グループの傾向や特に話題になったことなどについて、発表してください。



⑤まとめ (1分)



いかがでしたか。みなさん一人ひとり、子どもへのいろいろな思いをもっていらっしゃるんですね。

それでは、今日の学習をふり返って、ワーク3に感じたこと、気づいたことを書きましょう。

【活用のポイント】

このプログラムは、対象となる親(保護者)の子どもの年齢に応じて、ワーク1の項目を変更するとよいでしょう。

7-③ わが子のPR ～短所も長所～

■対象：幼児～中学生の親

■時間：70分程度

■手法：アサーティブトレーニング

学習のねらい 子どものよいところを認め、PRすることを通して、子どもを肯定する気持ちを育てる。

準備するもの 動物カード 筆記用具 ワークシート【P.94】
アドバイスタイトム用配付資料 参考資料「短所も長所」【P.95】

時間	学習の流れ	留意点	準備
	<p>【はじめに】</p> <p>普段わが子を見ていると、よい面よりもよくない面が目につき、つい小言を言うようなことはありませんか。今日は、改めてわが子のよいところを認め、わが子をPRしてみましょう。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。</p>		
10分	<p>【アイスブレイク】</p> <p>① Yes / No クイズ (P.102)</p> <p>② 動物あて (P.99)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の子育てに関する質問をし(2～3問)、ワークショップへの方向付けを図る。 (例)自分ほめ上手である。 	動物カード
45分	<p>《講座の前にルールとマナーを確認しましょう》</p> <p>【ワークショップ】</p> <p>①ワーク1に「長所」を書く</p> <p>②1人ずつ子どもの長所を発表する</p> <p>③ワーク2に「短所」を書く</p> <p>④1人ずつ子どもの短所を発表する。聞く側は、短所を肯定的な言葉に言い換える</p> <p>⑤ワーク3にわが子のPR文を書く</p> <p>⑥グループ内で発表し合う</p> <p>⑦まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動面でも、性格面でもよいことを伝える。 ・短所を肯定的な言葉に言い換える例を示す。(参考資料を活用する) ・言い換えてもらった言葉を織り交ぜながら、わが子のPR文を書く。 ・よい見方に変った言葉を取り上げ、簡単にコメントする。 	筆記用具 ワークシート(P.94)
13分	<p>【ふり返りと分かち合い】</p> <p>今日のワークショップで感じたことや気づいたことをグループで話し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の感想を発表し、グループで共有する。 	
2分	<p>【アドバイスタイトム】</p> <p>いかがでしたか？今日の学習のように、見方を変えてみると、短所も長所に見え、ゆとりをもった言葉がけができるかもしれません。 文部科学省発行の家庭教育手帳には、次のような記述があります。 ※資料 P.117「ダメなところを責めるより、良いところを増やしていこう」を読む。</p> <p>《講座の最後にルールとマナーの確認をしましょう》</p>		配付資料

7-③ わが子のPR ～短所も長所～

①ワーク1に「長所」を書く（5分）



では、ワーク1をご覧ください。これから、お子さんを客観的に見て、長所を3つ書き出してみてください。行動面でも、性格面でもどちらでも構いません。

②1人ずつ子どもの長所を発表する（5分）

それでは、グループで順番に、まず長所から発表してください。



③ワーク2に「短所」を書く（5分）



次にお子さんの短所を3つ書き出してみてください。行動面でも、性格面でもどちらでも構いません。

④1人ずつ子どもの短所を発表する。聞く側は、短所を肯定的な言葉に言い換える（15分）



次に、1人ずつ短所を発表してください。
他の人は、短所を肯定的な言葉に言い換えてあげてください。
例えば、「集中力が続かず、次のことをしようとする」と発表されたら、見方を変えて、「好奇心旺盛」とか、「行動力がある」など、肯定的な言葉で表現してあげましょう。
発表者は、言い換えてもらった肯定的な言葉をワーク2の空欄にメモしておきましょう。

⑤ワーク3にわが子のPR文を書く（8分）

それでは、これから言い換えてもらった言葉を織り交ぜながら、わが子のPR文を書いてください。時間は7分です。



⑥グループ内で発表し合う（6分）



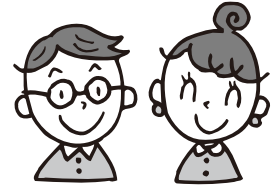
今書かれた文章をもとに、グループのみなさんにわが子を1分でPRしてください。

⑦まとめ（1分）

〇〇グループの中では、△△という短所が、□□という言葉に大変身していました。短所だと思っていたことも、見方を変えれば、長所になりましたね。
それでは、今日の学習をふり返って、感じたことや気づいたことを話し合ってみてください。



【ビデオ視聴 MEMO】



ワーク1 ビデオを視聴した感想を書きましょう。

ワーク2 これからの親としての心構えを一言で言うと…。

ワーク1

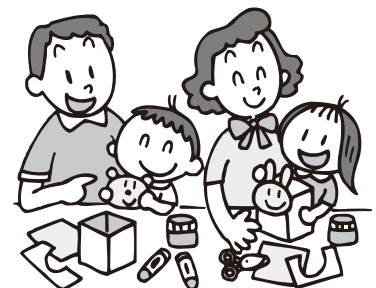
参加されたみなさんのお話を聞いて感じたこと、気づいたことを書きましょう。

Blank area for writing responses to the first question.

ワーク2

今後の子育てや家庭教育で、大切にしたいことを書きましょう。

Blank area for writing responses to the second question.



ワーク1

参加されたみなさんのお話を聞いて感じたこと、気づいたことを書きましょう。

Blank writing area for Work 1.

ワーク2

子どもの手本になるために、親として、大人として、これからどんなことを大切にしたいと思いますか。

Blank writing area for Work 2.



【ビデオ視聴 MEMO】

ワーク1 ビデオを視聴した感想を書きましょう。



ワーク2 これからの親としての心構えを一言で言うと…。

ワーク1 自分の聞き方を振り返ってみましょう。

子どもと接する時、心がけたいことは何ですか。

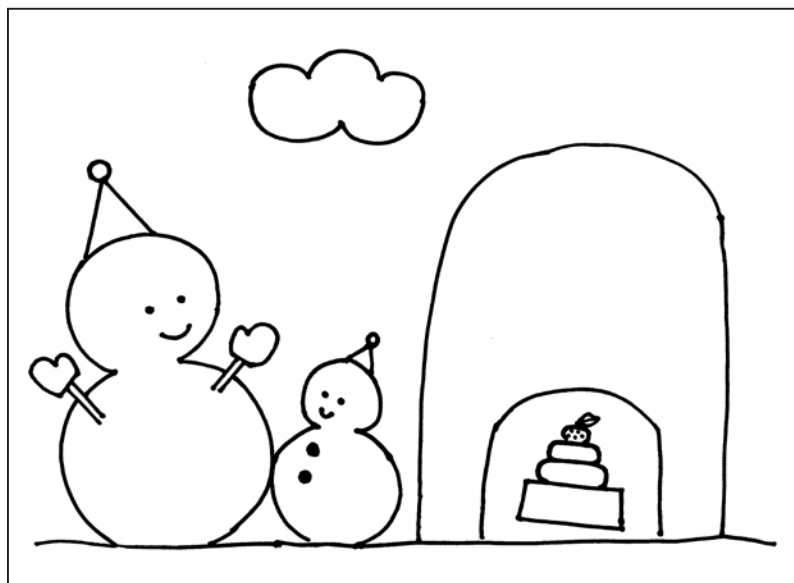
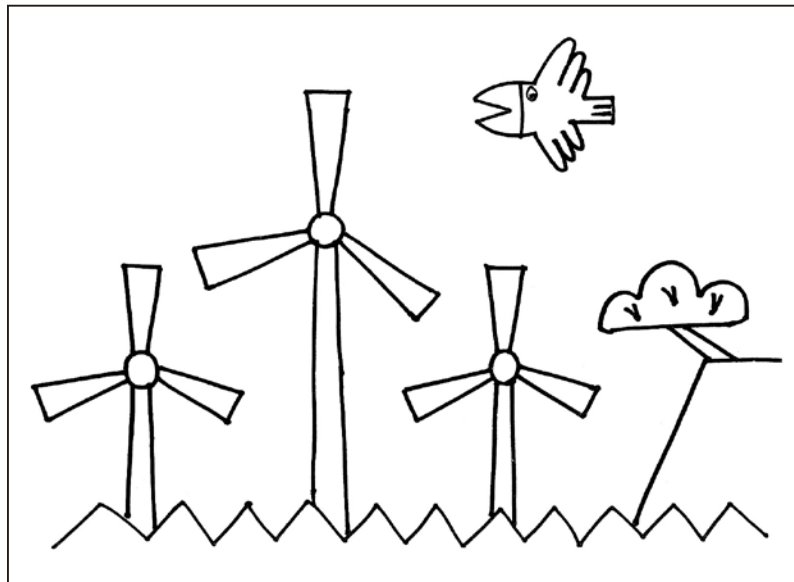
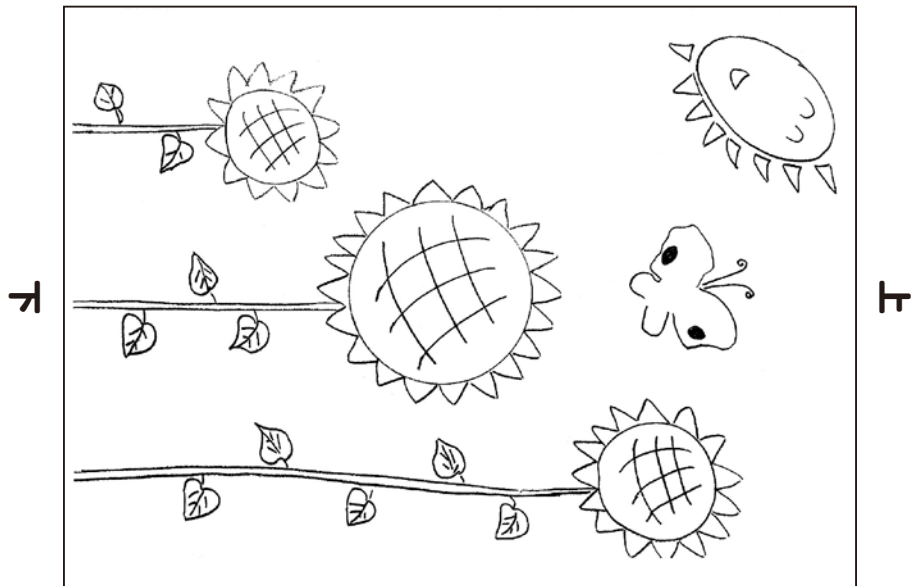


ワーク1 日頃子どもへの話し方、聞き方をふり返ってみましょう。

子どもへの話し方・接し方で心がけたいことは何ですか。



3種類の絵 (それぞれ拡大コピーしてお使いください)



ワーク1 こんな時、あなたならどう言いますか。

①近所の人に、「こんにちは」や「ありがとう」がはっきりと言えたとき

【子ども役】 ※場面を想定してから
(例)・〇〇さん、「こんにちは！」
・〇〇さん、「ありがとうございます」



【親役】

②自分からすすんで、きちんとおもちゃの片づけができたとき

【子ども役】 ※場面を想定してから
(例)・「よしよっと、やった～！
これできれいに片付いた～」



【親役】

③いっしょにあそんでいる友だちをたたいたとき

【子ども役】 ※場面を想定してから
(例)・「僕（私）が先に使ってたのに。
もう～っ、（パチン!）」



【親役】

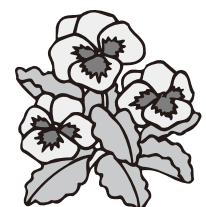
④安全確認をしないで、道路に飛び出したとき

【子ども役】 ※場面を想定してから
(例)・「あっボールが、待って～」
・「お～い、〇〇ちゃん、今行くよ」



【親役】

ワーク2 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。



ワーク1 次の場面の①～③の伝え方を実際に体験してみましょう。

友だちの家に遊びに行った子どもが、6時に帰ると約束したのに7時を過ぎてやっと帰ってきた。

【子ども】「ただいま」 その時あなたは？

【親】

- ①「こんな時間まで何やってたの！ 連絡もしないで！ 6時に帰るって約束したでしょう！」
- ②「お・か・え・り。おかしいわねえ、家の時計が壊れているのかしら。この時計では7時を過ぎてるけど…」
- ③「心配したわよ。6時って約束したんだから遅くなるときは連絡してね」

【子ども】「○○○○○……」

ワーク2 次の場面で、あなたならどう伝えますか。

【遊んだ道具を片づけずに外に遊びに行こうとしたとき】

Blank response box for the first scenario.

【宿題の工作がうまくいなくてイライラしているとき】

Blank response box for the second scenario.



ワーク3 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。

Large blank box for writing reflections.

ワーク1

あなたの家庭の今の生活をふり返り、今後できそうなことを考えてみましょう。



ワーク1

今日の学習をふり返りながら、子どもの朝食に関して、保護者としての態度表明をしてみましょう。

我が家の現状をふり返り、
「～を始める」「～をやめる」
のような表現で、
具体的な行動として
示してください。



毎日

朝ごはんを食べよう大作戦！



島根県では、「朝食の大切さ」を考えてもらうきっかけ作りの一つとして、「地元でとれる野菜」を使った「朝食一品メニュー」を募集し、「わが家の一流シェフ in 島根」料理コンクールを開催しています。あなたもこのレシピを参考に朝ごはんを作ってみませんか？

キャベツの卵焼き 田部智子さん（奥出雲町・中学3年）

○材料と分量（4人分）

キャベツ	100g
エリンギ	1本
ベーコン	2枚
卵	2～3個
大根	適量
青じそ	適量
しらす	適量
マヨネーズ	大さじ1
しょうゆ	大さじ1（またはポン酢）
油	大さじ1



○作り方

- 1) キャベツは細かくみじん切りにする。エリンギ、ベーコンもみじん切りにする。
- 2) ボールで卵を溶き、1)のキャベツ、エリンギ、ベーコンを入れ、マヨネーズを入れて混ぜ合わせる。
- 3) 熱したフライパンに油をひき、2)を流し込み、ふたをして弱火でゆっくり焼く。さらに裏返してふたをして焼けたら皿に盛る。
- 4) お好みで、しらすを混ぜた大根おろしをのせ、青じそを散らし、しょう油またはポン酢をかける。

平成21年度「わが家の一流シェフ in 島根 料理コンクール」優秀作品

この他にもたくさんのレシピが島根県のホームページに載っています。是非、アクセスしてみてください。

島根県健康福祉部ホームページ

http://www.pref.shimane.lg.jp/life/kenko/kenko/chouju_info/shokuiku/shef_shimane_recipe.html

ワーク1

参加されたみなさんのお話を聞いて感じたこと、気づいたことを書きましょう。

ワーク2

今後のしつけでどんなことを大切にしたいと思いますか。

A simple line drawing illustration of a woman and two children. The woman is in the center, wearing a long-sleeved top and pants, with her hands on her hips. To her left is a young boy with a striped shirt, and to her right is a young girl with a dress. They are all smiling and looking towards the viewer.

ワーク1

我が家のルール（ ）ヶ条

第1条

ワーク2 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。



ワーク1

下記の項目について、あなたなら我が子にどのようにかかわるかを考え、A～Eでランクを付けてください。

子どもの様子	あなた	グループのメンバー				
①友だちからゲームのソフトをもらってきた						
②地域のボランティアの方にあいさつをしない						
③お店や図書館の中でおいかげっこをしている						
④「仲間に入れて」という子を無視している						
⑤スーパーのおもちゃ売り場の商品で遊びはじめた						
⑥公園で縄跳びをしている子のすぐそばで野球をはじめた						
⑦バスの中で友だちと大声でしゃべりだした						
⑧近所のおじいさんに「くそじい」と言った						
⑨						
⑩						

ランクの目安	Aランク	大声でしかる。
	Bランク	その場でしかり、どうしていけないのかを真剣に伝える。
	Cランク	注意を促す。
	Dランク	とりあえず様子を見守る。
	Eランク	その他 ()

ワーク2 あなたがランクを付けた際の理由や根拠は何でしたか。

ワーク3 今後の子どもとのかかわり方について、自分の考えを書きましょう。

ワーク1 次の事柄について、現状では、誰が主に決めていますか？

「親」・「親子で相談」・「子ども」の3つの中で、最も当てはまるものを選んで○を付けましょう。

また、理想としては、誰が決めた方がいいと思いますか？同じように、あなたの考えに最も近いものに○を付けましょう。



決めることから	【現状は？】	【理想は？】
①起きる時刻や寝る時刻	親・親子・子	親・親子・子
②手伝いの有無や内容	親・親子・子	親・親子・子
③朝ご飯の有無やメニュー	親・親子・子	親・親子・子
④おやつの有無やメニュー	親・親子・子	親・親子・子
⑤一緒に遊ぶ友だち	親・親子・子	親・親子・子
⑥学校で必要な筆記用具	親・親子・子	親・親子・子
⑦テレビやゲーム機器で遊ぶ時間	親・親子・子	親・親子・子
⑧家庭学習の時間	親・親子・子	親・親子・子
⑨通学用のカバンや靴	親・親子・子	親・親子・子
⑩子どもの髪型	親・親子・子	親・親子・子
⑪子どもの普段着	親・親子・子	親・親子・子
⑫お小遣いの有無や額	親・親子・子	親・親子・子
⑬塾・習い事・部活動等	親・親子・子	親・親子・子
⑭携帯電話の有無や使い方	親・親子・子	親・親子・子
⑮進学や進路（将来の夢）	親・親子・子	親・親子・子

ワーク2 理想と現実を比べて、気づいたことを書きましょう。**ワーク3 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。**

ワーク1

下にあげた例は、お手伝いアンケートで上位のものです。下記の手伝いのうち、あなたが子どもの成長にとって大切だと思うもの3つを選んで、○を付けましょう。(特に大切だと思うもの1つに◎をしましょう)

お手伝い項目	あなた	グループのメンバー				
①ポストチェック（郵便・新聞）						
②洗濯物（洗う・干す・たたむ）						
③買い物・おつかい						
④玄関の靴並べ						
⑤玄関掃除						
⑥弟や妹の世話						
⑦野菜の皮むきなどの食事作り						
⑧食事の配膳や後片付け						
⑨						
⑩						

ワーク2

あなたが選んだ手伝いをすることによって、どんな子どもに成長してほしいと思いますか。また、そう思った理由を書きましょう。



※記入例

- ・～の力を身につけてほしい。
- ・～について大切にして生きていってほしい。
- ・～できるような人間に成長してほしい。

ワーク3

今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。

ワーク1

下記の項目について子どもに必要なものかどうかを考え、A～Dでランクを付けましょう。

子どもに必要(?)なもの	あなた	グループのメンバー				
①毎月のお小遣い						
②ゲーム機・ゲームソフト						
③パソコン(共有含む)						
④子ども部屋						
⑤DVD・CD(音楽・映画)						
⑥流行のカードやシール						
⑦携帯電話						
⑧まんが・コミック誌						
⑨						
⑩						

ランクの目安	Aランク	必要(あった方がよい)
	Bランク	どちらかといえば必要
	Cランク	どちらかといえば必要ない
	Dランク	必要ない(ない方がよい)

ワーク2

今後、子どもにものを持たせる際に、どのようなことに配慮すればよいか書きましょう。



ワーク1

参加されたみなさんのお話を聞いて感じたこと、気づいたことを書きましょう。




ワーク2

家庭学習の習慣をつけるために、今後、あなたが親として大切にしたいポイントを書きましょう。

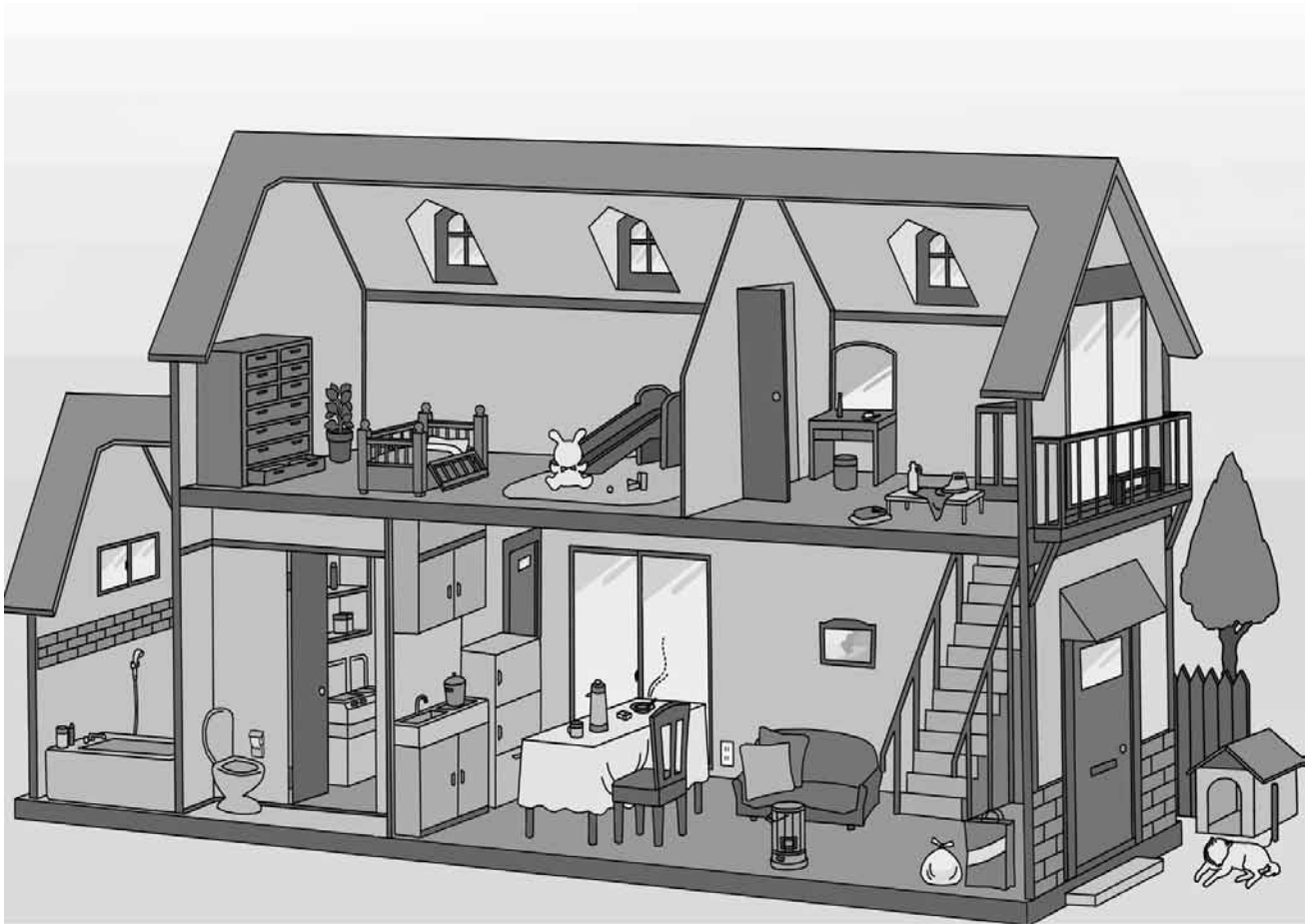
ワーク1 家庭で取り組めそうなことをグループで考えてみましょう。

ワーク2 今後、子どもが携帯電話やインターネットを利用する場合、家庭で取り組めることはどのようなことでしょうか。

A black and white line drawing of a young girl with two buns in her hair, wearing a dress and shoes. She is standing next to a bear that is holding a round clock. The bear is also wearing a dress and shoes. The clock shows the time as approximately 1:50.

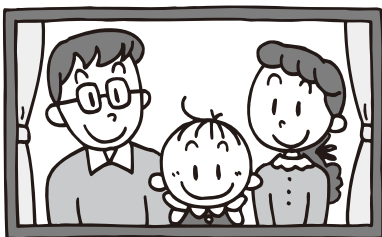
ワーク1

次の絵の中で、子どもに危険だと思う場所やものに○を付け、どんな危険があるのか考えてみましょう。



ワーク2

子どもの安全を守るために、親はどんなことに気をつけたらいいと思いますか。



ワーク1

私たちの住んでいる地域には、子どもたちにとって危険な場所がいくつかあります。

その中には、関係機関などに働きかけて直ちに対応しなければならない場所もあれば、子ども自身が注意することで危険を回避できる場所もあります。

①下記の場所の危険に対して、どのような対処をすればよいと思いますか？

下の目安を参考にして、それぞれの項目にA～Dのランクを付けましょう。

②メンバーのランクを記入したら、グループとしてのランクを考えましょう。



地域の危険箇所	あなた	グループのメンバー					グループ
①信号機のない横断歩道							
②人家や街灯の少ない通学路							
③川の土手や堤防							
④空き家や廃屋							
⑤ため池や用水路							
⑥歩道のない細い道							
⑦放置された粗大ゴミのある所							
⑧資材や土砂の置き場							
⑨							
⑩							

ランクの目安	Aランク	できるだけ早く関係機関に働きかけて、何らかの対策をとって改善を図る。
	Bランク	危険ではあるがすぐには対策がとりにくいため、とりあえずPTAや地域のボランティアの力でできる対策を考える。
	Cランク	危険であることの認識は必要だが、子どもが理解すれば回避できる。
	Dランク	判断できない。またはとくに危険を感じない。

ワーク2

身近なところで危険だと思われる場所はありませんか？
また、その危険に対してはどのように対処すればよいと思いますか。



まち歩きチェックポイント

1. 人の視線が届きにくい場所

- 木が多くて暗い公園や神社
- 死角の多い駐車場
- 空き室の多いビル
- 公園内のトイレまたその裏
- 人が住んでいない荒れた家
- ビルの暗い入り口や脇の陰
- 線路脇や地下道
- 夜に明かりが少ない道
- 縦列駐車が多い道
- 道路の両側に高く長い壁が続いている道
- 人通りが少ない道

2. ルール違反の場所も要注意

- 落書きが放置された壁
- ゴミが散乱している場所
- 放置自転車が多い道
- 違法駐車が多い道
- 夜、酔っ払いが多い道
- 暴力事件があったビル
- ひたたくり看板のある場所
- たばこの吸い殻が落ちている場所

3. 交通事故の危険性が高い場所

- 歩道がない細い道
(車に引っ張り込まれそうになる危険もあるので誘拐の危険性もある)
- 信号がない交差点
- 縦列駐車が多い道

4. 意外に思う危険な場所

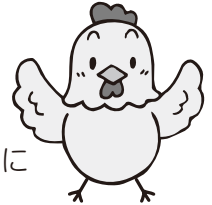
- 見えにくい駐輪場
(駐輪場の中には道路や住宅から見えにくい位置に設置されているものがある。また、汚くしていると、ルール違反をする人を呼び込んでしまう場所になることもある)
- 不特定多数の人が集まる場所
(人目が多いからと安心してしまふところが盲点。子どもに話しかけても不審に思う人が少ないので、事件等に巻き込まれる危険性がある)
- 交通量は多いが人通りが少ない道
(人通りが少ないと車で連れ去られる危険性がある)

【参考】「子どもを守る地域安全マップを作ろう」
特定非営利活動法人 子どもの危険回避研究所

ワーク1 次の質問について、「はい」「いいえ」のあてはまる方に○をしてください。

- ①食事中はテレビを消している (はい ・ いいえ)
- ②料理は一人ずつ小分けして盛るより大皿で盛ることが多い (はい ・ いいえ)
- ③インスタントや冷凍食品はできるだけ使わないようにしている (はい ・ いいえ)
- ④子どもの好きなものが食卓に並ぶことが多い (はい ・ いいえ)
- ⑤家庭での食事の時間は楽しい (はい ・ いいえ)

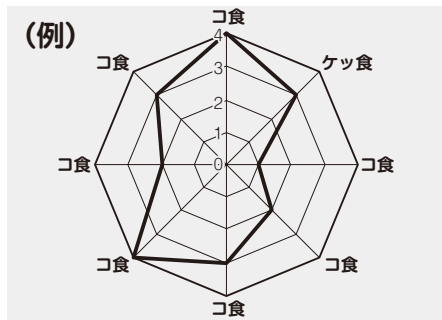
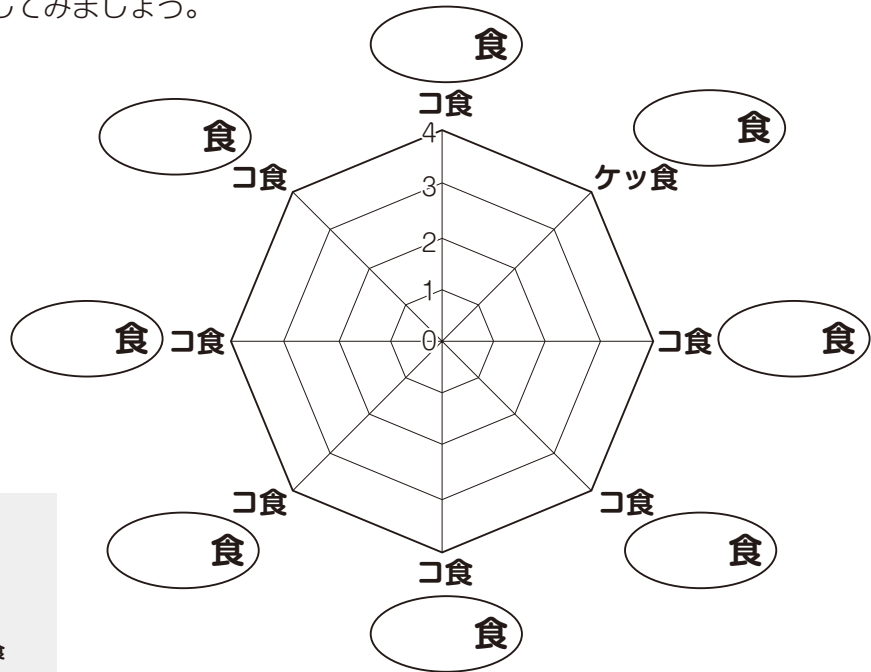
ワーク2 子どもたちの食に関する問題について、その頭文字から『にわとり症候群』と呼ぶ人もいます。



①『にわとり症候群』の「コケッココ ココココ」にあてはまる漢字を考え、下の○に書いてみましょう。

②下の例を参考にグラフに表してみましょう。

- 4…全くあてはまらない
- 3…時々あてはまる
- 2…わりと多い
- 1…ほとんどいつも



ワーク3 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょう。

子どもの食に関する問題

～ 『にわとり症候群』 『こ食』 ～

- コ 食……………孤食：1人で食事をする
- ケツ食……………欠食：朝食を抜く
- コ 食……………個食：それぞれで違うものを食べる
- コ 食……………固食：いつも決まったものばかり食べる

- コ 食……………子食：子どもだけで食事する
- コ 食……………濃食：味付けの濃いものを好んで食べる
- コ 食……………粉食：パンや麺などの粉ものを好んで食べる
- コ 食……………小食：食事の量が少ない少食

他にもこんな「こ食」が…

- コ食：コンビニ弁当やインスタント食品を好んで食べる
- 戸食：コンビニやファストフードにたよる（戸外食の略）
- 個食：（上の意味とは別に）個別の部屋で食事をする

「にわとり症候群」の提唱者は教育臨床学者の中井孝章教授。「孤食・欠食・個食・固食」の頭文字から名づけ、朝日新聞で述べたことから注目されるようになった。「にわとり症候群」とは別に「こ食」という言い方をする人もいる。

ワーク1

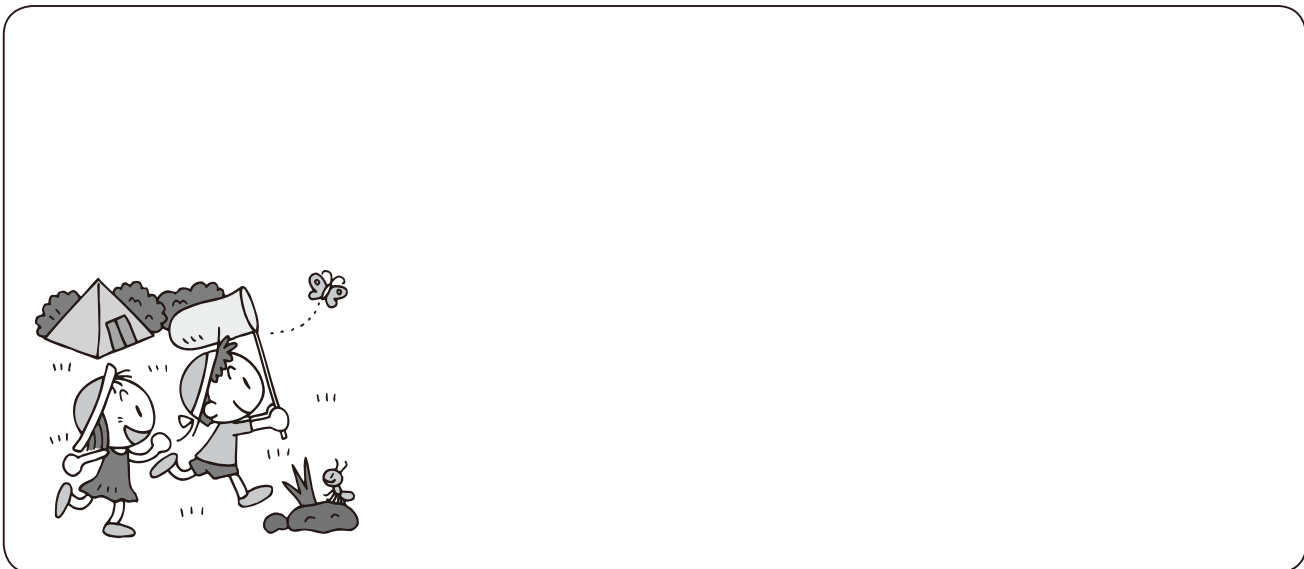
生活体験・自然体験・社会体験など、様々な体験を通して子どもたちは心や体を育みます。その体験が今、子どもに不足していると言われています。

- ①そこで、あなたなら子どもにどんな体験をさせたいですか？
次の様々な体験の中からベスト3を選び、下のあなたの欄に書きこみましょう。
- ②グループの人の意見も欄に書きこみましょう。

- ・ 鬼ごっこ ・ 遊具、アスレチック ・ 砂遊び ・ 竹細工作り
- ・ 基地づくり ・ 木登り ・ 川遊び ・ 磯遊び ・ 魚釣り ・ 山登り
- ・ キャンプ ・ 畑仕事 ・ 米作り ・ 通学合宿 ・ 旅行 ・ 家事
- ・ 伝統的な文化や行事 ・ ボランティア ・ 異年齢交流 ・ 地域の人との交流
- ・ 高齢者との交流 ・ 障がいのある人との交流 ・ 国際交流、留学

名 前	1	2	3
あなた			

ワーク2 子どもたちの“体験”で大切にしたいことを書きましょう。



ワーク1

このシートは、「もし、子どもが〇〇で育ったらどうなるか」について、家庭教育手帳を参考に作成しました。こういう育てられ方をした子どもは、どうなるかを考え、バラバラになったカードの中から、もっとも適切だと思われるものを、グループ全員の合意の上で決めてください。(このシートは正解シートとして使ってください)

①もし、子どもが将来に向かって努力する親の姿を見て育つと？

目標をもつことは良いことだと思います。

②もし、子どもが親に同じ目線で話をじっくり聞いてもらって育つと？

心が安定し、人を愛するようになります。

③もし、子どもがダメなところを責めるより、良いところをほめられて育つと？

自信をもち、自尊心が育まれます。

④もし、子どもが朝食を毎日きちんととって育つと？

テストの得点が良いというデータがあります。

⑤もし、子どもが一貫性のないしつけをされて育つと？

人を信頼しなくなります。

⑥もし、子どもが幼児期から知的な教育を受けて育つと？

小中学生の段階で疲れてしまうことがあります。

⑦もし、子どもが過保護や過干渉な親に育てられると？

必要な体験ができず、自分の行動に責任をとらなくなります。

⑧もし、子どもが安易にものを買ってもらって育つと？

努力したり、がまんしたり、工夫したりすることができなくなります。

⑨もし、子どもがテレビやゲーム、ビデオにばかりのめり込んで育つと？

コミュニケーションをとったり、他人を思いやったりすることが苦手になります。

⑩もし、子どもが他の子どもや平均値と比較されて育つと？

自尊感情の低い人になります。

*坂野公信・日本学校GWT研究会「協力すれば何かが変わる《続・学校グループワーク・トレーニング》」(遊戯社)125-130頁を参考にし、家庭教育手帳一乳幼児編一ドキドキ子育て(文部科学省)をもとに加筆修正した。

ワーク2

こういう育てられ方をした子どもは、どうなるかを考えて書いてみましょう。

①もし、子どもが親の笑顔を見て育つと？



Blank dashed box for writing the answer to question 1.

②もし、子どもがイライラした親を見て育つと？



Blank dashed box for writing the answer to question 2.

③もし、子どもが祖父母を大切にする親の姿を見て育つと？



Blank dashed box for writing the answer to question 3.

④もし、子どもが悪いことをしたとききちんと正されずに育つと？



Blank dashed box for writing the answer to question 4.

⑤もし、子どもが自然の中でしっかり遊んで育つと？



Blank dashed box for writing the answer to question 5.

ワーク1

親として「こんな子どもに育てほしい」という思いはみなさんもっていらっしゃることでしょ。そこで、下記の項目についてあなたがお子さんに願っている姿を3つ選んで、○を付けましょ。(特に大切だと思ふもの1つに◎を付けましょ)

親が願う子どもの姿	あなた	グループのメンバー				
①明るく、社交的な子						
②体を動かしてよく遊ぶ子						
③自分で考えて行動できる子						
④たくましく、何事にもへこたれない子						
⑤向上心があり、こつこつ努力する子						
⑥個性的でユニークな発想をする子						
⑦やさしく、思いやりがある子						
⑧善悪の判断ができる子						
⑨						
⑩						

ワーク2 あなたが◎や○を付けた際の理由や根拠は何でしたか。

ワーク3 今日の学習で感じたこと、気づいたことを書きましょ。




ワーク1 わが子の長所を3つあげてください。(行動面でも性格面でもよい)

--	--	--

ワーク2 わが子の短所を3つあげてください。

↓	↓	↓

ワーク3 わが子のPR文を書いてみましょう。



短所も長所

短所だと思っていたことも、見方を変えれば、長所になります。物事を決めつけたり枠にはめたりせずいろいろな見方をしていきましょう。

見方を変えると

あきっぽい

好奇心が旺盛

あわてんぼう

行動が速い

おこりっぽい

素直に心を表現する

がんこ

意思が強い

落ち着きがない

行動力がある

消極的

素直でやさしい

だらしない

小さいことにこだわらない

しつこい

ねばり強く根気がある

うるさい

明るく、元気

アイスブレイク資料

☆雰囲気づくりに☆

1 指折り

用意するもの なし

やり方

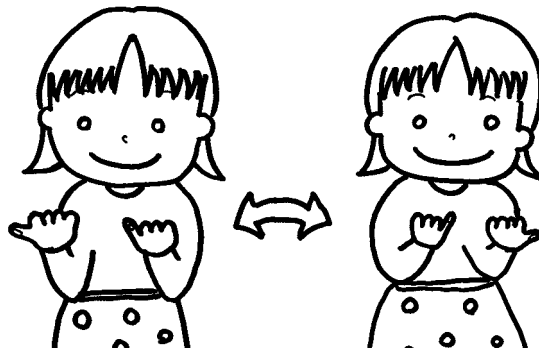
- ①両手をパーにして前に出し、両手同時に指を折り曲げながら数を数える。
- ②片方の指をはじめから1本折り曲げておき、同じように数えると難しくなる。

2 親指と小指

用意するもの なし

やり方

- ①両手をグーにして前に出し、左手の小指と右手の親指を出す。
- ②合図で反対にする。
- ③歌にあわせてすると楽しく遊べる。(もしもしかめよ など)

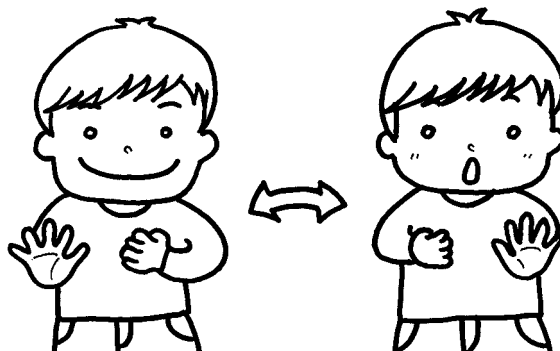


3 グーパー

用意するもの なし

やり方

- ①右手はパーで前に、左手はグーで胸にあてる。
- ②合図で反対にする。(前に出す手をパー)
- ③次は前に出す手をグー、胸にあてる方をパーにする。慣れてきたらスピードアップしてみる。



4 30秒当て

用意するもの ストップウォッチ

やり方

- ①全員目をつぶり、進行役の「スタート」の合図で、心の中で30秒を計る。
- ②30秒経ったと思ったら手を挙げる。
- ③進行役は30秒になったら「30」と合図をする。ジャストで手が挙げれば拍手をする。

5 後出しジャンケン

用意するもの なし

やり方

- ①進行役が「ジャンケン・ポン」と言って、みんなは遅れて「ポン」と言ってジャンケンをする。
- ②はじめは進行役と“あいこ”になるように出す。
- ③次は進行役に“勝つ”ように。最後は“負ける”ように出してもらおう。
- ④ジャンケンのテンポを徐々にあげていくと盛り上がる。

6 幸せジャンケン

用意するもの なし

やり方

- ①近くの人と2人組になる。
- ②ジャンケンをして、「あいこ」になったら、「気が合いますねえ」と言ってお互いに喜びを込めて握手をする。もし、あいこにならなかったら、「残念。また後ほど」と言って分かれる。
- ③ペアを変えながら何人かとジャンケンをする。

7 たましいの握手

用意するもの なし

やり方

- ①2人組になる。
- ②それぞれが「1・2・3」の数字の内、好きな数字を思い浮かべる。合図と同時にその回数ほど相手の手をぎゅっと握る。(または、回数ほど手を握る代わりに、握手した手を上下に振ってもよい。)
- ③見事、同じ回数握りあったら、「気が合いますねえ」と言ってお互いに喜びを分かち合う。もし、同じにならなかったら、「残念。また後ほど」と言って分かれる。
- ④ペアを変えながら何人かと握手をする。

8 ハイ・イハ・ドン

用意するもの なし

やり方

- ① 2人が向かい合わせになり両手を前に出して当たらない程度に交互に重ねる。
- ② 進行役が「ハイ」と言ったら一番上の手を一番下に持っていく。
- ③ 慣れてきたらスピードを変える。
- ④ 次に「イハ」と言ったら一番下の手を一番上に持ってくる。慣れてきたら「ハイ」と「イハ」をうまく組み合わせる。
- ⑤ リズムに乗れるようになったら、「ドン」の合図で一番上の手が残りの手を叩く。もちろん下の手は叩かれないように逃げる。

9 たことたい

用意するもの なし

やり方

- ① 2人が向かい合わせになり、左手で握手をする。
- ② ジャンケンをして勝った方が「たこ」、負けた方が「たい」になる。
- ③ 進行役が「た・た・た・た・・・たい!」と言ったら、「たい」役が右手で「たこ」役の握手をしている手を叩く。「たこ」役は叩かれないように手をどける。(右手でガードする方法もある)
- ④ 進行役は時間や様子を見ながら「たこ」「たい」を言い分ける。フェイントで「たいこ」や「たいや」などを言ってもよい。

10 幸せの〇〇〇リング

用意するもの 70cmのひも (1グループ7本)

やり方

- ① 70cmほどに切ったひも7本を、1グループ(3人)に1セットずつ用意する。
- ② 1人は7本のひもの真ん中をにぎり、2人はひもの両端をそれぞれ2本ずつ結ぶ。
- ③ それぞれに残った1本ずつを最後に結び、進行役の合図で真ん中を握っていた手を離す。
- ④ 7本が上手くつながっていれば、1つの大きな輪になる。

☆自己紹介に☆

11 絵とき (自己紹介) (詳しくは P103 参照)

用意するもの A4の紙 (人数分)

やり方

- ① 進行役の言う順番に「山・川・太陽・家・木・へび」を紙に描く。描いた絵の意味を伝え、その絵を使って自己紹介をする。

12 他己紹介

用意するもの A4の紙（人数分）

やり方

- ①紙に3つほど、自分のPR（趣味や性格など）を簡単に書く。
- ②隣の人とペアになり、紙を交換する。
- ③3つのPRについてお互いに質問をして相手についてさらに知る。
- ④グループの中で、ペアを組んだ人について紹介をする。

☆グループづくりに☆

13 動物あて

用意するもの 動物カード（P106）

やり方

- ①裏返しにしたカードを引く。
- ②カードに書かれたヒントから何の動物かを考え、鳴き声によって仲間を見つける。

14 音探し

用意するもの フィルムケース（人数分）、フィルムケースの中に入れる物（砂、米、小豆）

やり方

- ①フィルムケースなどの小さな容器に、中身が分からないように紙などを貼り、「砂」「米」「小豆」などを入れる。
- ②自分の選んだケースの中に入っている物の音を聞きながら仲間を見つける。

15 知恵の輪ループ

用意するもの ひも

やり方

- ①グループの人数に合わせて結んだひもをそれぞれが自由に引っ張る。
- ②手を離さずに絡んだひもを解いていく。
- ③結ばれている人が同じグループの仲間。

16 宝探し

用意するもの 宝カード（P107）

やり方

- ①カードに何種類かの絵を描き、部屋のどこかに隠す。
- ②同じカードを見つけた仲間が集まる。

☆仲間づくりと雰囲気づくりに☆

17 新聞パズル

用意するもの 新聞紙

やり方

- ①グループごとに新聞紙を5回、半分に裂く。
- ②別のグループの裂いた新聞紙を、ジグソーパズルのように元に戻す。

18 バースデーチェーン

用意するもの なし

やり方

- ①言葉を使わずに、身振り手振りで自分の意志を相手に伝え、誕生日の順に並ぶ。
- ②名前のアイウエオ順などのアレンジも可。並び替えからグループ作りもできる。

19 握手リレー

用意するもの なし

やり方

- ①みんなで手をつなぎ、スタートの合図ではじめの人から右手をぎゅっと握っていく。
- ②握られた人は隣の人の手を握る。1周したらゴール。
- ③時間を計ったり、左右で試したりする。

20 キャッチ

用意するもの なし

やり方

- ①みんなで円になり、両手を軽く横に出す。
- ②左手は輪を作るように軽く握る。右手は人差し指を立て、隣の人の左手の輪の中に入れる。
- ③進行役が「キャ・キャ・キャ・キャ・キャッチ！」と言ったら、右手の人差し指を輪から引き出す。同時に左手は相手の人差し指を逃がさないようにつかむ。
- ④慣れてきたら左右を逆にする。あまり強くつかむとけがをするのではじめに注意を促す。

21 人間コピー (詳しくは P104 参照)

用意するもの 画用紙

やり方

- ①絵を1枚廊下などに貼っておく。グループで順番を決めて1人ずつ見に行き、絵を覚えて帰り、紙に描く。時間以内に似た絵を描く。

22 聖徳太子ゲーム

用意するもの なし

やり方

- ①進行役の示す言葉を、グループの中で1人が一文字を担当する。
- ②進行役の合図でグループ全員が一斉に、担当の文字を大声でみんなに伝える。
- ③聞いている人は、一斉に伝えられた文字をつなぎ合わせ、何の言葉を使ったのかを当てる。

23 大きなかぶ

用意するもの なし

やり方

- ①左手から手を重ねていき、次に右手を重ねていく。
- ②一番の上の人は、手をたたく役。進行役が「おじいさん」と言ったら手をたたく。
- ③他の人は逃げる。おじいさんを言うたびに、たたく人を交代する。

★「おおきなかぶ」福音館書店A・トルストイ内田莉莎子（訳）

おじいさんが、かぶの たねを まきました。

「あまい あまい かぶに なれ。 大きな 大きな かぶに なれ。」

あまい、あまい、大きな 大きな かぶに なりました。

おじいさんが かぶを めこうとしました。

「うんとこしょ どっこいしょ」

けれども かぶはぬけません。

おじいさんは おばあさんを よんできました。

おばあさんが おじいさんをひっぱって おじいさんがかぶをひっぱって

「うんとこしょ どっこいしょ」

- ④ここまで、読めば、5人グループで一回りする。おじいさんと言ったら一斉に盛り上がるのでそのたびに、手を組み直して、直後の続きから読む。

24 伝言ゲーム

用意するもの なし

やり方

- ①進行役が決めたある文章を順番に口頭で伝えていって、最後の人が正しい文章を言えればOK。
- ②背中に文字を書く方法もある。人数は多い方が面白い。

☆講座の導入などに☆

25 4つのコーナー（詳しくは P15 参照）

用意するもの 表示カード（「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」）
※「そう思う」と「そう思わない」は対角線上に置く。

やり方

- ①部屋の四隅に「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4つのコーナーを作り、参加者を中央に集める。
- ②質問をしながら、参加者の気持ちを聞いていく。
- ③時間をかけてじっくり取り組めば、ワークショップの手法としても使える。

26 ○×クイズ【Yes/No クイズ】（詳しくは P105 参照）

用意するもの ○×のふだ または Yes/No のふだ

やり方

- ①講座に関係する問題をいくつか参加者に質問する。「○（Yea）」「×（No）」のふだや2色分けのふだを作っておくとよい。

絵とき（自己紹介）

①席を合わせ、4人のグループになります。A4程度の紙を準備して、参加者に1枚ずつ配付します。そして、次の6つのものを順番にその紙に書いてもらいます。

その際、前もって次のことを参加者のみなさんに話しておいてください。

- ・ひらめいたまま書くこと
- ・絵の上手い、下手は関係ないこと
- ・個別に書くのではなく、風景になるように書くこと

②



まず初めに、山を書いてください。（参加者の様子を見ながら）次に、川を書いてください。（このようにして、山→川→太陽→家→木→へびと6つのものを順番に紙に書いてもらいます。）

③

今、書いた紙をテーブルの中央におき、みんなで見合いましょう。（しばらく時間をとり）では自分の紙をとってください。今から、それぞれの絵にどのような意味があるのか、解説します。



それぞれの絵の意味

山：こころの穏やかさ。山の傾斜がこころの起伏を表す。

川：その人の情緒面。その線の柔らかさや広がり、心の部分を象徴する。

太陽：その時の心境。太陽の描き方によってその時の感情が分かる。

家：家庭に対する関心度と開放度。丁寧に書いていけば関心が高い。窓やとびら、煙突などによって外部への開放度が分かる。

木：物事に対する心構え。幹の太い、枝の張った、1本のしっかりした木なら、落ち着いて構え、心に一本筋の通った人柄であるといえる。

へび：異性に対する関心度。とぐろを巻く、舌を出すなどは関心が強い。

※財団法人日本レクリエーション協会『新グループワーク・トレーニング』（遊戯社）12-15頁を参考に、実践する中で部分的に加筆修正した。

④「絵の意味」を参考にしながら、



では、診断していきます。まず、山は「こころの穏やかさ」を表します。なだらかな山を描いている人は、こころの穏やかな人です。逆に傾斜が急な山を描いている人は…、（というようにして解説していきます。）

⑤自己紹介へ

では、絵を見せながら、これを利用して1分程度の自己紹介をしてみましよう。



人間コピー

①手順の説明

あらかじめ4人のグループを作っておく。
グループに1枚画用紙を配り、人数分の鉛筆を用意する。



今日はみなさんがコピーの機械になるゲームをします。

②ルールを説明する。

隣の部屋に1枚の絵が貼ってあります。その絵を見てきて、
そっくり同じ絵を描いてください。



③注意事項を確認する。



確認事項が3点あります。
1. 絵を見に行くのは1人ずつです。
2. 見に行くときには何も持って行きません。
3. 何回見に行っても構いません。

④時間を設定して伝える。

時間は10分です。
5分前、2分前にはそれぞれ合図をします。準備はいいですか？
それでは、始めます。よーい、スタート！



⑤10分たったら終了の合図をし、みんなで鑑賞する。



時間です。それではできた作品を前に貼ってください。

絵を見に行くときの順路（往復）を決めておいた方がぶつからなくて済みます。
他のグループにもよく見えるように、マジック等でなぞることもできます。
作戦を立てて上手に描いたグループにコツを聞くのもいいでしょう。

※坂野公信・横浜市学校 GWT 研究会『学校グループワーク・トレーニング』（遊戯社）57-59 頁を参考にして実践する中で部分的に加筆修正した。

〇×クイズ [Yes/No クイズ]

①あらかじめ1人に1組ずつ「〇 (Yes)」「× (No)」ふだを渡しておきます。



② 今から私が△△に関するクイズをします。
クイズの答が〇だと思ったら〇のふだを×だと思ったら×のふだをあげてください。

③

では、第1問です。「……………」正解と思う人は「〇 (Yes)」のふだを、まちがいだと思う人は「× (No)」のふだをあげてください。



※参加者全員に聞こえる声で、2回繰り返してください。

※時間があれば、何人かの参加者に「〇 (Yes)」にした理由、「× (No)」にした理由を聞いてみてください。

④全員がふだをあげたことを確認して



正解は、() です。() の方おめでとうございます。

※答えを言った後、答えを補足する説明をします。「へえ〜」とうなずける説明に心がけましょう。

※このようにして、時間との兼ね合いで何問か、同じ流れでクイズを行います。

⑤最後のクイズが終わった後

全問正解だった方は、立って（手を挙げて）ください。
拍手をしましょう。



※その時の状況によって、全問正解以外の人もほめていきます。

※〇×以外にも、色別のふだで意思表示してもらったり、挙手してもらったりすることもできます。

※「〇×」以外にも、Yes / No で答える問題や、ふだを使わずに場所で示す場合も考えられます。

<質問例>

①「早起きは三文の得」は、朝早く神社の境内に行くと賽銭が落ちていることが由来となっている。

正解は× 諸説ありますが、昔の奈良県で家の前に鹿の死骸があると三文の罰金を払わなければならず、早起きして、もし、死骸があれば他へ移して罰金を払わずにすんだことからきているそうです。

②ある町には、「朝ごはん条例」なるものがある。

正解は〇 青森県鶴田町、佐賀県伊万里市で制定されています。

③人間の体内時計は、1日25時間である。

正解は〇 太陽の光を浴びるとリセットされるそうです。海外旅行の時差ぼけを治すにも有効だそうです。

④夜10時以降も起きている3歳児は、50%を超えている。 正解は〇

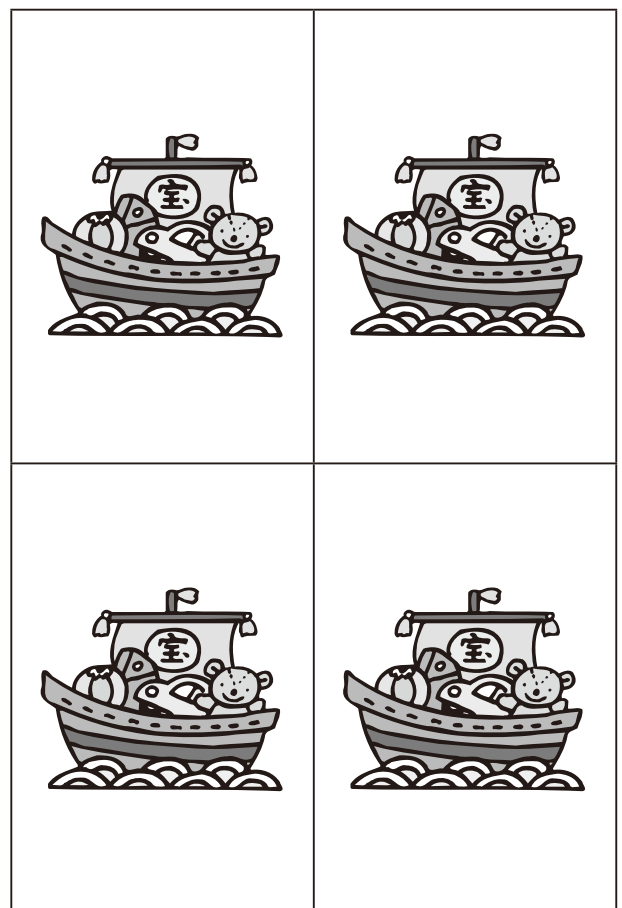
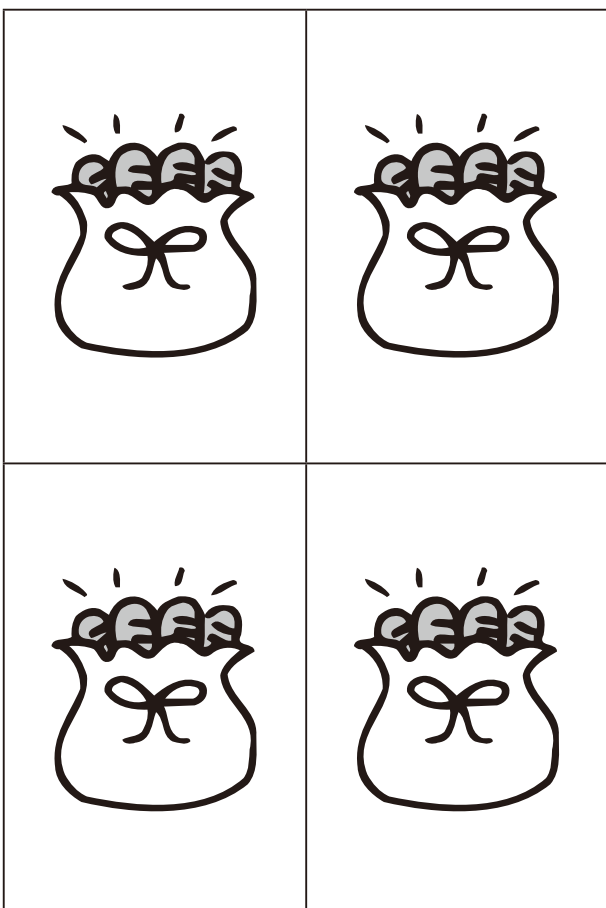
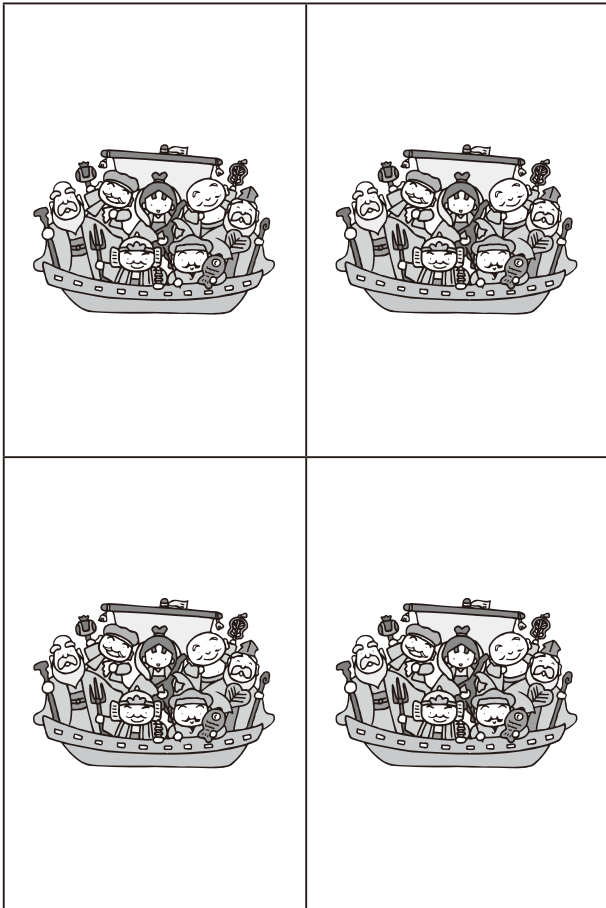
土佐 秋田	1
渋谷の ○○前で 待ち合わせ と言え ば…	南極物語 の夕ロウ とジロウ

こたつで 丸くなる のは？	ドラえも んは○型 ロボット
またたび	○○に 小判

鼻面に 人参	○の耳に 念仏
一攫千金 万○券	カボチャ の○車

木から落 ちること もある	見ない 聞かない 言わない
ひつじと とりの間	南の島の アイアイ

グループ分け②<宝カード>



アドバイスタイム資料

■文部科学省「家庭教育手帳」より引用

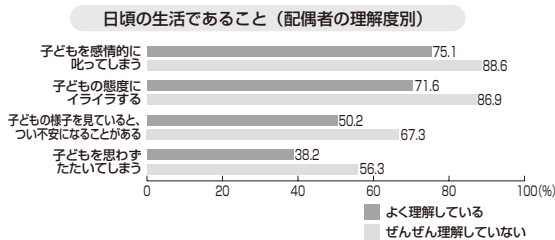
■漫画とイラストは青沼貴子

自分を大切にできないならば、 子どもを大切にすることもできない。

子育ては大事ですが、一日中、わき目もふらずに集中しては疲れてしまいます。親のイライラは、子どもにも伝わっていくものです。

大変な子育てだからこそ、自分の時間をつくり、心を健康に保つことが大切です。夫婦で助け合ったり、子育てサポーターや子育てネットワークといった育児を手伝う仲間や仕組みを活用したりして、リフレッシュする時間をつくりましょう。

親が幸せで笑顔でいる家庭でこそ、子どもも幸せを感じられます。



(注) 首都圏、地方市部、地方郡部の幼稚園児・保育園児をもつ保護者6,131名
資料:「第3回子育て生活基本調査(幼児版)」(2008年)Benesse教育研究開発センター

親の笑顔が子どもの笑顔をつくる

子育ては母親の仕事、 そう思っているお父さんは要注意。

家庭での父親の存在感が薄いことが指摘されています。母親だけに子育ての責任がゆだねられ、父親の理解や協力がないうままでは、母親の子育てに対する不安感や負担感が増したり、母と子の関係が密着しすぎたりすることにつながる心配があります。

父親がもっと家庭の中での役割を積極的に担い、夫婦でしつけについてよく話し合っていくことが大切です。

そのためにも、夫婦はお互いに尊重し合い、子どもの前で相手をけなしたり、見下したりすることのないように気をつけましょう。



夫婦で共同して子育てをする

前向きな親の姿は、 きっと子どもに届いている。

ひとり親家庭や共働き家庭では、親が働きながら子育てをするため、ゆっくと子どもと接する時間が少なくなりがちです。しかし、子を思い、より良い将来に向かって努力する親の姿は、しっかりと子どもたちの心に響いているはずですよ。

また、さまざまな悩みなどは、ひとりで抱え込まず、親類や友人の協力を得たり、地域の相談窓口や子育てサポーターや子育てネットワークといった、子育てを応援・サポートしてくれるシステムなどを積極的に活用したりしましょう。



ひとりで悩まず、前向きに子育てしよう

あなたの生き方が、 子どもへの最高の教育になる。

これまでは勤勉で従順な人が社会から求められましたがこれからは問題を解決するために自分で考え、工夫し、行動する、勇気ある社会人が求められます。

自分の会社の利益だけでなく、家庭や地域、そして社会全体にまで目を配り積極的にかかわれる人に育てるために、まず親自身がその大切さを理解し、努力・挑戦することが大切です。



より良い社会をつくる努力を子どもに見せる

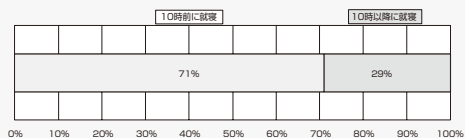
早寝早起き朝ごはん

規則正しい睡眠と毎日の朝ごはん。簡単なようでいて、けっこうたいへん。でも、これをきちんとやっている子どもほど勉強も運動もよくできるというデータもあります。

早寝早起き朝ごはん子どもたちに元気よく一日をスタートしてもらいたいものです。

「早起きは三文の徳」、「寝る子は育つ」などということばもあります。あらためて、子どもの基本的な生活習慣について考えてみましょう。

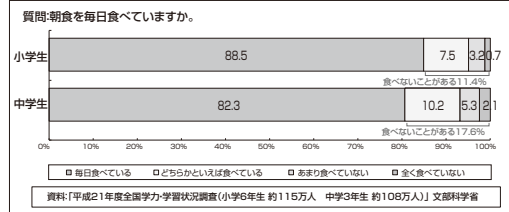
就学前の幼児における就寝時間



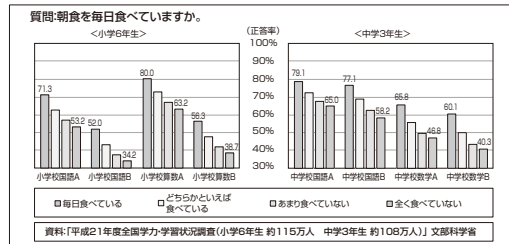
資料：「第3回幼児の生活アンケート」2005年ベネッセ教育研究開発センター
首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）1.5歳～6歳の幼児を持つ保護者 2,980名

子どもの生活リズムを見直そう

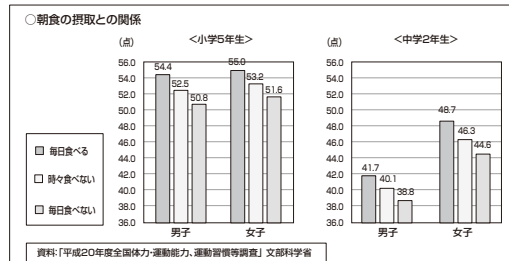
① 朝食をとる小中学生の割合



② 毎日朝食をとる児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高い傾向



③ 毎日朝食をとる子どもほど、新体カテストの体力合計点が高い傾向



子どもの健やかな成長のために、睡眠は大切です。

子どもたちの寝る時間が遅くなり、睡眠時間も短くなっていきます。深夜テレビや24時間営業の店などが世の中にあふれる中、家庭においても、大人の夜型の生活に子どもを巻き込んでいないのでしょうか。

早寝早起きの習慣をつけて、十分な睡眠をとることは、子どもの健やかな成長と生活リズムを確立するために大切です。家庭で早寝早起きのルールをつくり、習慣をつけるようにしましょう。



早寝早起きの習慣をつけさせる

一日のスタートは朝食から。

なぜ、朝食をとることは大切なのでしょう。

朝食は一日の生活のスタートです。朝食をとることによって身体にエネルギーを補給し、集中力ややる気、体力を発揮し持続させ、一日の身体のリズムを整えることができます。

特に、子どものころは食生活を含めた基本的な生活習慣が形成されていく大切な時期です。朝食をしっかりとる習慣を子どものころに身につけることは、生涯を通じて健康な生活をおくる基礎を培うことにもつながるのです。



朝食をしっかりとる

「早寝早起朝ごはん」 国民運動の推進

子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。

そこで、文部科学省と「早寝早起朝ごはん」全国協議会では、子どもの基本的な生活習慣を育成し、生活リズムを向上させるとともに、地域全体で家庭の教育力を支える社会的機運を高めるための「早寝早起朝ごはん」国民運動を、平成18年度から多数の企業や団体等の賛同を得て推進しています。



「親しみやすさ」に加え、「わかりやすさ」と「覚えやすさ」を考慮し、「早寝」をお月様と星に、「早起き」を太陽にシンボライズし、元気とエネルギーの源、そして太陽をイメージしたヴィヴィッドなオレンジでシンボルマークを作成しました。

早ね早おき朝ごはんコミュニティサイト
<http://www.hayanehayaoki.jp>

からだ 心も身体も大人ではないけれど、 全くの子どもでもない。

思春期とは、身体の成長に心の成長が追いつかず、だれもが不安定な気分になりやすい時期です。「私は何なのか」「私はどう生きていきたいのか」などと自分に直面し、自分を見る「もう一人の自分」が意識されるようになります。小さなことで有頂天になったり、逆にひどく傷ついて落ち込んでしまったりします。異性への興味が高まったり、親や先生がうっとうしく感じるようになり、自分だけの秘密をもち始めます。

こうした心の変化に対し、身体では、体型全体の大人化が著しく進みます。女性では月経、男性では射精が始まります。また、抑えがたい性衝動が性非行を含むさまざまな問題行動の原因へとつながることもあります。

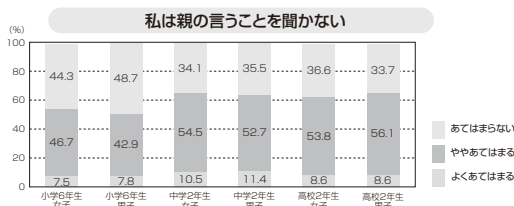
まず、「思春期」について親がしっかりと理解を深めましょう。

思春期について理解を深めよう

言うことを聞かないのは、 子どもの自立が始まった証拠。

親にとってみれば、「こんな子ではなかった、どうしたのか」ととまどうでしょう。子どもの複雑な思春期の始まりです。この時期は、子どもの大きな変化の助走期ともいえます。

この時期に子どもが言うことを聞かなくなっても、いたずらに動揺したり抑えつけたりする必要はありません。それは子どもの自立や親離れが始まった証拠です。むやみな干渉やお説教はできるだけ控えて、子どもの力を信じながら、あたたかく見守りましょう。ただし、腫れ物にさわるように接するのではなく、これまで以上に会話などを通じてかわる努力が欠かせません。その際には、行動の結果にはきちんと責任が伴うことを自覚させることも大切です。



思春期の子と向き合い、見守る

この時期は、 友達の影響を受けやすい。

思春期は仲間や友達の存在が、家族以上に重要になる時期でもあります。

家族よりも、友達同士のルールの方が大切になり、ときには親にうそをついてでも、友達同士のつながりを守ろうとすることもあります。それだけに友達からの影響は大きく、「いじめ」も問題になりやすいのです。

心配だからといって、子どもの行動を監視したり、根ほり葉ほり話を聞きだそうとする必要はありませんが、普段からの会話を通じて、子どもと友達の関係を理解するよう心がけましょう。

子どもの友達を知る



子どもは「親」のぬくもりを求めています。

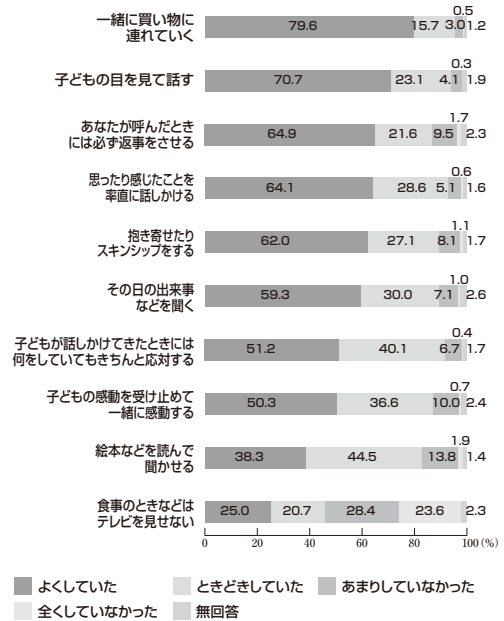
人は愛され理解されたがっている存在です。理解されな
いときの不満がたまるとキレることもあります。突然子ども
がキレたとき、本人も親も理由がよく見え、怒ったり苦
しんだりしますが、理由はあるのです。

日ごろから相手の話をじっくり聞く、同じ目の高さで考
える、深い関心を払う、といった姿勢を親が身につけること
で、子どもは親に愛されている実感を得ることができま
す。

子どもは愛されていると感じるとき、安定した気持ちで
問題に立ち向かうことができます。そして不必要に攻撃的
にならず、他者や問題を受け入れることができ、大きく成長
できるのです。

子どもが愛されていると実感できる
コミュニケーションをする

幼児期のときのコミュニケーションについて



(注) 25歳~54歳までの男女約3,900人を対象に調査。
資料「家庭の教育力再生に関する調査研究」平成13年・国立教育政策研究所内「家庭教育研究会」

子どもはSOSがうまく言えない。

いじめや不登校につながる悩みなど、子どもが心の問題
を抱えたとき、それは、しばしば身体的なサインとなって現
れます。

腹痛・吐き気・下痢・食欲不振・めまい・頭痛・発熱といった
症状や過食・拒食・不眠といった行動などさまざまなサイン
があります。サインに気づいたら、病気だと心配するだけで
なく、心の問題が背景にないか考えましょう。「気のせいだ」
「わがまま」「ズル休み」というような言葉で片づけず、様子
をよく見、話をよく聞き、理解しようとする姿勢が大事です。

また、かかりつけの医師や学校の先生にもよく相談して
みましょう。

心理的な問題によるからだ・行動のサインの例

身体：腹痛・吐き気・下痢・食欲不振・め
まい・動悸・頭痛・発熱・倦怠感
行動：過食・拒食・不眠・ヒステリー

子どもの身体や行動に現れるサインを見逃さない

ルールってだれのためにあるんだろう。

子どもたちは、家庭でのルールや約束を守ったり破ったりしな
がら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでい
きます。

家庭のルールには、あいさつ、家に帰る時間、寝る時間、きちん
とした姿勢などの生活上のルールもあれば、他人に迷惑をかけ
ない、うそをつかないなどといった道徳上のルールもあります。

しつけに一貫性をもたせ、しっかりと身につけさせるために、
夫婦がよく相談してはっきりしたルールをつくり、子どもともに
親もそれを守りましょう。また、子どもの意見を聞いて一緒にル
ールをつくるという姿勢も大切です。

親子でつくろう我が家のルール

平成21年7月に家庭で話し合うことの大切さを呼びかける
「親子でつくろう我が家のルール」運動を推進するため、
標語募集並びに優れた作品についての選定・表彰を行いました。

- 「朝が来た!!
早起き・お散歩・おいしいごはん」
- 「9じまでに
ふとんにはいるよ あしたもげんき!」
- 「まもろうね
ちいさなやくそく わすれずに」
- 「ありがとう
今日は何回 言えるかな」
- 「「ねえ、あのね!」
はなす心 きくきもち」
- 「助け合い
家族ではくくお思いやり」
- 「がんばったね。できたね。よかったね。
うれしかったね(種)が集まったね。」

我が家の生活の約束事やルールをつくる

子どもの言うことを何でも聞くことが、親のやさしさとは限らない。

安易にモノを買い与え過ぎると、子どもは欲しいモノを手に入れるために努力したり、我慢したり、工夫したりすることができなくなります。そして、やたらとモノを欲しがり、自分の気持ちを抑えられなくなってしまいます。

ねだられても必要以上のモノを買い与えないこと。こづかいは多すぎず決まった額の中で自分でやりくりさせること。

子どものためを思うなら、お金より、心や愛情を使いましょう。



子どもに我慢を覚えさせる

良いことをしたときはしっかりほめてあげる。

「自分さえ良ければいい」「ルールを守らない」という人は、なかなか人から信頼されないものです。子どもがそういうことをしたとき、ちゃんと正さないと、それでいいのだと勘違いした困った人に育ってしまうかもしれません。

「自分の子だけ良ければいい」という考え方(自己主義)はやめ、間違っしかたことは愛情をもって本気で叱り、正しくしつけましょう。

そして、親自身もルールに反することはしないように気をつけましょう。子どもに信頼され、尊敬される親であり続けるためにも。

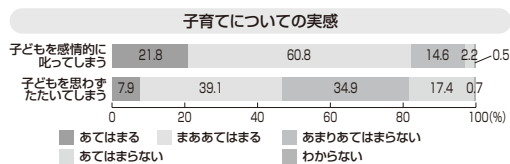
間違っしかた行いはしっかり叱る

感情にまかせて叱ることとしつけとは違う。

しつけは大切ですが、しつけなくては、という気持ちから、ついたたいてしまい、その行為に歯止めがきかなくなってしまう場合もあります。子育てのイライラやストレスが、子どもへの愛情を忘れさせ、叱るという行動にすりかわっているのではないのでしょうか。

上手な叱り方のヒントは、「叱られる側」の子どもの立場にもなって考えること。「そう言われたら子どもはどう感じるだろうか」「子どもはどう受けとめるだろうか」、まずこちらから考えてみましょう。

子どもの心や身体を傷つけるような叱り方は、教育的な効果がないばかりでなく、児童虐待につながる可能性もあります。



「叱られる側」の子ども立場も考えてみる

子どもを虐待から守るために

●子どもを虐待から守るための5ヶ条

- ①「おかしい」と感じたら迷わず連絡 (通告してください)
- ②「しつけのつもり…」は言い訳 (子どもの立場で判断)
- ③ひとりで抱え込まない (あなたにできることから即実行)
- ④親の立場より子どもの立場 (子どもの命が最優先)
- ⑤虐待はあなたの周りでも起こりうる (特別なことではない)

「児童虐待」とは?

- ①身体的虐待(なぐる、けるなどの暴行)
- ②性的虐待(わいせつな行為をしたり、させたりすること)
- ③ネグレクト(子どもの監護を怠ること)
- ④心理的虐待(子どもの心を著しく傷つける言動)

※平成16年の法改正により、次のような行為も児童虐待とされることになりました。

- 保護者以外の同居人による虐待を放置すること(上記③)
- 子どもの目前で配偶者等へ暴力をふるうこと(上記④)

児童相談所における児童虐待相談の対応件数

平成2年度と比較して、平成20年度は約39倍に増加
(H2:1,101件→H20:42,664件) ※厚生労働省調べ

「児童虐待」として寄せられる相談件数が年々増えています。もっとも信頼をしている親からの虐待は、子どもの心に大きな傷を与えます。虐待を受けたと思われる子どもを見つけたときは、すぐに最寄りの福祉事務所や児童相談所等へ連絡(通告)してください。早期発見、早期対応が何よりも大切です。





ずいぶん厳しく叱られたけど、 今ではそれに感謝しています。

いけないことをいけないことと思わない子どもたちが増えています。

「自分さえ良ければいい」「ルールを守らない」という人は、なかなか人から信頼されないものです。間違った行いは本気で叱り、その場で正すことが本当の愛情です。「自分の子だけ良ければいい」という考え方(自子主義)はやめ、叱るときには何がいけないのか、理由をきちんと伝えましょう。また、気分や感情に流されず一貫性をもって叱ることも大切です。

そして、親自身もルールに反することはしないように気をつけましょう。子どもに信頼され、尊敬される親であり続けるためにも。

間違った行いはしっかり叱る

いちばんの友達はずいぶんテレビ、 なんて寂しすぎる。

テレビやテレビゲーム、ビデオにばかりのめり込むと、屋内に閉じこもる、人や自然とふれあう体験が不足する、人間関係をつくる力や他人を思いやる心が育たない、生や死の現実感覚が薄くなる、仮想と現実の区別がつかなくなるなど、子どもの健全な心の成長に影を落としかねません。

友達との遊びや自然体験などの機会を用意積極的に参加させるとともに、テレビやテレビゲーム、ビデオにばかりのめり込み過ぎないようにルールをつくり、それを守る習慣をつけさせましょう。

例えば、テレビゲームソフトを選ぶ際には、ゲーム内容によって対象年齢を表示するマーク(※)があるので参考にすることが考えられます。

※対象年齢マーク…CERO(特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構)が行っている家庭用ゲームソフトの年齢別レーティング(格付け)により対象年齢を各テレビゲームソフトに表示しています。各ゲーム内容に過激な暴力表現・性描写、反社会的な内容がどの程度含まれているかなどについて審査し、対象年齢を決定しています。



□CERO「各ゲームのレーティング状況や制度の詳細について」
…<http://www.cero.gr.jp/rating.html>

テレビやテレビゲームに浸らせない

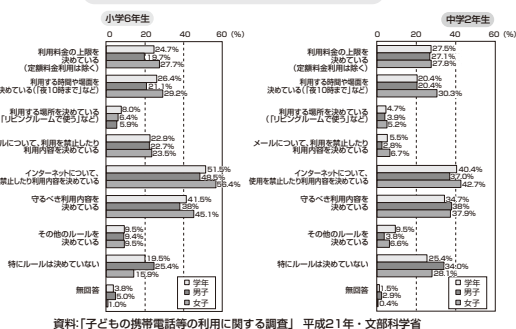
携帯電話やパソコンは使いよう。

携帯電話やインターネットは、使い方一つで、役立つ道具にもなれば、子どもの身を危険にさらす道具にもなります。外の世界とすぐに情報がつながることによって、見知らぬ危険な世界と子どもが直結してしまう可能性があります。

子どもが使用したいと言ってきたときこそ、話し合いのチャンス。「なぜ使用したいのか」などについて、親子で話し合い、納得した上で、使う・使わないを決めましょう。

使うときには、例えば、フィルタリング※)機能を設定する、携帯電話は寝るとき部屋に持ち込まない、夜10時以降は使わないなどの使用場所や使用時間、使ってよい目的などについて、それぞれの成長段階に合ったルールを家庭で決めましょう。また、マナーモードの使用などの公共のマナーや、知らない人には個人情報には教えない、知らない人とは会わないなど、危険から身を守る方法についても、親がしっかり教えることが必要です。

携帯電話についての家庭でのルール



携帯電話やパソコンの使い方について家族で考えよう

情報モラルについて 家庭で話し合ひましょう。

ウェブやメールなどのインターネットによるコミュニケーションでは、顔の見えない相手とのやり取りになるため、ちょっとしたことが原因でトラブルに発展してしまうことがあります。また、最近では、個人が特定されるような書き込みで誹謗(ひぼう)中傷を受けたり、悪口が書かれたメールが送られたりする「ネットいじめ」などの例もあります。顔の見えない者同士のやり取りには、危険がともなうことがあったり、そのつもりはなくても相手を傷つけてしまうおそれがあることなど、日頃から子どもに教えることが大切です。

(家庭でのルール例)

- ・食事中や家族と一緒に居るときは使わない
 - ・自宅内では居間で使う
 - ・学校への持込については学校のルールに従う
 - ・他人を傷つけるような使い方をしない
 - ・知らないところからきたメールは絶対に返信しない
 - ・知らない人に(名前、住所、電話番号、メールアドレスなどの)自分のことは教えない
 - ・ルール違反や携帯電話の使用によって生活に支障が生じている場合には携帯電話の利用を停止する
- など。





子どもを有害な情報から守るために。

インターネット上には子どもにとって有害な情報が氾濫しています。子どもを有害な情報から守るための有効な手段の一つとして「フィルタリング」が挙げられますが、何より大切なのは、これらの活用と併せて、保護者がインターネットで子どもが何をしているかを見守ることです。

有害サイトアクセス制限サービス

- NTTドコモ** ▶ 【ドコモの携帯電話から局番なし】 **151**
【一般電話から】 ☎0120-800-000
- au** ▶ 【auの携帯電話から局番なし】 **157**
【一般電話から】 ☎0077-7-111
- ソフトバンク** ▶ 【ソフトバンクの携帯電話から局番なし】 **157**
【一般電話から】 ☎0088-21-2000
- ウィルコム** ▶ 【ウィルコムの電話から局番なし】 **116**
【一般電話から】 ☎0120-921-156

※上記番号からの通話料はすべて無料

【有害サイトアクセス制限サービス(フィルタリングサービス)について】

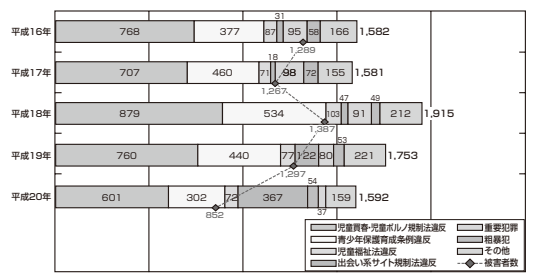
「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律(青少年インターネット環境整備法)」の施行(平成21年4月1日)により、携帯電話-PHSを18歳未満の子どもが利用する場合には、子ども名義または保護者名義であったとしても、フィルタリングサービスに加入しなければならず、解除するには保護者がフィルタリングサービスを利用しない旨を申し出る必要があります。

各事業者のフィルタリングサービスに関する詳細については、上記番号へ問い合わせ、サービス内容を確認してください。

※フィルタリング……一定の基準に基づき、アダルトサイトや暴力的なサイトなど、青少年にとって不適切と思われる多くのホームページを開覧できないようにするための技術的手段。子どもにパソコンや携帯電話を使わせる時は、パソコンの場合は「フィルタリングソフト」(無料提供している団体もある)の導入、携帯電話の場合は携帯電話会社各社が提供する無料の有害サイトアクセス制限サービスを利用するようにしましょう。

「出会い系サイト」に関する事件の検挙状況

平成20年の被害者852人のうち、18歳未満の児童が724人(85.0%)であり、このうち携帯電話を使用した被害児童は714人(98.6%)。



●情報モラルやフィルタリングソフトに関する情報

- 文部科学省
 - 「ちょっと待って、ケータイ リーフレット」
 - ***http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taisaku/1225103.htm
 - 「情報モラル」授業サポートセンター
 - ***<http://sweb.nctd.go.jp/support/index.html>
 - 「ちょっと待って!はじめてのケータイ」リーフレット
 - ***http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taisaku/1225104.htm
 - 「ちょっと待って、ケータイ」(映像資料)教育情報通信ネットワーク エルネットシステム(9ch 情報モラル)
 - ***http://www.elnet.go.jp/elnet_web/portalTop.do
- 財団法人インターネット協会
 - 「インターネットの利用ルールについて」
 - ***<http://www.iajapan.org/rule/>
 - 「フィルタリングソフトについて」
 - ***<http://www.iajapan.org/rating/>
- 財団法人全国防犯協会連合会
 - 「少年がインターネットを安心して利用するために」
 - ***<http://www.iajapan.org/zenboren/ansin2002.html>
- 社団法人電気通信事業者協会(TCA)
 - 「携帯-PHSの利用に関して～有害サイトアクセス制限サービス～」
 - ***<http://www.tca.or.jp/mobile/filtering.html>

家事を手伝わせたなら、子どもがしっかりしてきた。

子どもたちの自己中心的な言動や自立の遅れの背景には、自己責任の考え方が身につけていないことがあります。とかく親は子どもを甘やかしがちで「自分のことは自分でする」などのしつけがされないことが多いようです。

例えば、年齢に応じておこづかいの額やお手伝いなどの家庭内のルールを決め、子どもの成長に応じて責任と自立を促していくことが大事でしょう。「自分の欲しいものを自分のおこづかいで買う」経験は、子どもたちにとってかけがえのないものです。

また、お手伝いは生きていく上で最低限必要な家事を学ぶ第一歩と言えるでしょう。買い物に行けるようになったり、家の中の整理整頓ができるようになることで、自信にもつながります。

責任感や自立心を育てる



子どもの安全のために親が工夫をしよう。

「子どもはいつ事故を起こすかわからないので、目を離さないように注意しましょう」と言われますが、24時間子どもの行動から目を離さないでいることは実際には難しいことです。

子どもの行動をあらかじめ予測して、事故の予防をする工夫をしてみましょう。

例えば、乳幼児期で気をつけたいのは、たばこや医薬品などの誤飲・窒息・やけど・転倒・転落・溺水など。正しいチャイルドシートの装着はもちろん、子どもが口に入れそうなものやポットや炊飯器などは届かない場所に置く、お風呂には子ども一人で入れないように注意する、ベランダなどにはよじ登れそうな台を置かないなど、生活空間をよく見直して、「ダメ!」と叱る回数を減らすコツも身につけたいものです。

危険や事故の防止、対処の仕方を学ぶ

危険を知ることが、 身を守ることにつながる。

行動範囲がぐっと広がる小学生の時期は、大人の目の届かないところで事故や事件に巻き込まれる場合も少なくありません。

大切なのは、子ども自身が何が危険なものなのかを知っておくことと、危険を回避する方法を身につけておくことです。「家の前の道は日中は車が多いから子どもだけで歩くのは危険。ちょっと遠回りになるけれど、車の少ない安全な道を通って遊びに行こうね。」というように、子どもがわかるように、何度も伝えることが大切です。

こうしたやりとりの中で、子どもは危険なものを知り、どう回避するかを学んでいきます。

また、思いがけない危険もあります。例えば、見知らぬ人からイヤなことをされそうになったときには、どうすればよいのかを教えることが大切です。

子どもに危険や事故の防止、対処の仕方について教える

食生活の乱れは、 心身のバランスも乱す。

心身の成長期にある子どもにとって食事は極めて重要なものです。

最近、子どもの朝食欠食や孤食、偏った栄養摂取による肥満傾向の増大、生活習慣病の若年化など、食に起因するさまざまな健康問題が生じています。

子どもの健康な身体^{からだ}の形成のため、栄養バランス(※)のとれた食事をつくってあげる心がけましょう。もちろん、食事は単に子どもに栄養を与えるだけのものではありません。親が心を込めてつくった食事は、親の愛情を自然に子どもに伝え、それによる満足感・安心感は子どもの心を豊かで強いものに育てる機会にもなるのです。

※食事の望ましい組み合わせなどを図示した「食事バランスガイド」について

(財)食生活情報サービスセンター…<http://www.e-shokuseikatsu.com/>

栄養バランスのとれた食事をとる

子どもは遊びが仕事です。

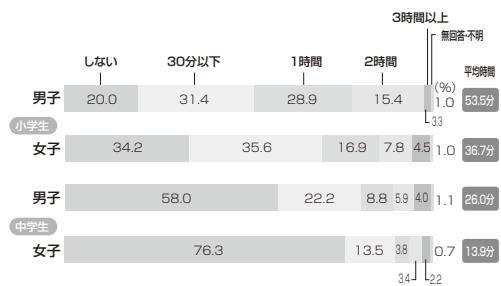
遊びは子どもの心の成長にとっても大切です。小さいころからの遊びを通して、子どもは感覚を働かせ、運動をし、ものをつくり、想像します。しかし、遊びの機会が減るとともに、外で駆けまわるような遊びから、家の中でのひとり遊びが目立つようになりました。

また、親自身も、「小学校に入ったら勉強が第一、遊びは終わり」というような誤った意識への切り替えをしてはいないでしょうか。子どもにとって遊びがいかに大切かを認識して、ゆったりのびのびと遊ばせましょう。



子どもはのびのび遊ばせる

外での遊び・スポーツの時間



(注)「外での遊び・スポーツの時間」には、習い事・部活などの時間は含まれていない。
資料:「放課後の生活時間調査」2008年 Benesse 教育研究開発センター

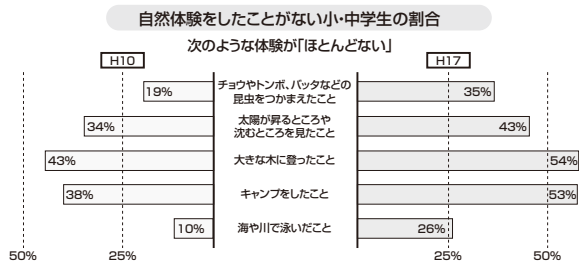




人生で大切なことは、 自然の中で学んだ。

テレビやテレビゲームなど屋内の遊びが増え、自然の中で遊ぶことが少なくなっています。野外で遊ぶことをすすめたり、実際に自然の中に連れだしたりして、動植物や自然とふれあう楽しさに気づかせましょう。地域の自然に親しむ活動に家族ぐるみで参加したり、時には親から離して子ども一人で参加させましょう。

自然の中で遊ぶことで、驚きや感動を体験し豊かな感性をはぐむとともに、自然や環境を大事にする心や忍耐することの大切さなどを学びます。



子どもは自然の中で遊ばせる

子どもは親の姿を見て 学んでいく。

親に感謝し、親を思いやる心は、広く他人を思いやる心の基となる大切なものです。まず親が自らの親である祖父母を大切にする姿を見せることを心がけましょう。

大人たちは、自らの親への接し方や、思いやりのある社会のために何かが必要かについて、子ども自身から問われているのだということを考えましょう。



親が率先して祖父母を大切にする

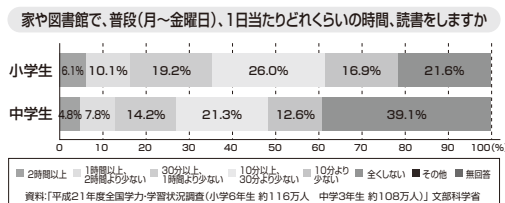


いい本に出会うことは、 いい人に出会うことに似ている。

読書は、想像力や考える習慣を身につけ、豊かな感性や情操、思いやりの心をはぐむことができます。ですから、テレビやマンガが好きの子にも、本を読む時間をもつように家庭で習慣づけたいものです。

そのためにも、食事の時間のように「読書の時間」を設ける、親子で図書館に行く、親も一緒に本を読むなど工夫し、子どもが読書の楽しさと出会えるきっかけをつくりましょう。

また、読書を通じて子どもが感じたり考えたりしたことに耳を傾け、話し合うなど、親子の会話を増やし深める契機として読書を活用することも大事です。



感動する本との出会いを大切にする

夢をもつと、 人は強くなる。

今の子どもは冷めていて、将来の夢や希望ももたず、難しい目標はチャレンジする前にあきらめてしまうと言われています。しかし、子どもは子どもなりに夢や希望をもっています。どんなに小さく、どんなにヘンに思えるものでも、その夢や希望に耳を傾けましょう。

また、自分の経験や、長い間にわたって苦労して夢を実現した人々の生き方などを折にふれて話しましょう。そして人生の目標は汗を流し、失敗を重ねながら達成していくものだ、励まし、あたたかく見守っていきましょう。

親は子どもの応援団です。

子どもの夢や希望に耳を傾け励ます

完璧^{べき}な人なんて どこにもいない。

親が完璧主義にとらわれて自分や子どもに完全を期待すると、小さな失敗やミスにも過敏になり、イライラやストレスがたまります。それがエスカレートして育児不安や幼児虐待にもつながりかねません。

子どもは親の思い通りに動かなくて当たり前です。大事なところはきっちり押さえても、小さなことまではこだわらず、多少のことには動じない余裕をもつことが大切です。

子どもにとっても、完璧を目指す子育てより、肩の力を抜いた子育ての方が、のびのび育っていけるはずです。

肩の力を抜いて子育てをしたい

自分で考え自分で行動 できる人に育ってほしいなら。

子どもの進む先の障害物を先回りしてとけたり(過保護)、一挙一動にあれこれ指示をしたり(過干渉)するのではなく、子どもが好きなものを見つけるまで待ち、できるだけ子どもの力を信頼し、それを見守り、カブけましょう。あれこれしないで見守ることは、モノを買ってやったり何かをしてやったりするより、ずっと難しく愛情がいることです。

また、親は自分が子どものために考えたことは正しいと思いがちですが、必ずしもそうとは限りません。自分の思いや考えを押しつけるのではなく、「あなたはどう思う?」と、まず子どもの言い分をじっくり聞き、子どもの気持ちをしっかり受け止めてから、「自分はこう思うんだが」と、一緒に考え一緒に学んでいく姿勢が大切です。

子どもが自分で考え、勇気をもって行動し、達成感を味わう、または失敗から学び強くなるチャンスなどを子どもから奪わないように気をつけましょう。

過保護や過干渉はやめる

同じ子どもなんて 一人もいない。

テストで何点とったか、どれだけ何々ができるかなどと、他の子どもや平均値との比較に目を奪われ、自分の期待から子どもを評価することは、子どもたち一人一人の個性や成長のために良くありません。そういう親の下では、子どもまで相対的な順位ばかりを気にするようになり、自信をなくしたりしがちです。親は、比較して不安になるのではなく、どんなときも子どもの個性と成長を信じ、ゆっくりゆっくり育てたいものです。



他の子との比較にとらわれない

ダメなところを責めるより、 良いところを増やしていこう。

子どもに大切なのは、自信と、自分を大切にできる力です。それは植物の根のようなもので、深く広く張るほど大きな実りをもたらします。表面的なことにとらわれることなく、その子が大きく育つことを信じて心に豊かな水や栄養を与えましょう。

そして、その水や栄養となるのが、子どもの良いところを見だし、ほめることです。叱るべきときは叱り、ほめるべきときはちゃんとほめる。一つ叱ったら三つほめるぐらいのバランスを心がけましょう。ほめられることで子どもは喜びを感じ、自信や自尊心を育てていくのです。

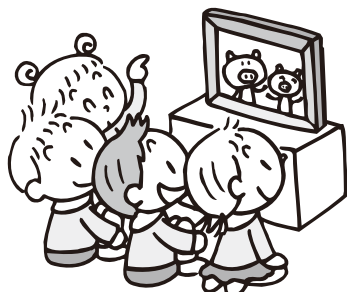


良いところを見つけてほめる

生活リズムの確立に向けて

◇日本小児科医会からの具体的提言◇

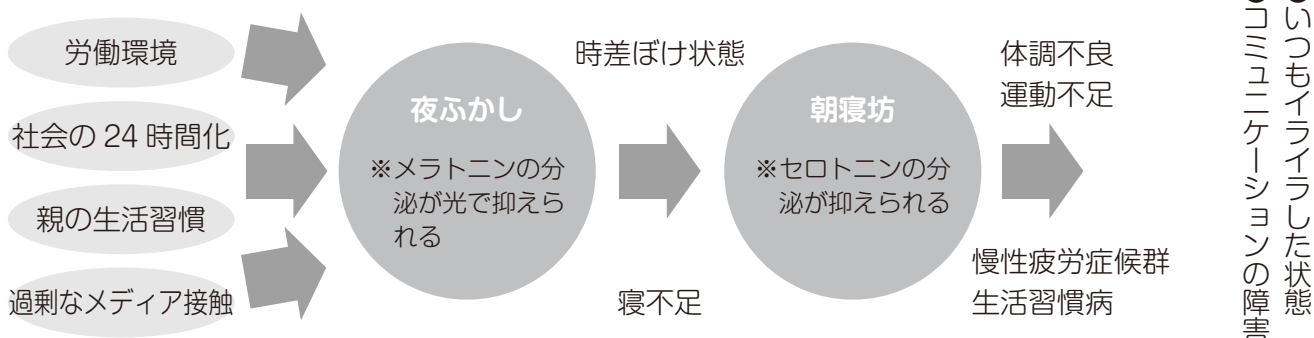
(2004年 日本小児科医会「子どもとメディア」対策委員会)



- ① 2歳までのテレビ・ビデオ視聴は控えましょう。
- ② 授乳中、食事時のテレビ・ビデオの視聴は止めましょう。
- ③ すべてのメディアへ接触する総時間を制限することが重要です。1日2時間までを目安と考えます。テレビゲームは1日30分までを目安と考えます。
- ④ 子ども部屋にはテレビ、ビデオ、パーソナルコンピューターを置かないようにしましょう。
- ⑤ 保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールをつくりましょう。

メディアとの接触が低年齢化・長時間化することで、親子で遊んだり、外遊びをしたりする時間が不足し、そのことが心や言葉の発達を妨げていると懸念されています。

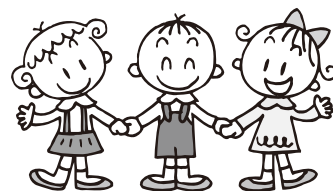
◇夜ふかしからくる諸問題◇



大人の夜型の生活スタイルに子どもをあわせてしまうと、慢性的な寝不足になり、心身の発達に大きな影響を与えることが心配されています。

明日から取り組もう7ヶ条！

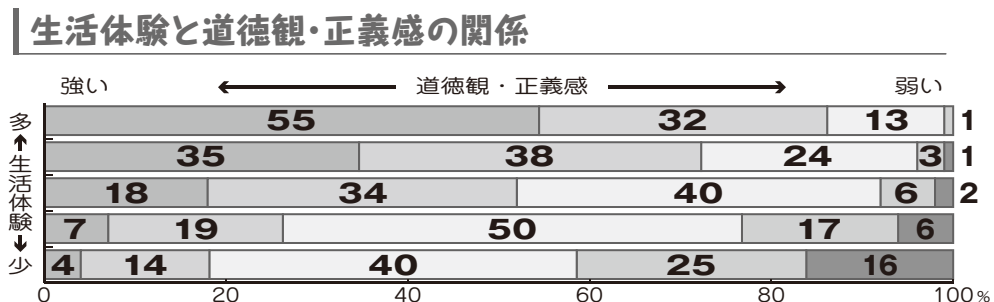
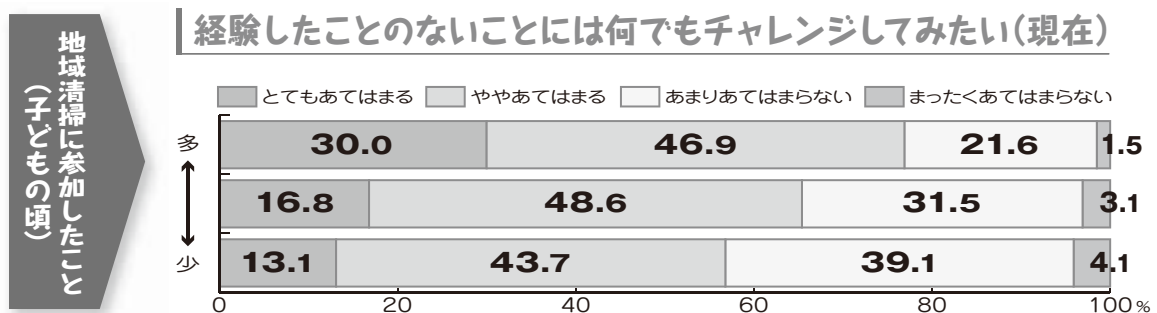
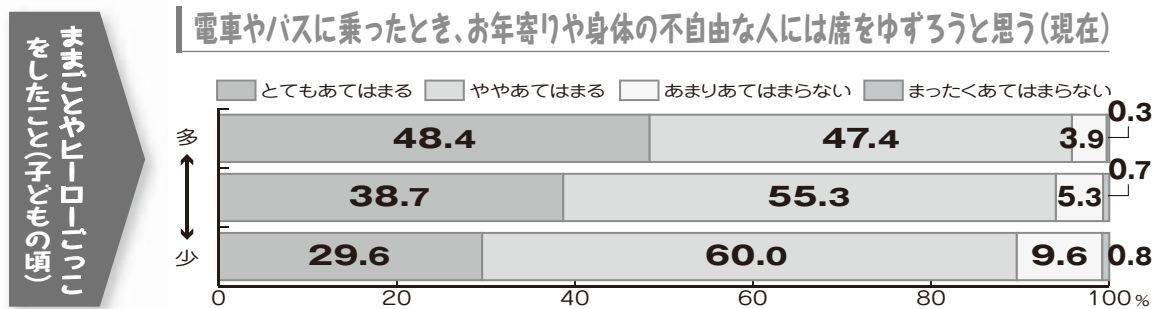
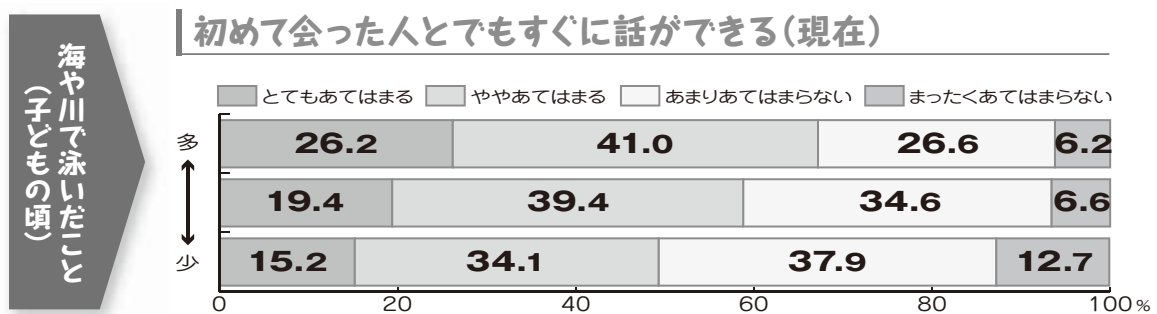
- ★まずは朝のカーテン開けから始めましょう！
- ★いつもより、10分早めに起こしてみましよう！
- ★朝食は少なくとも、①ごはんのみそ汁、②パンと牛乳、③バナナとヨーグルトのような組み合わせでバランスよく！
- ★日中はしっかり遊ばせて、夜はぐっすり睡眠！
- ★「テレビの子守」を10分短くしてみましよう！
- ★「おやすみなさい」へのルールづくり！
- ★眠り小物（ぬいぐるみなど）を枕元に！



子どもの頃の体験は 豊かな人生の基盤になります!

子どもの頃の様々な体験が豊富な人ほど、大人になってからの生きがい、モラルや人間関係能力などの資質や能力が高い傾向にあります。

普段からの、友だちとの遊び、お手伝いや地域活動などは、子どもたちの健やかな成長には大切なものなのです。



出典：国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」
「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査(平成21年度調査)」

親学プログラム推進委員会

■推進委員

	氏名	所属等	備考
1	高橋 憲二	島根県立大学短期大学部教授	委員長
2	安部 隆	島根県市町村教育長会代表	
3	南場 安正	島根県保育協議会代表	平成23年5月23日～平成23年12月18日
	中山 哲夫		平成23年12月19日～
4	杉原 充知恵	島根県国公立幼稚園長会代表	
5	下前 克己	島根県小学校長会代表	
6	山下 孝治	島根県PTA連合会代表	
7	角 昭	島根県公民館連絡協議会代表	
8	小谷 妙子	松江市子育て支援センター保育士	
9	赤松 朱美	親学ファシリテーター代表	
10	金山 峰子	親学ファシリテーター代表	

■事務局

1	下岡 博司	東部社会教育研修センター 所長	
2	安野 光城	西部社会教育研修センター 所長	
3	廣田 英資	東部社会教育研修センター 研修調査G課長	
4	難波 淳	// 社会教育主事	
5	三保 貴資	// 社会教育主事	
6	山本 浩樹	西部社会教育研修センター 社会教育主事	
7	島田 謙一	// 社会教育主事	
8	恩田 吉久	東部社会教育研修センター 嘱託	
9	家田 ゆかり	西部社会教育研修センター 嘱託	

【参考文献】

■文部科学省『家庭教育手帳』

- ドキドキ子育て 乳幼児編（平成22年度版）
- ワクワク子育て 小学生（低学年～中学年）編（平成22年度版）
- イキイキ子育て 小学生（高学年）～中学生編（平成22年度版）

■『子どもを守る地域安全マップを作ろう』

特定非営利活動法人「子どもの危険回避研究所」

■『協力すれば何かが変わる《続・学校グループワーク・トレーニング》』遊戯社

坂野公信・日本学校GWT研究会

■『新グループワーク・トレーニング』遊戯社

(財)日本レクリエーション協会

■『学校グループワーク・トレーニング』遊戯社

坂野公信・横浜市学校GWT研究会

■国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」

「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」（平成21年度調査）

家庭教育支援を行う人のための 親学プログラム

平成24年3月発行

編集・発行

■島根県立東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1191-2
TEL (0853) 67-9060 FAX (0853) 69-1380
http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/

■島根県立西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1
TEL (0855) 24-9344 FAX (0855) 24-9345
http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/

ご意見・ご感想をお寄せください。

